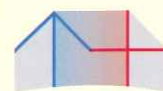


第17回男女共同参画学協会連絡会

シンポジウム(2019) 資料集

科学・技術分野の 次世代育成と 環境づくり



男女共同参画
学協会連絡会

2019年10月12日(土)

お茶の水女子大学 共通講義棟1,2号館

プログラム

午前の部 9:50~11:30
招待講演

昼の部 11:30~13:00
ポスターセッション

午後の部 13:00~17:00
来賓挨拶
基調講演
招待講演
パネルディスカッション

懇親会 17:30~19:30 於:大学生協

主催

男女共同参画学協会連絡会

共催

お茶の水女子大学

後援

内閣府男女共同参画局 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 科学技術振興機構
日本学術会議 日本経済団体連合会 経済同友会 日本商工会議所 国立大学協会
日本私立大学連盟 国立女性教育会館

目次

I. 男女共同参画学協会連絡会 第 17 期委員長挨拶	1
II. 男女共同参画学協会連絡会の概要	3
III. 第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム	
・ プログラム.....	4
・ 午前の部 講演者紹介.....	6
・ 午後の部 講演者紹介.....	7
・ ポスター発表参加一覧	
加盟学協会.....	8
大学・研究機関他.....	9
IV. 第 17 期男女共同参画学協会連絡会 活動報告	
・ 第 17 期男女共同参画学協会連絡会活動報告.....	10
・ 第 17 期男女共同参画学協会連絡会担当者.....	14
・ ワーキンググループ活動一覧.....	15
・ ワーキンググループ活動報告.....	17
V. 加盟学協会 活動報告	20
VI. 大学・研究機関他 活動報告	62
VII. 男女共同参画学協会連絡会規約・細則	71
VIII. 会場案内図	74

第 17 期委員長挨拶

高エネルギー加速器研究機構 教授
野尻 美保子 (日本物理学会)

男女共同参画学協会連絡会 (Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)) は、今年設立 17 年目を迎え、正式加盟 55 団体、オブザーバー加盟 52 団体 (10 月 13 日現在) と、100 団体を超える組織となりました。日本物理学会は昨年 11 月より第 17 期幹事学会として活動を開始してきました。幹事学会となるのは、第 2 期に続き 2 度目となります。今期は大規模アンケートを踏まえた提言要望書作成や、英文抄訳の作成などがありました。多くの学協会の意見を取り込みながら、提言要望書を成立させる上で、合意形成の難しさを感じるとともに、本連絡会が、各学協会を構成員としている団体であることを踏まえ、普段から、学協会執行部とのコミュニケーションを図っていく必要を痛感しています。

今期は、新しく設置された、運営検討 WG での議論をきっかけとして、提言要望 WG の志牟田先生を中心として、学協会連絡会のアンケートの結果や、要望書の内容について、どの程度の学協会で活用されているかの調査が行われました。その結果、正式加盟学協会では 25%、オブザーバー加盟学協会では 46% が、大規模アンケートの解析結果を学協会員に周知しておらず、また理事会等に対する周知も行われていない状況であることがわかりました。一方で、周知活動が行われている学協会からは、アンケートを行うことで問題意識が深まり、状況の改善へのきっかけとなったという意見が寄せられています。学協会連絡会の活動が現在の各学協会の活動と理解の上に成り立っていることを意識しつつ、今後の活動が継続されていくことが重要だと思います。

日本物理学会の個人会員 16,000 人は国内でも有数の大規模学会ですが、女性の入会比率はここ 20 年間 10% 程度であり、また、せっかく入会した女性会員も、ライフイベントを迎える時期に分野を離れていく傾向が見えています。STEM 分野では、資格が取れる学科に女子学生が集まり、また生物分野に多く女性が集まる傾向が強いことから、物理分野は悪循環にあると言えるでしょう。これは日本だけの傾向ではなく、程度の差はあれ欧米諸国でも見られる現象で、アメリカ、イギリスなどでは、現在でも物理を専攻する女子比率は 20% 程度となっています。このような女性の志望分野の偏りに対して、ロールモデルの提供や、高校の女子学生に対する進路選択支援などの活動が行われてきましたが、目立った変化は見られません。小学校高学年から中学校にかけて、理系に興味を持つ女子が減っていくことから、このような問題を解決するためには、小中高における教育カリキュラムの中に、ジェンダーバイアスやステレオタイプ脅威から子供を守るという観点が必要と考えられます。保護者や教職員などに対する啓発が行ない、すべての子供の、健全な能力の発揮を即す環境

づくりが急がれます。第 15 期幹事学会では「無意識のバイアスーUnconscious Biasーを知っていますか？」のリーフレットも作成されましたが、今後、初等中等教育に関わる方との連携もより密に行っていく必要があると感じます。

また、今期は、運営体制について検討が行われ、直近の運営委員会においては、社団法人化などの方策の検討を開始することが承認されました。所属団体の数が増えてきた中で、本会の活動を円滑に進めていくために、これまでの活動の良さを残しながら、社会的に安定した組織を作っていく必要があるでしょう。今後とも皆様のなお一層のご理解とご協力をお願いするとともに学協会連絡会を中心として女性技術者、研究者に有効な実効性のある社会構築に向けて進みたいと思います。

男女共同参画学協会連絡会

自然科学系の分野で働く女性科学者の数は、わが国では諸外国に比べ著しく少なく、また、少子化の進行により、将来の技術者不足が憂慮されており、女性科学者への期待は高まっています。
自然科学系分野の男女共同参画を進めるために、学協会が連携して男女共同参画学協会連絡会を設立しました。

<http://www.djrenrakukai.org/index.html>

■ ■ これまでの活動 ■ ■

大規模アンケート調査

今後の男女共同参画推進における課題を明らかにするために、科学技術系専門職の男女共同参画実態調査を行っています。

- 第1回「21世紀の多様化する科学技術研究者の理想像－男女共同参画推進のために」
平成15年度(2003年) 文部科学省委託事業報告書
<http://www.djrenrakukai.org/2003enquete/index.html>
- 第2回「科学技術系専門職における男女共同参画学協会連絡会共同参画の大規模調査」
平成19年度(2007年) 文部科学省委託事業報告書
<http://www.djrenrakukai.org/enquete.html#enqH19>
- 第3回「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」
平成24年(2012年) 11月実施
<http://www.djrenrakukai.org/enquete.html#enq2012>
- 第4回「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」
平成28年(2016年) 10月実施
<http://www.djrenrakukai.org/enquete.html#enq2016>

シンポジウム開催

男女共同参画推進に関するシンポジウムを毎年開催しています。

- 設立記念集会(2002, 東京) ■ 1周年記念シンポジウム(2003, 東京)「男女が共に生きる社会」 ■ 2周年記念シンポジウム(2004, 東京)「多様化する科学技術研究者の理想像：学協会アンケートが示すもの」 ■ 3周年記念シンポジウム(2005, 東京)「21世紀の産業を拓く男女共同参画社会」 ■ 第4回シンポジウム(2006, 東京)「育て、女性研究者!! 理工系女性研究者支援の新しい波」 ■ 第5回シンポジウム(2007, 愛知)「真の男女共同参画へ向けて意識を変えよう!!」 ■ 第6回シンポジウム(2008, 京都)「科学・技術の成熟と新たな創造をめざして－第二回連絡会アンケート調査報告から学ぶもの－」 ■ 第7回シンポジウム(2009, 東京)「持続可能社会と男女共同参画」 ■ 第8回シンポジウム(2010, 埼玉)「男女共同参画と社会」 ■ 第9回シンポジウム(2011, 茨城)「今、社会が科学者に求めること－ソーシャル・ウィッシュ」 ■ 第10回シンポジウム(2012, 東京)「科学・技術における性差」 ■ 第11回シンポジウム(2013, 東京)「多様性尊重社会を目指して－第3回大規模アンケート結果報告より－」 ■ 第12回シンポジウム(2014, 東京)「女性研究者・技術者を育む土壌～連携・融合による支援をめざして～」 ■ 第13回シンポジウム(2015, 東京)「国際的な視点から見た男女共同参画の推進」 ■ 第14回シンポジウム(2016, 東京)「国際的にみて日本の研究者における女性割合はなぜ伸びないのか?」 ■ 第15回シンポジウム(2017, 東京)「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」 ■ 第16回シンポジウム(2018, 東京)「今なお男女共同参画をはばむもの 新たな次のステップへ」 ■ 第17回シンポジウム(2019, 東京)「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」

■ 正式加盟学協会

化学工学会, 高分子学会, 日本宇宙生物科学会, 日本化学会, 日本原子力学会, 日本女性科学者の会, 日本植物生理学会, 日本数学会, 日本生化学会, 日本生態学会, 日本生物物理学会, 日本生理学会, 日本蛋白質科学会, 日本動物学会, 日本比較内分泌学会, 日本物理学会, 日本森林学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本神経科学学会, 日本バイオイメージング学会, 日本糖質学会, 日本育種学会, 日本結晶学会, 日本地球惑星科学連合, 日本繁殖生物学会, 生搬工学会, 錯体化学会, 日本進化学会, 日本遺伝学会, 日本建築学会, 種生物学会, 日本獣医学会, 日本質量分析学会, 日本魚類学会, 日本畜産学会, 日本水産学会, 日本木材学会, 日本技術士会, 日本植物学会, 園芸学会, 日本農芸化学会, 日本解剖学会, 日本魚病学会, 日本中性子科学会, 「野生生物と社会」学会, 計測自動制御学会, 日本体力医学会, 日本熱帯医学会, 日本応用数理学会, 日本衛生学会, 日本健康学会, 日本内分泌学会, 日本国際保健医療学会, 日本海洋学会, 日本地形学連合

■ オブザーバー加盟学協会

映像情報メディア学会, 自動車技術会, 精密工学会, 地盤工学会, 電気化学会, 日本データベース学会, 日本液晶学会, 日本磁気学会, 日本火災学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本女性技術者フォーラム, 日本鉄鋼協会, 日本分析化学会, 土木学会, 石油学会, 日本科学者会議, 日本バイオインフォマティクス学会, 日本水産増殖学会, 日本表面真空学会, 日本鳥学会, 日本放射光学会, 歯科基礎医学会, 日本セラミックス協会, 植物化学調節学会, 日本天文学会, 日本植物細胞分子生物学会, 日本組織細胞化学会, 応用物理学会, 日本流体力学会, 電子情報通信学会, プラズマ・核融合学会, 日本数式処理学会, 日本植物病理学会, 日本発生生物学会, 日本蚕糸学会, 日本霊長類学会, 日本土壌肥科学会, 日本放射線影響学会, 日本DNA多型学会, 日本食品科学工学会, 日本腎臓学会, 日本薬学会, 日本脂質栄養学会, 軽金属学会, 日本科学教育学会, 日本航空宇宙学会, 日本衛生動物学会, 日本分子生物学会, 日本神経化学会, 日本燃焼学会, 環境ホルモン学会

■ 幹事学会

第1期(応用物理学会), 第2期(日本物理学会), 第3期(日本化学会, 日本原子力学会), 第4期(日本分子生物学会), 第5期(日本生物物理学会), 第6期(日本地球惑星科学連合), 第7期(電子情報通信学会), 第8期(高分子学会), 第9期(日本宇宙生物科学会・生態工学会), 第10期(日本生理学会), 第11期(日本動物学会), 第12期(日本数学会), 第13期(日本植物生理学会/日本植物学会), 第14期(日本生化学会), 第15期(化学工学会), 第16期(日本建築学会), 第17期(日本物理学会)

-3-

- 連絡先 日本物理学会 男女共同参画学協会連絡会 第17期事務局 E-mail: danjo_office17@djrenrakukai.org

設立年月:

2002年 10月

設立の目的:

自然科学分野の男女共同参画推進

加盟学協会(2019年8月28日現在):

107(正式加盟 55, オブザーバー加盟 52)

提言・要望活動

左記のアンケート調査結果に基づき、男女共同参画推進のための提言や要望をまとめました。(以下、一部抜粋)

<http://www.djrenrakukai.org/request/index.html>

<http://www.djrenrakukai.org/proposal.html>

- 第5期科学技術基本計画及び第4次男女共同参画基本計画に対する男女共同参画学協会連絡会からの要望(2015.6)
- 科学技術分野における男女参画の推進に向けての要望(2014.4)
- 今こそ、科学・技術分野に多様性を－男女共同参画の加速に向けての要望－(2012.3)
- 科学技術分野での男女共同参画の推進に向けての要望(2010.8, 2009.12)
- 「女性研究者支援モデル育成」事業の推進と拡充, 出産・子育て等支援制度の拡充, ならびに任期付職の育児支援等に必要な施策の実現に関する要望(2008.7)
- 研究助成への申請枠拡大に関する提言(2004.11.9 採択)
- 科学技術研究者に適した育児支援制度の整備に関する提言(2004.10.7 採択)

その他の主な活動内容

■ ワーキンググループ活動

女子中高生理系進路選択支援, 若手育成, 女性研究者の採用促進に関する他国の政策と効果の調査, 学会を含むリーダーシップ活動の機会均等, プレアンケート, 大規模アンケート実施, 大規模アンケート解析, 大規模アンケートフォローアップ, 提言・要望書, 研究者のワークライフバランスなど

■ 学協会連絡会 女性比率調査

<http://www.djrenrakukai.org/enquete.html#ratio>

■ 加盟学会の活動調査

<http://www.djrenrakukai.org/enquete.html#activity>

第 17 回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」

- 【日時】 2019 年 10 月 12 日（土） 9:50 ～ 17:00
- 【場所】 お茶の水女子大学 共通講義棟 1・2 号館（東京都文京区大塚 2-1-1）
- 【主催】 男女共同参画学協会連絡会
- 【共催】 お茶の水女子大学
- 【後援】 内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、
科学技術振興機構、日本学術会議、日本経済団体連合会、経済同友会、
日本商工会議所、国立大学協会、日本私立大学連盟、国立女性教育会館

《プログラム》

（敬称略）

◆ 午前の部： 9:50～11:30 （2 号館 201 教室）

- 9:50-10:00 17 期委員長挨拶
野尻 美保子（日本物理学会・高エネルギー加速器研究機構 教授）
- 10:00-10:30 「女子中高生夏の学校」15 年間のこれまでとこれから
山本 文子（芝浦工業大学 大学院理工学研究科 教授）
- 10:30-11:00 現場における男女共同参画教育 —「大妻みらい科」の取り組み—
成島 由美（大妻中学高等学校 校長）
- 11:00-11:30 GEAHSS — 人文社会科学系学協会をジェンダー平等でつなぐ試み
井野瀬 久美恵（甲南大学 文学部 教授）

◆ ポスターセッション（兼昼食）： 11:30～13:00 （1 号館 204, 205 教室）

◆ 来賓挨拶： 13:00～13:30 （2 号館 201 教室）

- 永江 知文 （日本物理学会 会長・京都大学 大学院理学研究科 教授）
室伏 きみ子 （お茶の水女子大学 学長）
池永 肇恵 （内閣府 男女共同参画局長）
松尾 泰樹 （内閣府 政策統括官（科学技術・イノベーション担当））
浅田 和伸 （文部科学省 総合教育政策局長）
渡辺 美代子 （科学技術振興機構 副理事・ダイバーシティ推進室長）

◆ 午後の部： 13:30～17:00 （2号館 201 教室）

13:30-14:00 基調講演 1

SDGs 実現の要（レバレッジポイント）としての男女共同参画

田瀬 和夫（SDG パートナーズ有限公司 代表取締役 CEO）

14:00-14:30 基調講演 2

男女共同参画学協会連絡会の要望書について

～第 6 期科学技術基本計画及び第 5 次男女共同参画基本計画に向けて～

平田 典子（日本大学 理工学部 教授）

14:30-14:45 休憩

14:45-15:15 博士人材の各種調査からみた男女共同参画

三木 清香（環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室長）

15:15-15:45 大学院生のキャリアパスと男女共同参画

栗本 猛（富山大学 教養教育院 教授・

日本物理学会 キャリア支援センター長）

15:45-16:45 パネルディスカッション（パネラー：講演者の皆様）

司会 野中 千穂（日本物理学会 男女共同参画推進委員長・

名古屋大学 素粒子宇宙起源研究機構 准教授）

16:45-17:00 17 期委員長まとめ

野尻 美保子（日本物理学会・高エネルギー加速器研究機構 教授）

第 18 期委員長挨拶

熊谷 日登美（日本農芸化学会 ダイバーシティ推進委員長・

日本大学 生物資源科学部 教授）

◆ 集合写真撮影 17:00～

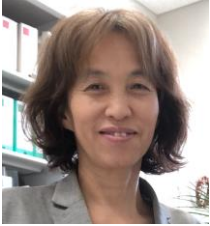
◆ 懇親会 17:30～19:00 （大学食堂マルシェ）

司会： 佐野 幸恵（日本物理学会・

筑波大学 大学院システム情報工学研究科 助教）

午前の部 講演者紹介

講演タイトル：「女子中高生夏の学校」15年間のこれまでとこれから

	やまもと あやこ 山本 文子 氏 芝浦工業大学 国際理工学専攻 教授 NPO 法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト代表
略歴：1989年東北大学理学研究科化学専攻博士課程前期終了、1989年東北大学金属材料研究所超高压化学研究部門助手、1992年国際超電導産業技術研究センター超電導工学研究所主任研究員、2005年理化学研究所基幹研究所研究員、2013年同研究所創発物性科学研究センター上級研究員を経て、2015年より現職。2018年「女子中高生夏の学校」実行委員長。	

講演タイトル：現場における男女共同参画教育 —「大妻みらい科」の取り組み—

	なるしま ゆみ 成島 由美 氏 大妻中学高等学校 校長 / 学校法人大妻学院理事 株式会社 ベネッセコーポレーション 顧問
略歴：1970年1月3日生、東京女子大学文理学部卒業、早稲田大学大学院商学研究科卒業、経営管理修士(MBA)。1992年株式会社福武書店（現ベネッセホールディングス）入社。小学生、中学生、高校生向け教育事業に携わる。30代で業績のV字回復、最年少執行役員に。2015年～厚労省労働政策審議会委員、学校法人大妻学院理事に就任。2017年から大妻中学高等学校校長、(株)ベネッセコーポレーション顧問（現任）夫婦別姓を選択、一児の母。	

講演タイトル：GEAHSS — 人文社会科学系学協会をジェンダー平等でつなぐ試み

	いの せ く み え 井野瀬 久美恵 氏 甲南大学 文学部 教授 人文社会科学系学協会における男女共同参画推進連絡会(GEAHSS) 委員長
略歴：1958年愛知県生まれ。1980年京都大学文学部英文学科卒業、1982年京都大学文学部西洋史学科（学士入学）卒業、1988年同研究科(西洋史学専攻)博士課程単位取得退学。博士(文学)。1988年追手門学院大学文学部専任講師、1991年甲南大学文学部助教授を経て2000年より現職。専門はイギリス近現代史、大英帝国史。甲南大学文学部長、日本学術会議第23期副会長、文科省科学技術学術審議会委員など歴任	

午後の部 講演者紹介

講演タイトル：SDGs 実現の要(レバレッジポイント)としての男女共同参画



た せ か ず お

田瀬 和夫 氏

SDG パートナーズ有限会社 代表取締役 CEO

略歴：東京大学工学部原子力工学科卒、同経済学部中退、ニューヨーク大学法学院客員研究員。1992 年外務省に入省し、人権難民課、アフリカ二課、国連日本政府代表部一等書記官などを歴任。その後、国連、デロイトトーマツコンサルティングを経て、2017 年 9 月に新会社 SDG パートナーズを設立して現職。

講演タイトル：男女共同参画学協会連絡会の要望書について

～第 6 期科学技術基本計画及び第 5 次男女共同参画基本計画に向けて～



ひ ら た の り こ

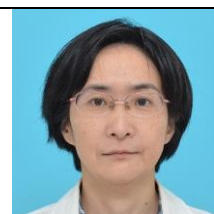
平田 典子 氏

日本大学 理工学部 教授

提言・要望書 WG 委員長

略歴：パリ大学大学院修了、理学博士・Ph.D.、パークレイ数学研究所、IHES 高等数学研究所、バーゼル大学、コロラド大学、東京工業大学など勤務、2002 年より現職、文部科学省 科学技術・学術政策研究所 ナイスステップな研究者 2008

講演タイトル：博士人材の各種調査からみた男女共同参画



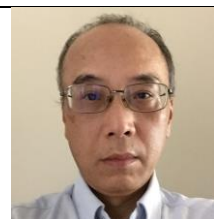
み き き よ か

三木 清香 氏

環境省 大臣官房総合政策課 環境教育推進室長

略歴：1995 年東北大学理学部生物学科卒業。1994 年から 2007 年まで衆議院事務局にて調査業務に従事。2007 年から文部科学省に勤務し、研究開発局海洋地球課、原子力損害賠償和解仲介室、科学技術・学術政策局企画評価課、科学技術・学術政策研究所企画課等を経て、2019 年 7 月より現職。

講演タイトル：大学院生のキャリアパスと男女共同参画



く り も と た け し

栗本 猛 氏

富山大学 教養教育院 教授

日本物理学会 キャリア支援センター長

略歴：1987 年大阪大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)、1987 年大阪大学教養部助手、1994 年大阪大学理学部助手(改組による配置変)、1995 年富山大学理学部助教授、2005 年富山大学理学部教授、2006 年富山大学大学院理工学研究部教授を経て 2019 年から現職

ポスター発表参加 一覧

加盟学協会（学協会 ID 順）

PE-01	公益社団法人	化学工学会	
PE-02	公益社団法人	高分子学会	
PE-03	日本宇宙生物科学会		
PE-04	公益社団法人	日本化学会	
PE-05	一般社団法人	日本原子力学会	
PE-06	一般社団法人	日本女性科学者の会	
PE-07	一般社団法人	日本植物生理学会	
PE-08	一般社団法人	日本数学会	
PE-09	一般社団法人	日本生態学会	
PE-10	一般社団法人	日本生物物理学会	
PE-11	公益社団法人	日本動物学会	
PE-12	一般社団法人	日本物理学会	
PE-13	一般社団法人	日本森林学会	
PE-14	公益社団法人	日本地球惑星科学連合	
PE-15	生態工学会		
PE-16	一般社団法人	日本建築学会	
PE-17	公益社団法人	日本獣医学会	
PE-18	一般社団法人	日本質量分析学会	
PE-19	公益社団法人	日本水産学会	
PE-20	公益社団法人	日本技術士会	
PE-21	公益社団法人	日本植物学会	
PE-22	日本農芸化学会		
PE-23	公益社団法人	日本金属学会／一般社団法人	日本鉄鋼協会
PE-24	日本女性技術者フォーラム		
PE-25	公益社団法人	応用物理学会	
PE-26	一般社団法人	プラズマ・核融合学会	
PE-27	一般社団法人	軽金属学会	

大学・研究機関他

- P0-01 名古屋大学
- P0-02 北海道大学 人材育成本部女性研究者支援室
- P0-03 大阪大学 男女協働推進センター
- P0-04 東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター
- P0-05 大阪府立大学 女性研究者支援センター
- P0-06 九州大学
- P0-07 国立研究開発法人 産業技術総合研究所
- P0-08 広島大学 男女共同参画推進室
- P0-09 埼玉大学 男女共同参画室
- P0-10 大阪市立大学
- P0-11 国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所
- P0-13 富山大学

ワーキンググループ

- PW-01 女性科学者技術者の活躍促進 に関する 施策と効果の国際調査 WG
- PW-02 女子中高生理系進路選択支援 WG

第17期 男女共同参画学協会連絡会 活動報告

幹事学会 一般社団法人 日本物理学会

Report of Activities during the 17th year of the Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)

The 17th secretary office: The Physical Society of Japan

Abstract: This report summarizes our activities, such as events, studies and proposals & requests, during the 17th year (November 2018-October 2019) of EPMEWSE.

<概要>

幹事学会: 日本物理学会

第17期幹事学会として、2018年11月1日から1年間、本連絡会の運営委員会開催、および事務局運営を担当しました。

[組織]

委員長: 野尻美保子

副委員長: 遠山貴巳

運営・庶務担当: 福島孝治(責任者)、佐野幸恵

シンポジウム担当: 曹基哲(責任者)、藤井保彦(責任者)、板倉明子、市川温子、門信一郎、鹿野豊、中本有紀、野中千穂、比連崎悟、藤原正澄、細越裕子、笹尾真実子

会計担当: 糸井充穂(責任者)、山本 文子

事務局: 根岸正己(責任者)、岡村裕子、宮野佳織

会計監事: 寺田宏、須藤智宏(日本建築学会)

[運営委員会]

下記の3回の運営委員会を東京大学駒場キャンパスにて開催しました。

第1回 2018年12月10日(数理研究科大講義室)

第2回 2019年3月27日(数理研究科大講義室)

第3回 2019年8月30日(18号館ホール)

<主催行事>

○第17回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

下記の共催および後援のもと、2019年10月12日にお茶の水女子大学共通講義棟1・2号館において開催しました。

共催: お茶の水女子大学

後援: 内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、科学技術振興機構、日本学術会議、日本経済団体連合会、経済同友会、日本商工会議所、国立大学協会、日本私立大学連盟、国立女性教育会館

[プログラム概要]

全体テーマ: 「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」

午前の部

講演「「女子中高生夏の学校」15年間のこれまでとこれから」

山本 文子(芝浦工業大学 教授)

講演「現場における男女共同参画教育 ―「大妻みらい科」の取り組み―」

成島 由美(大妻中学高等学校 校長)

講演「GEAHSS―人文社会科学系学協会をジェンダー平等でつなぐ試み」

井野瀬 久美恵(甲南大学 教授)

昼の部

ポスターセッション 40件

午後の部

・基調講演 1「SDGs 実現の要(レバレッジポイント)としての男女共同参画」

田瀬 和夫(SDG パートナーズ株式会社

代表取締役 CEO)

・基調講演 2「男女共同参画学協会連絡会の要望書について～第6期科学技術基本計画及び第5次男女共同参画基本計画に向けて～」

平田 典子(日本大学 教授)

・講演「博士人材の各種調査からみた男女共同参画」

三木 清香(環境省大臣官房総合政策課
環境教育推進室長)

・講演「大学院生のキャリアパスと男女共同参画」

栗本 猛(富山大学 教授・日本物理学会
キャリア支援センター長)

パネルディスカッション

パネリスト: 講演者

司会: 野中 千穂(日本物理学会男女共同

参画推進委員会委員長・名古屋大学 准教授)

○ 日中韓女性科学技術指導者フォーラム 2019

「女性科学者技術者の活躍促進に関する施策と効果の国際調査」WG(コア学会: 日本女性科学者の会

委員長：野呂知加子氏）が企画したフォーラムを NPO 日本女性技術者科学者ネットワークとの主催により、2019 年 10 月 11 日（金）にお茶の水女子大学において開催されました。

＜主な活動＞

(1) 第 4 回大規模アンケート（科学技術系専門職の男女共同参画実態調査）英文抄訳の作成

第 4 回大規模アンケート結果の英文抄訳が英文抄訳 WG（コア学会：日本物理学会、委員長：佐野幸恵氏（日本物理学会））により作成されました。

(2) 第 6 期科学技術基本計画及び第 5 次男女共同参画基本計画に対する要望書の公表

提言・要望書 WG（コア学会：日本数学会 委員長：平田典子氏）により提案された第 6 期科学技術基本計画及び第 5 次男女共同参画基本計画に対する要望書「科学技術分野における男女参画の推進に向けての要望」を 47 の正式加盟学協会、20 のオブザーバー学協会の賛同のもと、2019 年 4 月に公表しました（ホームページ参照）。

(3) 「大学等 高等教育機関の入学試験に対する声明」の公表

提言・要望書 WG により提案された「大学等 高等教育機関の入学試験に対する声明」を 47 の正式加盟学協会、20 のオブザーバー学協会の賛同のもと、2018 年 12 月に公表しました（ホームページ参照）。

(4) 連絡会設立経緯とりまとめ WG の設立

学協会連絡会の設置の経緯について文章化するためコア学会を応用物理学会、日本物理学会、日本化学会、化学工学会として設置しました。活動期間は 17 期末をめどとします。

(5) 運営検討 WG の設立

学協会連絡会は 100 を超える学協会の団体となり運営方法の改善が必要となっているという現状を踏まえ、運営検討 WG を設立しました。WG のメンバーは過去の幹事学会代表、WG の代表等で、委員長は寺田宏氏（コア学会：日本建築学会）として活動を開始しました。

(6) WG 活動

上記の WG の活動のほか、女性研究者の採用促進に関する他国の政策と効果の国際調査 WG（コア学会：日本女性科学者の会）、女子中高生理系進路選択支援 WG（コア学会：日本化学会）、若手育成 WG

（コア学会：日本地球惑星科学連合）等の活動支援を行いました。

(7) 政府等各所への要望活動

・2019 年 4 月 9 日

内閣府総合科学技術・イノベーション会議
上山隆大議員

・2019 年 4 月 9 日

文部科学省科学技術・学術政策局 松尾泰樹局長（大臣官房審議官渡辺その子氏、人
材政策課長 坂本修一氏、人材政策推進室 荒田孔明氏）

・2019 年 6 月 20 日

文部科学省科学技術・学術政策局 松尾 泰樹局長（注：7 月 2 日付で内閣府審議官科学技術・イノベーション担当に異動）、（科学技術・学術総括官兼政策課長 角田喜彦氏、人材政策課 浅井雅司氏、文部科学省研究振興局振興企画課 奨励室 多田敏行氏・佐々木昭吉氏）

・2019 年 6 月 21 日

内閣府男女共同参画局 池永肇恵局長（男女共同参画局推進課 玉木有一氏・市川恵理氏）

・2019 年 6 月 28 日

科学技術研究機構 濱口道成理事長（ダイバーシティ推進室 藤井浩人氏）

・2019 年 7 月 18 日

文部科学省総合教育政策局 男女共同参画共生社会学習・安全課 三好 圭課長、男女共同参画学習室 小林美保室長、男女共同参画学習室 毛利るみこ 女性政策調査官

・2019 年 8 月 21 日

文部科学省総合教育政策局 浅田和伸局長、毛利るみこ 女性政策調査官

(8) 内閣府男女共同参画推進連携会議

内閣府男女共同参画推進連携会議議員として、野尻委員長が活動しました。

・2019 年 6 月 25 日

令和元年度「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」（東京国際フォーラム）に野尻委員長出席。大坪久子氏がパネリストとして登壇し、バイアスフリーフレット等も紹介。

・2019 年 10 月 28 日

「第 38 回男女共同参画推進連携会議 全体会議」に野尻委員長出席（予定）

(9) 無意識のバイアスフリーフレット普及活動

第 15 期に作成させたバイアスリーフレットに関連した講演を大坪久子氏(日本大学)が行いました。

・2018 年 11 月 11 日

サイエンスアゴラ 2018 本音で語るハラスメント～今のままでいいんですか？～において講演「無意識の偏見をなくすために」大坪久子

・2018 年 12 月 10 日

STEM and National Security において講演「Beyond the Bias and Barriers -Women in STEM Careers in Japan-」大坪久子

・2018 年 12 月 27 日

第 11 回奈良先端大学男女共同参画推進セミナー「無意識のバイアス」とジェンダーに基づいた論文業績分析において講演「無意識のバイアスを知っていますか」大坪久子

・2019 年 1 月 10 日

大阪大学文学研究科アンコンシャス・バイアスに関する FD 研修会における講演「無意識のバイアスを知っていますか？ -ハラスメントとのかかわり-」大坪久子

・2019 年 1 月 23 日

兵庫県立大学アンコンシャス・バイアスに関する幹部研修会における講演「無意識のバイアスを知っていますか？ -人材登用とのかかわり-」大坪久子

・2019 年 3 月 26 日

九州工業大学ダイバーシティ補助事業「第 2 回シンポジウム」における講演「女性研究者の上位職への昇任・登用を進めるために -「無意識のバイアス」の克服に向けて-」大坪久子

(10) 海外政策との比較や GEMST index についての講演など

・2018 年 12 月 9 日

STS 学会「女性研究者支援政策の国際比較(2) アジアの政策状況を通して」における講演「日本の女性研究者支援事業と男女共同参画学協会連絡会の役割」大坪久子

・2019 年 3 月 1 日

東北大学全国ダイバーシティネットワーク組織第 1 回東北ブロック勉強会における講演「研究力強化のための女性活躍推進指標: GEMST Index」大坪久子

・2019 年 6 月 23 日

International Symposium for Female Researchers in Chromatin Biology And EMBO Laboratory Leadership Training Course 基調講演「Situation

of women leadership in science in Japan」大坪久子

(11) 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(以下、GEAHSS)との連携

公開シンポジウム「なぜできない？ジェンダー平等: 人文社会科学系学協会男女共同参画の実態と課題」2019 年 2 月 9 日 日本学術会議講堂において、野尻委員長より来賓挨拶を行いました。

(12) 文部科学省平成 30 年度科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【全国ネットワーク中核機関(群)】全国ダイバーシティネットワーク組織・東京ブロックでの紹介

2019 年 3 月 6 日に行われたキックオフシンポジウム『「東京」から発信するダイバーシティの現在と未来』において「男女共同参画学協会連絡会 ~自然科学系分野の女性研究者による 17 年間の活動紹介-」と題して大坪久子氏、佐藤恵氏、平田典子氏が連絡会の紹介を行いました。

(13) 新規加盟学協会の承認

正式加盟学協会(1 学会)

日本地形学連合

オブザーバー学協会(1 学会)

環境ホルモン学会

正式加盟学協会からオブザーバー学協会への変更(1 学会)

日本神経化学会

(14) 共催・協力・協賛・後援

○共催 なし

○協賛(1 件)

・日本化学会 本倉氏から聞いてみよう！化学系人気企業・しごとの現場のホントの話

○後援(14 件)

・日本女性技術者の会 (一社)日本女性科学者の会 創立 60 周年記念講演会

・日本熱帯医学会 第 59 回日本熱帯医学会大会 第 5 回熱帯医学男女共同参画ワークショップ「グローバルヘルス: 日本の女性・若手が世界で活躍するために II」サイエンスを国際医療支援へ

・日本女性技術者フォーラム 2018 年 JWEF 女性技術者に贈る奨励賞授賞式と記念シンポジウム『社会を変えていく 女性技術者たちのチャレンジ』

・徳島大学AWAサポートセンター 四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクト キックオフシンポジウム 2018

- ・日本農芸化学会 2019 年度東京大会・男女共同参画ランチョンシンポジウム
- ・日本森林学会 第 130 回日本森林学会大会 ダイバーシティ推進ランチョン Workshop 2019
- ・日本技術士会 D&Iフォーラム「私にもある？アンコンシャスバイアス」～「無意識の偏見」への気づきから職場改善、自身の成長へ～
- ・地盤工学会 第 54 回地盤工学研究発表会 特別セッション「地盤工学会におけるダイバーシティの実現」
- ・女子中高生夏の学校 2019 実行委員会 女子中高生夏の学校(夏学)2019
- ・日本放射線影響学会 日本放射線影響学会第 62 回大会 第 6 回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナー
- ・東京医科歯科大学 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」第 5 回 2019 年度合同シンポジウム「医療界の多様性を握るイクボスとは」
- ・日本動物学会 第 19 回男女共同参画懇談会 ランチョン企画 多様なワーク・ライフ・バランスの実現を目指して～第 4 回大規模アンケート解析結果より見えてきた課題と対策～
- ・日本育種学会 日本育種学会第 136 回講演会男女共同参画ランチョンセミナー
- ・日本建築学 2019 年度日本建築学会大会(北陸) 男女共同参画推進委員会 PD 「全国各支部がつつながら、建築界の男女共同参画 を推進していくために」

○協力(1 件)

- ・関西科学塾 第 14 回女子中高生のための関西科学塾

(15) 大規模アンケートに対する加盟学会参画委員の活動調査

加盟学会に対して実施し運営委員会で報告しました。

(16) 女性比率調査の実施

2 年おきに実施している全加盟学協会対象の女性比率調査を行いました。調査結果は 10 月末にホームページで公開する予定です。

(17) 分担金

第 17 期分担金はすべての加盟学協会から分担金が納入されました。

■謝辞

第 17 期の活動にあたり、連絡会内外の多くの方々にお世話になりました。皆様のご指導とご支援に深く感謝いたします。

第 17 期 男女共同参画学協会連絡会 担当者

第 17 期幹事学会 一般社団法人 日本物理学会

統括

委員長	野尻 美保子	高エネルギー加速器研究機構教授
副委員長	遠山 貴巳	東京理科大学教授

運営・庶務担当

責任者	福島 孝治	東京大学教授
委員	佐野 幸恵	筑波大学助教

シンポジウム担当

責任者	曹 基哲	お茶の水女子大学教授
責任者	藤井 保彦	東京大学名誉教授・元日本物理学会会長
委員	板倉 明子	物質・材料研究機構グループリーダー
委員	市川 温子	京都大学准教授
委員	門 信一郎	京都大学准教授
委員	鹿野 豊	慶應義塾大学特任准教授
委員	中本 有紀	大阪大学技官
委員	野中 千穂	名古屋大学准教授
委員	比連崎 悟	奈良女子大学教授
委員	藤原 正澄	大阪市立大学講師
委員	細越 裕子	大阪府立大学教授
委員	笹尾 真実子	東北大学名誉教授

会計担当

責任者	糸井 充穂	日本大学准教授
委員	山本 文子	芝浦工業大学教授

事務局

責任者	根岸 正己	日本物理学会事務局長
委員	岡村 裕子	日本物理学会事務局員
委員	宮野 佳織	日本物理学会事務局員

ワーキンググループ活動 一覧

ワーキンググループ（WG）は、女性研究者・女性技術者の男女共同参画に関する問題・提案・活動の種をボトムアップ的に形成し、継続的な活動を行う場として、第8期からスタートしました。第17期におけるWGの活動と今後の活動方針は以下の通りです。（一部WGについては詳細資料あり）

1. 女性科学者技術者の活躍促進に関する政策と効果の国際調査（詳細資料あり）

コア学会：日本女性科学者の会

参加学会：日本化学会、日本技術士会、日本遺伝学会、日本生化学会

活動内容：

- 1) 欧米と日本のジェンダー平等評価を比較した「女性研究者支援10年のあゆみ～ジェンダー平等評価に向けた重要課題の整理と国際比較」報告書を2019年中に発行予定。2) のフォーラムにおいて一部報告する。
- 2) 第9回日中韓女性科学技術指導者フォーラムを男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの前日10月11日金曜日お茶の水女子大にて開催（JNWESも主催、お茶大共催）。テーマは「持続社会のためのジェンダー平等」

2. 若手育成

コア学会：日本地球惑星科学連合

活動内容：若手研究者を取り巻く厳しい環境の原因のひとつとして、有期雇用問題に起因した問題点が指摘されて久しい。当連合では、毎年行っている独自のキャリアパスアンケートを通じて、この課題に関する基礎的な情報を収集してきた。これらの結果についてはまだ整理途上であるため、当連合内のみの活動としていたが、いずれは、より多くの賛同者（学会）を募り、一連の大規模アンケート「科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」等の結果とも比較検討し、改善方法や対策について考えたい。また、若手研究者を支援する趣旨のシンポジウム等も積極的に企画したい。

3. 学会を含むリーダーシップ活動の機会均等

コア学会：日本遺伝学会

参加学会：日本分子生物学会

活動内容：学会のシンポジウム、講演、ワークショップなどにおける座長、講演者の男女比について調査を行っている。実態は惨憺たるもので、今後はそれをどう改善していくかを考えていきたい。

4. 女子中高生理系進路選択支援

コア学会：日本化学会・日本応用数理学会

参加学会：日本物理学会・日本数学会・日本分子生物学会・日本女性技術者フォーラム等

活動内容：女子中高生理系進路選択支援活動を通じて今後の次世代育成の実現に繋げる。主に、毎年夏に開催される女子中高生夏の学校の企画・実行委員会委員として活動を行う。ワーキンググループメンバーには連絡会運営委員会委員に限らず、中等教育の教員など多様な経験者の参加を認め、夏の学校をより現実的で継続性のあるものを目指す。これまでの活動をまとめた「夏学 14 年のあゆみ」を発行。

5. 男女共同参画に関わる勉強会

コア学会：生態工学会

参加学会：日本宇宙生物科学会

活動内容：男女共同参画に関して参加学術学会が参加しやすい勉強会を行う。参加者らが興味を持ちやすい日常における様々な問題点などに注目して柔軟な発想を出せる場としたい。

6. 大規模アンケート

コア学会：日本物理学会

活動内容：コア学会は幹事学会とし、大規模アンケート調査の問い合わせ窓口およびアンケートデータの管理を行った。

7. 第 4 回大規模アンケート解析報告書英文抄訳

コア学会：日本物理学会

活動内容：第 4 回大規模アンケート解析報告書の英文抄訳を作成し、ホームページへの掲載、周知を行った。

8. 提言・要望書

コア学会：日本数学会

活動内容：大規模アンケートの結果を元に提言・要望書の骨子を作成する。外部関係機関への働きかけを実施する。

9. 運営検討

コア学会：日本物理学会（設立時）

社団法人化、運営効率化など、本会の運営体制の変更に伴う事柄を議論するため 17 期に設立した。次期コア学会は日本建築学会となることが承認されている。

10. 連絡会設立経緯取りまとめ

コア学会：化学工業会、日本化学会、日本物理学会

学協会連絡会が設立されてから、時間も経過していることから、設立時の経緯の取りまとめを行うため 17 期に設立した。活動は 2019 年 10 月までをめどとする。

ワーキンググループ 活動報告 詳細資料

- 1 女性科学者技術者の活躍促進に関する施策と効果の国際調査 WG
- 2 女子中高生理系進路選択支援 WG

「女性科学者技術者の活躍促進に関する政策と効果の国際調査」WG 活動報告

日本女性科学者の会(野呂知加子・日本大学・E-mail: noro.chikako@nihon-u.ac.jp)

International investigation of policies and effects promoting participation of female scientist and engineers

The Society for Japanese Women Scientists

(Chikako Yoshida-Noro・Nihon University・E-mail: noro.chikako@nihon-u.ac.jp)

1. 目的と概要

女性研究者活躍促進の政策は、日本のみならず各国で行われている。本WGは、他国の施策と効果を調査し、日本の現状の改善に役立てることを目的として、日本女性科学者の会(SJWS)が中心となり、様々な学協会の方々のご協力をいただきながら、2010 年より活動している。

中心課題は次の 2 項目である。1) 欧米の施策と先進事例調査を行い、日本の施策に活かす。2) 共通課題が多いアジアの実情、政策と効果について、調査、および会議による意見交換や情報収集を行う。

メンバーは以下の通り。

代表 野呂知加子 SJWS 日本大学 1) 2) 担当、板倉明子 SJWS NIMS 主として 2) 担当、中山栄子 SJWS 昭和女子大学 主として 2) 担当、森義仁 日本化学会 お茶の水女子大学 主として 2) 担当、岩熊まき 日本技術士会 (株)東京建設コンサルタント 主として 2) 担当、大坪久子 日本遺伝学会 日本大学 主として 1) 担当、有賀早苗 日本生化学会 北海道大学 主として 1) 担当

2. 2019 年の活動

1) 欧米と日本のジェンダー平等評価比較 報告書 2019 完成予定

タイトル:「女性研究者支援 10 年のあゆみ～ジェンダー平等評価に向けた重要課題の整理と国際比較」

著作者 笹川平和財団 および 男女共同参画学協会連絡会「女性科学者技術者の活躍促進に関する施策と効果の国際調査」WG

内容

はじめに この調査報告書の意義について

女性研究者支援施策の変遷とその効果

女性研究者支援モデル育成事業

女性研究者システム改革加速事業

女性研究者研究活動支援事業 一般型

女性研究者研究活動支援事業 連携型と拠点型

女性研究者ダイバーシティ環境促進事業

評価に重要な課題の整理

体制整備

女性研究者の増加

リーダー育成

研究力強化

環境整備・両立支援

次世代育成

他国における重要課題と評価システム

アテナスワン 英国、EU、アドバンス 米国
She Change 米国 アジア

総括～日本の研究力強化のためのジェンダー
平等評価導入に向けて

おわりに 今後の展望

2) 第 9 回日中韓女性科学技術指導者フォーラム

男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの前
日開催。10 月 11 日金曜日 9-17 時 お茶の水女
子大学国際交流留学生プラザ 一般公開

主催 特定非営利活動法人日本女性技術者科学
者ネットワーク(JNWES)、男女共同参画学協会連
絡会(「女性科学者技術者の活躍促進に関する
施策と効果の国際調査」WG)

共催 お茶の水女子大学 後援 MEXT(予定)
JST NWEA

メインテーマ Gender Equality for Sustainable
Development Goals 持続社会のためのジェンダー
平等

Session 1: Evaluation Systems for Gender Equality
Activities ジェンダー平等度評価システム

Session 2: Career Development Programs for Next
Generations 次世代キャリア開発プログラム

Session 3: Role of Chemistry for SDGs 持続社会
のための化学の役割

「夏学」～2019女子中高生夏の学校～

女子中高生理系進路選択支援ワーキンググループ(森義仁・日本化学会・mori.yoshihito@ocha.ac.jp)

“NATU-GAKU”-2019 Summer School for High School Girls

Promotion of Science and Engineering Education Working Group

(MORI Yoshihito, Chem. Soc. Jpn., mori.yoshihito@ocha.ac.jp)

The members of Promotion of Science and Engineering Education Working Group joined to the driving committee of “NATU-GAKU”, a three-day summer school for high school girls, supported by STEM Career Path Project for Girls(GSTEM-CPP) and National Women's Education Center(NWEC). The participants of “NATU-GAKU” were school girls. The staffs of “NATU-GAKU” were scientists and engineers from academia and industry, school teachers and university students. The programs were supported by academic societies, companies and industrial organizations.

(連絡会とNWECの協同作業)

2005年を初回とする女子中高生夏の学校(夏学)は、今年で15回目を迎え、今年度は8月9日～11日の2泊3日、コンセプトは「科学・技術・人との出会い」とし、国立女性教育会館(NWEC)で実施された(2011年度は土木会館)。夏学は単純な科学イベントではなく、キャリアイベントと言ってよい。連絡会の女子中高生理系進路選択支援ワーキンググループは、夏学の実行委員会で活動することが目的である。今年度の夏学には中3と高校生の合計参加数は101名であった。

夏学は、これまで助成を受けてきた科学技術振興機構の女子中高生理系進路選択事業から離れ、日本物理学会の山本文子氏を代表とするNPO法人女子中高理工系キャリアパスプロジェクト(GSTEM-CPP)と国立女性教育会館の共同事業として、実行委員会を組織し、連絡会の全面的支援をはじめとするさまざまな団体からの支援をもとに実施された。本年度の実行委員長は日本分子生物学会の植松崇之氏であった。連絡会からは、理系進路選択支援ワーキンググループメンバーが実行委員会委員として参加するのみならず、多くの連絡会加盟団体所属メンバーが、実験、ポスター、講演会、キャリア相談など、その多くの場面に参加するなど、夏学ではロールモデルが大集結していることになる。この夏学の実行委員会には連絡会に加盟していない団体構成員、中高教員など他の多くの組織からも参加した。夏学の特徴は運営に関わる多様な人とその企画内容の幅の広さである。夏学はまさに多様なロールモデルとの出会いである。

夏学では、その実施期間、NWECの全施設を独占し、3日間の安全と健康の管理などにNWEC事業課を中心としたNWEC総力が注がれており、夏学は、

連絡会とNWECとGSTEM-CPPの協同作業によりはじめて実現できる企画と言える。

(夏学に欠かせない存在の「学生TA」)

夏学の特徴は、連絡会を中心とする、多様で多数の社会人ロールモデルだけではない。「学生TA」の存在である。夏学の学生TAはアシスタントを遥に超えた役割を担う。参加中高生は5～6名のグループに分かれ、各グループに1名の「学生TA」がアドバイザーとして付き、3日間、一緒に行動する。「学生TA」は身近なロールモデルでもある。「学生TA」は、今年は、34名であった。その中の数名は学生企画委員として夏学実行委員会のメンバーを兼任し、さらにその中の一人は学生企画委員長と呼ばれ、夏学の基本的な計画に重要な関わり方をし、さらに「学生TA」全体のまとめ役を務める。キャリアイベントである夏学の3日間の流れは、3日間のスケジュールの「背骨」となる学生企画を中心に、社会人実行委員による企画が肉付けされることで構成されている。講演会で話を聞く、学会提供の実験・実習・ポスター発表を通じて、現職の先輩と交流する、そのような体験を仲間と話す、それらをもとにキャリアプランを考えて行くという流れである。夏学は15年目となり、かつて高校生として参加した「学生TA」が増えてきた。今年度学生企画委員長の小暮純子氏もかつての参加者である。今や夏学育ちが夏学を作っているという状況にある。

(夏学を知る)

夏学を知るためには、夏学ホームページの、<http://natsugaku.jp/>、NPO法人女子中高理工系キャリアパスプロジェクトホームページの、<https://www.gstem-cpp.or.jp/>、またはNWECホームページ>研修・イベント>研修をご覧ください。

加盟学協会 活動報告

学協会 ID 順

ページ		ページ	
21	化学工学会	51	日本植物学会
22	高分子学会	52	日本農芸化学会
23	日本宇宙生物科学会	53	日本解剖学会
24	日本化学会	54	日本応用数理学会
25	日本女性科学者の会	55	地盤工学会
26	日本植物生理学会	56	日本金属学会/日本鉄鋼協会
27	日本数学会	57	土木学会
28	日本生化学会	58	応用物理学会
29	日本生態学会	59	プラズマ・核融合学会
30	日本生物物理学会	60	日本放射線影響学会
31	日本生理学会	61	軽金属学会
32	日本蛋白質科学会		
33	日本動物学会		
34	日本物理学会		
35	日本森林学会		
36	地球電磁気・地球惑星圏学会		
37	日本神経科学学会		
38	日本バイオイメーjing学会		
39	日本育種学会		
40	日本地球惑星科学連合		
41	日本繁殖生物学会		
42	生態工学会		
43	日本遺伝学会		
44	日本建築学会		
45	種生物学会		
46	日本獣医学会		
47	日本畜産学会		
48	日本水産学会		
49	日本木材学会		
50	日本技術士会		

化学工学会における男女共同参画の取組

公益社団法人 化学工学会(男女共同参画委員会, future_inquiry@scej.org)

The Promotion of Gender Equality in the Society of Chemical Engineers

The Society of Chemical Engineers, Japan (Gender equality committee, future_inquiry@scej.org)

Abstract:

Our committee has promoted gender equality to develop and improve the research/education environment for women chemical engineers through the following activities. 1) In 2011, the Women's Prize was established and the winners of the prize will act as role models for young chemical engineers. 2) A nursery room is arranged during the autumn and annual meetings which admitted 5 people free. 3) The workshop is provided to develop a network of women chemical engineers. 4) The messages from role models about their research and carrier are introduced in our scholarly journal.

1. 学会紹介

本学会は1936年化学機械協会として発足しました。本会の一番重要な務めは、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を有機的に社会へ還元するための中心的学会として活動することです。そのため、日頃から産・学・官が協力できる数多くの場を提供しています。

2011年度の発足75周年に際し、本会創立100周年の中間年に当たる2023年までの行動指針を“Vision2023”としてまとめており、今後の化学工学を支える人材を育成・活用するためには男女、国籍、年齢の壁を取り払うダイバーシティの充実が不可欠でありますと謳われています。2003年に設立された本委員会では、これまでの学生への支援に加え、女性正会員の充実した活動支援を目指し、「女性技術者ネットワーク」を設立し、老若男女が共に生きる社会の形成を通じて、化学工学分野における多様化に対応できる人材育成と化学技術イノベーションの推進の実践を目指しています。

2. 学会員構成 (2019年8月1日現在)

学会の特徴として、正会員の5割以上が企業会員ということが挙げられます。会員の構成を下表に示します。個人会員に対する女性の割合は、この12年間で3%から9%に上昇しました。また、昨年度から女性副会長1名、女性理事3名が就任しており、理事の女性割合は16%(4/25名)となりました。

	男性	女性
正会員	5246 名	386 名 (6.9%)
学生会員	1026 名	261 名 (20.3%)
法人会員	544 社	

3. 本年度の主な委員会活動状況

1) 女性賞受賞講演と女性技術者フォーラム開催
2011年に化学工学会女性賞を創設しました。本賞は業績に加えてワーク・ライフ・バランスの実現や男女共同参画推進への貢献を総合的に評価して女性個人を表彰するものです。年会において、受賞講演会と合わせて、著名な女性指導者と意見交換をする場、及び女性研究者・技術者が研究発表をする場を提供する“女性技術者フォーラム”を開催しています。本講演会を通して、働く女性研究者・技術者の良きロールモデルを皆様にご紹介する一助としています。

2) 年会・秋季大会における保育サービスの実施

2013年より、育児中の会員の大会参加をサポートするために、就学前児童を対象として、大会期間中の保育サービスを実施しています。2014年からは、一日5名までではありますが、費用を学会で全額負担しています。

3) 女性技術者ネットワーク

年に数回、情報交換の機会が少ない女性技術者、研究者を中心に、お互いの貴重な経験や悩みを共有して、問題解決に向けて進んでいける女性限定での情報交換の場を設けています。企業からの参加者が多く、毎回活発な議論が行われています。

4) 学会誌での紹介

学会誌「化学工学」で連載中の「広がれ！ダイバーシティ」において、活躍する女性研究者・技術者の方にご自身の研究生活やキャリアアップについてご執筆頂き、広く会員に紹介しています。

高分子学会における男女共同参画推進の取組

高分子学会 男女共同参画委員会

(委員長:高井まどか・東京大学、委員:赤井日出子・三菱ケミカル、秋山恵里・花王、浅沼浩之・名古屋大学
上田一恵・ユニチカ、織田ゆかり・九州大学、佐藤絵理子・大阪市立大学、竹岡裕子・上智大学
中園和子・東京工業大学、長谷陽子・豊田中央研究所、前田瑞夫・理化学研究所
宮田隆志・関西大学、吉江尚子・東京大学)

Activities for Gender Equality in the Society of Polymer Science, Japan

The Society of Polymer Science, Japan

Abstract:

Activities of women network in the Society of Polymer Science, Japan (SPSJ), started more than 20 years ago in the occasions of annual meetings. A day nursery school in the annual meeting began in 2002 ahead of the times, and the gender equality promotion committee was established in 2006. In order to promote the return to work after some life events, SPSJ introduced the renewed membership system for both women and men. The Seminar for the gender equality has been held each year at the SPSJ annual meeting.

1. 男女共同参画に対する学会の取り組み

高分子学会では、20数年前インフォーマルに開始された高分子女性研究者の会(WPSJ)のネットワークを中心として、女性研究者が年会や討論会時に交流を図ってきました。年会・討論会での保育室の設置は他学会に先駆け2002年より行い、男女共同参画学協会連絡会にも発足時から参加し、2006年度には男女共同参画委員会を設置しました。男女共同参画委員会は定期的な活動の他、再チャレンジ会員制度の提案など幅広い活動を行っています。

2. 今年度の活動

(1)「第12回高分子学会男女共同参画セミナー」

日時:2019年5月29日(水) 11:45~12:45

(第68回高分子学会年次大会併設)

「高分子学会男女共同参画セミナー」は、大学や企業における研究者・技術者の男女共同参画について学会として何ができるかを考える機会として、高分子年次大会に併設で開催され、学生を含む様々な年齢層や職域から、男女を問わず多くの方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われてきました。第12回セミナーでは、企業にご所属の女性研究者に、ご自身の体験をもとに研究者としての仕事に対する取り組み等をご紹介いただきました。50名以上の方にご参加いただき、活発なセミナーとなりました。

講演①「高分子材料を作る！その苦勞と楽しさ」と

赤井 日出子(三菱ケミカル(株))

講演②「民間企業の商品開発研究者の働き方紹介」

秋山 恵里(花王(株))

参加者の内訳や感想などアンケート結果を図に示しています。

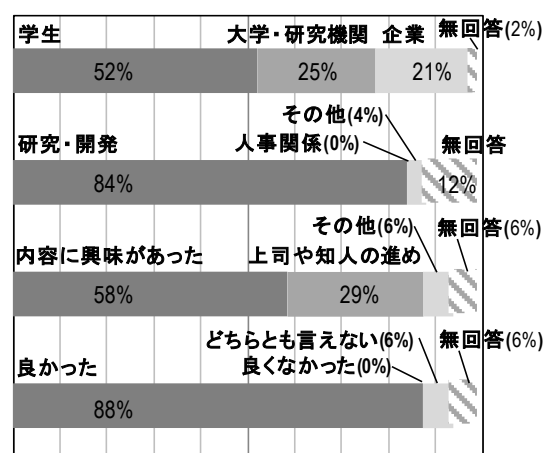


図. セミナー参加者の内訳と感想

(2) 学会誌「高分子」での連載「先輩からのメッセージ—仕事と私事—」

産学官さまざまな機関の幅広い年齢層の先輩から、若手研究者、学生に向けて、男女共同参画の視点を入れた暖かいメッセージを送るものです。2008年6月から掲載を開始し、これまでに約160名の方に寄稿いただきました。掲載記事は学会の男女共同参画ホームページで公開しておりますので、是非ご覧下さい。

(3) 女性研究者と女子学生の交流会

第68回高分子討論会ではWPSJと共催でランチン交流会を開催予定です。

(4) 年会・討論会での保育室の設置

(5) 高分子女性研究者の会(WPSJ)活動支援

(6) ホームページの運営

高分子学会HP(<http://www.spsj.or.jp/>)から

日本宇宙生物科学会-活動報告2019

日本宇宙生物科学会 (横谷香織・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp,
清水美穂・農工大・mshzmz@cc.tuat.ac.jp, 跡見順子・農工大・yatomi@cc.tuat.ac.jp)



Japanese Society for Biological Sciences in Space - Activity report 2019

*Japanese Society for Biological Sciences in Space (Kaori Tomita-Yokotani・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp
Miho Shimizu・TUAT・mshzmz@cc.tuat.ac.jp, Yoriko Atomi・TUAT・yatomi@cc.tuat.ac.jp)*

Abstract: Japanese Society for Biological Science in Space is including the several study fields, astrobiology, planetary science, biology, eco-engineering and natural ecosystems. We will participate in Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE) under the widely scientific knowledge.

<日本宇宙生物科学会について>

日本宇宙生物科学会は、太陽系や地球の歴史の解明と平行して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地球という星で進化しその環境に適応してきた多様な生物のありさまを明らかにする惑星生物学、そして人類の宇宙への進出を実現するための生物・生態系工学、そしてそこから分かる“人間の生命・生物特性”といった広い分野を包含する科学領域です。

生命がこの地球上に生まれて以来約37億年という長い歳月の間に、生物は次第に進化し様々な種に分かれ、またあるものは滅亡してきました。現存する動物や植物、菌類など様々な生物は、長い間地球上の環境の中でその生命を連続させ、各々の種を維持してきたものです。近年、地球上の重力や磁力、放射線、光、空気の組成など種々の環境要因が生命の維持や発生、生物個体や群の行動など生物の基本的な現象と密接にかかわりあっていることが次第に明らかになりつつあります。生命の持つ奥深さと美しさは、その原理と機構が科学的に解明されていくにつれて、益々深く認識されるようになっていきます。しかしその原理と機構は、地球上での実験のみでは完全に理解することはできません。生物科学の視野を広げ、宇宙環境における生物の環境因子に対する感受性と適応、生活環の構成等を知ることは、生命の基本原理の解明にとって重要であり、基礎生物学の発展に寄与すると期待されます。また、国際宇宙ステーションの存在意義ときぼうでの科学実験は、人類の平和への寄与という大きな使命があります。

<日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会における活動>

日本宇宙生物科学会は、男女共同参画社会への意識は高く、連絡会発足時から参加・協力しその内容を実践する努力を行っています。日本宇宙生物科学会の男女共同参画社会への取り組みは、科学を

通してこれを当たり前に受け入れる基盤を確立することです。生命科学の視野を宇宙にまで広げて学際的に研究を行ない「生命の存在様式」を明らかにし人類の生命観、宇宙観の確立をめざす学会です。

<科学者生活委員会の活動として>

日本宇宙生物科学会の男女共同参画委員会は、「科学者生活委員会」の中で活動しています。科学者個々の生涯を対象とし、次世代に科学や技術に携わる中で得てきた知恵の継承を行うことが出来る場を提供することが重要と考えています。今後も、宇宙生物科学における多様な生物・生命研究成果のネットワークを大いに活かし、複雑な人間社会の調和を、科学・技術を基盤にして未来の平和社会に向けて貢献していきます。

<本連絡会における活動として>

科学者の一生をとおしての生活を健康で生きる指導的活動も継続して行っています。直立二足歩行を常態とする人間の身体やその中で生きる細胞のつくりとつながる生命の原点から展開した「身心一体科学」と「体幹体操」の指導です。これらは、実は心の脳とつながるバランス能力と重要な体幹を考える脳の領域を増やす運動です。生活習慣は大きく関係します。科学者の生活を科学しながら、応援します。他学会と協力し、若手の応援も推進しています。

<日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会におけるこれまでの主な活動>

2010-2011年は第9期男女共同参画学協会連絡会の幹事学会として広く貢献し、プレWGの世話役として第三回大規模アンケート実施に貢献しました。

<日本宇宙生物科学会ロゴマーク>(右上)会員から公募で選ばれたロゴマークです。宇宙の中に青い地球が浮き彫りになります。

日本化学会における男女共同参画推進委員会の取り組み 男女が共に働く豊かな多様性社会



公益社団法人日本化学会(男女共同参画推進委員会, info@chemistry.or.jp)

Activity of the Gender Equality Committee (GEC) in the Chemical Society of Japan (CSJ)

The Chemical Society of Japan (Gender Equality Committee, info@chemistry.or.jp)

Abstract: The Committee aims to promote the realization of a real gender equality society in the field of chemical science and engineering. In 2003, CSJ decided a positive action plan to increase the ratio of female members both on the board and committees up to 20% by 2020. Our committee's symposium, held in the annual meeting of the CSJ since 2002, contributes to encourage not only female chemists, but also young members of the CSJ. The CSJ Award for Young Female Chemist (up to 2 people each year) was established in 2012. This award is granted for significant research results in fundamentals and applications of chemistry and for contribution to gender equality activities. In 2018, CSJ has the first female president, Prof. Maki Kawai.

1 日本化学会とは

日本化学会は明治11年(1878年)に創立され、化学と化学工業の全分野を網羅する基幹学会である。正会員数 18,308名(内女性1,631名(9%)、女性役員3名(理事27名+監事4名)(2019年3月現在)

2 男女共同参画推進委員会の発足

2002年9月に男女共同参画推進委員会が発足した。これ以降、毎年約4回の委員会を開催している。現在の委員12名は男女同数、企業から3名、理事1名を含む。現在の委員長は北川尚美(東北大学)。

3. ポジティブアクション

A. 本委員会提によるポジティブアクション(2003年1月の理事会で承認)

- 1) 理事会、支部、部会、委員会等における女性役員の比率が2020年までに20%になるように女性の登用に努める。
- 2) 日本化学会が主催する学会、講演会等において基調講演や招待講演者の中に女性科学者を含め、ロールモデルとして示すこと。
- 3) 優れた女性化学者を顕彰する賞を創設すること。

B. ポジティブアクションの成果

- ・女性理事の会長指名枠の新設:2005年度より1名。現在3名の理事。
- ・2012年度に女性化学者奨励賞が新設された:年2件以内。
- ・2018~2019年度の会長に川合眞紀氏(分子研所長)が就任。初めての女性会長が実現。
- ・2019~2020年度の副会長に加藤昌子氏(北大院理)が就任。初めての女性副会長が実現。

4. 女性化学者奨励賞

2013年度より毎年表彰。学術研究に傑出した業績と貢献、社会貢献にも努め、国内外での研究活動・交流を通して、我が国の女性化学者の地位向上に寄与し、科学者・技術者をめざす学生や若手研究者の目標となる、化学会会員の若手女性化学者(40歳未満)を表彰。第7回女性化学者奨励賞(2019年3月)は作田絵里氏(長崎大学)と建石寿枝氏(甲南大学)が受賞した。

5. 男女共同参画シンポジウム

2002年度から継続的に年会で開催。2014~2016年は国際シンポジウム。2018年のテーマは「イノベーションを起こす~産官学の現場から~」、2019年は「聞いてみよう!化学系人気企業・しごとの現場のホントの話」であり、若手技術者、研究者に企業での技術開発、大学での研究について紹介いただき、盛況だった。

来る2020環太平洋化学会議(2020.12.15~20)にてシンポジウム"Empowering Women in the Chemical Sciences & Engineering"を開催予定、積極的な参加を期待。

6. 学会開催中の託児所の設置

2001年3月の年会で初めて開設され、その後継続的に設置されている。利用者累計約140名以上。

7. 女子中高生夏の学校

男女共同参画学協会連絡会の女子中高生理系進路選択支援WGの世話役団体を務める。

※日本化学会の男女共同参画推進委員会の活動:

<http://www.chemistry.or.jp/activity/cooperation>



一般社団法人日本女性科学者の会活動報告 2019

一般社団法人日本女性科学者の会 会長：近藤科江（東京工業大学 教授）
事務局：神奈川県横浜市緑区長津田町 4259 東京工業大学 生命理工学院 近藤研究室内
E-mail：sjws-office@sjws.info Tel & Fax：045-924-5800

Activity Report 2019 of the Society of Japanese Women Scientists

General incorporated association The Society of Japanese Women Scientists (SJWS), President Shinae Kondoh,
Tokyo Institute of Technology, 4259 Nagatsuta-cho, Midori-ku, Yokohama, Kanagawa, 226-8501 JAPAN
E-mail: sjws-office@sjws.info Tel: 052-564-6151 Fax: 052-564-6251.jp

Abstract：

The Society of Japanese Women Scientists (SJWS) was established in April, 1958 to foster friendship among female scientists, facilitate knowledge exchange among them in various fields of research and provide support during their career with the ultimate goal of advancing world peace. Since April, 2014, SJWS has become the general incorporated association. Now in 2019, the number of members is about 350, and there are a wide range of members, including researchers in science, engineering, medicine, pharmacy, and agriculture, belonging to universities, research institutions, as well as researchers and engineers from companies. SJWS is providing opportunities to facilitate the exchange of knowledge in various fields of academic researches particularly for women scientists.

■設立経緯と沿革

1958年「女性科学者の友好を深め、研究分野の知識の交換を図り、女性科学者の地位の向上を目指すと共に、世界の平和に貢献すること」を目的とし、前身である日本婦人科学者の会が設立されました。1996年6月に日本女性科学者の会(SJWS)と改名し、現在、会員数は約350名と少人数ながら理学・工学・医学・薬学・農学等を専攻する大学や研究機関に所属する研究者、企業の研究者・技術者など多岐に渡り、幅広い科学・技術分野をカバーしています。

各種講演企画と交流、賞の授与等の活動をしており、以下にこの2年の活動を報告しますが、会員の専門分野が多岐に渡っているため、多くの会員の利益になる講演企画に頭を悩ませています。

■活動/近年のイベント

2018年1月の新春学術シンポジウムは競争的研究資金獲得に向けてというテーマのご講演、同年5月の総会・賞贈呈式は、奨励賞の大矢根綾子主任研究員(産業技術総合研究所)、篠原美都博士(京都大学)、功労賞の武川恵子局長(内閣府男女共同参画局)、の相馬芳枝上席研究員(総合科学技術研究機構)にご講演いただきました。2018年11月の学術大会&60周年記念講演会では、高橋政代プロジェクトリーダー(理化学研究所)、Machi Dilworth副学長(沖縄科学技術大学院大学)にご講演いただいたほか、多くのポスター発表とショートプレゼンが行われました。

2019年の新春学術シンポジウムは仙台で開催され、益見厚子教授(青森大学)に生物学のご講演を、有働恵子准教授(東北大学)に災害科学のご講演をいただきました。2019年5月の総会・記念講演会では、受賞者

(後述)の先生方に学術講演をお願いしました。

次世代育成活動として「女子中高生夏の学校」で実験展示やポスターの協力をしました(毎年8月)。

刊行事業として、日本女性科学者の会学術誌の刊行(年1回/2011年より電子化¹⁾) 日本女性科学者の会NEWSの発行(年2回)、他にSJWSロールモデル集を発行いたしました。

学術誌の原稿募集や賞の公募を行っています。事務局またはホームページへご連絡をお願いします²⁾。

■日本女性科学者の会奨励賞

理系分野で研究業績をあげ、将来性を期待できる者で、本会の目的に賛同し、その達成に努力していると認められる本会会員に対して、年齢、国籍、性別は問わず、年2名程度に 奨励賞を贈呈しています。1996年6月第1回以来46名の方々が受賞されています。2019年の第24回奨励賞は、栗原晴子氏(琉球大学海洋自然学科助教)、南保明日香氏(北海道大学大学院医学研究院)、丸山美帆子氏(大阪大学大学院工学研究科)が受賞されました。

■日本女性科学者の会功労賞

日本女性科学者の研究推進や地位向上等に寄与した方や、会のため尽力し顕著な功績のあった会員を対象とし、賞状と記念品を贈呈しています。これまでに42名(内男性3名)の方々が受賞されています。今年は、小浪悠紀子氏(東京大学大学院新領域創成科学研究科非常勤講師)、Machi Dilworth氏(沖縄科学技術大学院大学人事・男女共同参画担当副学長)が受賞されました。

1) <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/sjws/-char/ja/>

2) <http://www.sjws.info/history/index.html>

日本植物生理学会男女共同参画委員会の活動報告

日本植物生理学会(田中亮一・北海道大学・rtanaka@lowtem.hokudai.ac.jp)

Progress Report of the Gender Equality Committee of the Japanese Society of Plant Physiologists

Japanese Society of Plant Physiologists

(Ryouichi Tanaka · Hokkaido University · rtanaka@lowtem.hokudai.ac.jp)

Abstract: The gender equality committee of the Japanese Society of Plant Physiologists (JSPP) was set up in 2011. A luncheon seminar was hosted by the committee in the 60th annual meeting of JSPP in March 2019 in which Akiyoshi Murakami, who is a research fellow from the National Institute of Science and Technology Policy (NISTEP), gave a talk entitled “The current status of Japanese science and technology as seen from a large-scale survey with a focus on fostering young researchers and promoting the empowerment of the female researchers”. Childcare service was provided in the annual meeting and about six children used the service each day. The committee is preparing a leaflet outlining the status and issues of gender equality in the Japanese academia.

(1) 男女共同参画セミナーの開催

2019年3月の第60回本学会年会(会場:名古屋大学)において、男女共同参画委員会主催による第8回となるランチョンセミナーを大会2日目(3月14日)に実施した。昨年までの同セミナーにおける参加者のコメントやアンケートでは、女性研究者に関する現状、また男女問わず若手の採用状況やキャリアパスに関して、データを通して正しく認識・把握したいという要望があったので、今回は、文部科学省科学技術・学術政策研究所(NISTEP)科学技術・学術基盤調査研究室の村上昭義研究員をお招きし、「大規模意識調査からみた日本の科学技術の状況:「若手育成」と「女性活躍」に注目して」という演題で講演して頂いた。参加者は学部学生からシニアの研究者まで100名ほどで満席となった。

された。日本全体の研究開発費を論ずる場合、アカデミアのみならず企業が含まれ、企業のそれはアカデミアの2.6倍の規模とのことである。NISTEP定点調査(研究者に対する大規模アンケート)の結果から、女性研究者が活躍するための環境改善については、JSTの人材育成費用補助事業や各組織の支援制度の整備が行われているものの、未だ不十分との認識が根強いようであった。一方、女性の積極的な採用や昇進の人事システムは問題ないとの認識が広がっているとの回答が増えているようである。なお、本講演の資料スライドは下記の男女共同参画委員会のページにて公開されている。

https://jspp.org/society/gender_equality/luncheon_seminar.html



写真1 NISTEPの村上昭義先生のご講演

本講演では、まずNISTEPの「科学技術指標」および「科学研究のベンチマーキング」の両報告書に基づいた日本の科学技術力の推移とその構造が説明

(2) 年会での保育室設置

上記年会および続いて開催されたJapan-Taiwan Plant Biology 2019 (JTPB)の期間中、4日間に渡って名古屋大学東山キャンパス内の講義室に保育室を設置した。利用者はのべ24名(実人数9名のうち1名は海外から)であった。保育士の数はのべ9名で、保育料金は1日2000円であった。

(3) 男女共同参画に関するリーフレット作成

日本のアカデミアの男女共同参画の現状、問題点、取り組みを簡単に概説したリーフレットの作成を進めている。多くの会員に目を通してもらえるように、会話形式で簡単に読みやすい文章を準備中である。

日本数学会の男女共同参画社会推進への取り組み

日本数学会男女共同参画社会推進委員会委員長 柏原賢二

Activities for the Promotion of Gender-Equality in Mathematics

*The Mathematical Society of Japan (Kenji Kashiwabara *kashiwa@idea.c.u-tokyo.ac.jp)*

Abstract: This report gives a summary of activities conducted by the Committee on Gender Equality of the Mathematical Society of Japan. The Mathematical Society of Japan was the organizer of the 12-th period for EPMEWSE (Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering) in 2013. As a usual activity of MSJ, we supported the summer school for high-school girl students. In addition, we provided the nursery room in annual meetings of MSJ. We also organized the opportunities which all female researchers can join and share their opinions and experience.

～男女共同参画社会推進委員会の活動～

1877年設立の東京数学会に始まり、日本数学会は140年余の長い歴史を有しています。2019年4月現在、日本数学会会員総数は約5000名を数え、その内の女性会員比率は7%となっています。日本数学会には12名の理事が配置されていますが、女性理事は現在2名に上ります。2015年5月には日本数学会初の女性理事長として小谷元子教授(東北大学)が就任しました。振り返れば、2002年の日本数学会による男女共同参画学協会連絡会準備会への連携・参加が、同学会内の男女共同参画への意識を高める大きな契機となりました。2002年7月には、男女共同参画社会推進委員会前身であるワーキンググループが発足し、2004年9月には、男女共同参画社会推進委員会の名称で日本数学会の正規委員会として昇格設置されています。現在の日本数学会は、ワーキンググループからの活動を発展させ、男女共同参画社会推進委員会を中心として、男女共同参画推進に積極的に取り組んでいます。

～学会開催時における活動～

学術的会合開催期(3月末開催の年会と、9月末開催の秋季総合分科会)に、会場大学の一室を借用した臨時保育を行っています。また、同委員会の企画として、女性研究者の意見交換・情報交換を目的とした「女性だれでも懇談会」を定期的に開催しております。

2019年度年会におきまして、数理女子との共同主催で写真展示「Women of Mathematics throughout Europe --- a gallery of portraits --- 日本の数学者」を開催しました。これは、日本およびヨーロッパの女性数学者を中心にした写真展です。さらに、それに関連する講演会「多様な女性数学者 --- Women of Mathematics throughout Europe の日本開催に際

して ---」を開催しました。今後も、日本数学会男女共同参画社会推進委員会の先導により、真の男女共同参画が実現するよう有意義な企画を継続・発展させていきたいと考えています。

～女子中高生夏の学校における活動～

2019年8月開催の国立女性教育会館および「NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクト」主催の「女子中高生夏の学校～科学・技術・人との出会い～」には日本全国から101名の女子中高生の参加がありました。日本数学会として実行委員、実験実習やポスター展示参加等を通じ、女子中高生に数学への興味と理解を促進しています。また、日本数学会は、NPO法人 女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトの2019年度の賛助会員になっております。

～男女共同参画学協会連絡会における活動～

日本数学会は、男女共同参画学協会連絡会設立時から正式加盟学会として参加しています。2013年には12期幹事学会を務めており、2015年の政府各所への要望書提出では、13期幹事学会と協力・活動して参りました。今後は、要望書や基本計画の理念が結実するよう学協会の一員として積極的な活動を継続していきたいと考えています。

～国際数学者女性会議における活動～

2018年8月にリオデジャネイロで開催された国際数学者女性会議(World Meeting for Women in Mathematics, (WM)²)に参加し、男女共同参画学協会連絡会の第4回大規模アンケートから、日本数学会の分を抽出させて頂きましたデータを基に、女性研究者の少ない理由や男女共同参画のために今後必要なことなどを発表しました。

日本生化学会 男女共同参画活動報告

日本生化学会(栗原達夫・男女共同参画推進委員長・京都大学)

Annual Report on the Activities for the Gender Equality Committee in the Japanese Biochemical Society (2018)

The Japanese Biochemical Society (Tatsuo Kurihara・Kyoto University)

The Japanese Biochemical Society (JBS) was established in 1925, and joined to the Japan Medical Society in 1926. The aim of JBS is to promote the exchange of information and stimulate discussion and collaboration among biochemists, and to provide a forum and meetings for scientists covering all aspects of biochemistry. The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted its actual practice in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Committee for Promotion for Gender Equality of the society during last year.

1. 日本生化学会について

日本生化学会は大正14年(1925年)に創立され、大正15年(1926年)に日本医学会に加盟しております。学会員は8,000名を超え、日本語雑誌「生化学」を年6回、英文誌「The Journal of Biochemistry」を年12回発行しています。

総会員数のうち、女性会員が22%の割合を示しており、女性会員比率はここ数年変化がありません。男女共同参画推進への取り組みとしては、2003年に正式加盟学会となりました。学会内では、2005年に男女共同参画委員会を正式に発足し、2007年に第1回目の男女共同参画ランチョンセミナーを開催しました。それ以降、毎年の学会大会においてランチョンワークショップを開催し、継続的な男女共同参画活動を進めています。

2. 活動報告

(1) 大会でのランチョンワークショップの開催

2018年度の第91回日本生化学会大会の学会企画として、本会男女共同参画推進委員企画ランチョンワークショップを開催し、「博士号ホルダーのキャリアパスの多様性」をテーマに議論をしました。

昨年度のワークショップでは、多くの大学院生が、博士号取得後のキャリアパスのビジョンがもてないために博士課程進学をためらう実態が浮かび上がってきました。加えて、進路相談を受ける立場にある教員もアカデミア以外の博士号ホ

ルダーのキャリアパスを十分把握していないケースが多く、大学院生に博士課程進学について説得力をもって勧めることができていないのが現状と思われました。

本ワークショップの前半部分では前田里美氏(株式会社リバネス)をお招きしての講演、後半部分では企業への事前アンケートで得た採用状況に関する情報、PIへの事前アンケートで得た博士課程修了者の進路情報、JREC-IN Portalの情報などをもとに、博士号ホルダーのキャリアパスに関するパネル討論をおこないました。博士課程への進学を検討している学生の皆様や博士課程在学中の皆様、教員の皆様などに、博士号取得後のキャリアパスについて、現状を把握していただく一助となる議論になったことと思います。

(2) 男女共同参画学協会連絡会

正式加盟学協会として運営委員会およびシンポジウムへ参加しています。

(3) 理事者の男女比率

本会では2年に1度、代議員選挙が執り行われ、その中から執行部役員を選出しています。次期役員選出において、前期までの「男女どちらも1名以上が含まれる」から「男女どちらも2名以上が含まれる」ことに細則を変更し、女性の役員比率を上げることとしました。

日本生態学会 男女共同参画活動報告

日本生態学会キャリア支援専門委員会

Recent activities for the gender equality and encouraging young scientist career in Ecological Society of Japan (ESJ).

Committee of supporting career, Ecological Society of Japan

Abstract: Ecological Society of Japan (ESJ), founded in 1953 to promote researches in ecological areas, has been concerned with gender equality and support for young scientists. At the annual meeting of the society, nursery has been set up since 1999, and forums that focus on supporting gender equality and young scientist careers have been held since 2008. The society has also provided the science educational programs in ecology for female high school students in summer since 2008. The Committee of Supporting Career was established in October 2010 and acts for supporting both gender equality and young scientist careers.

日本生態学会は、1953年に設立され、生態学の進歩と普及をはかることを目的とし、学術雑誌の発行や年次大会の開催の他、自然保護に関する内閣への要望書の提出など、さまざまな活動を展開している。2019年における会員総数は 4023 人（うち女性 995 人、比率 24.7%）である。男女共同参画に関する活動としては、2007年の第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムから学会として参加し、男女共同参画学協会連絡会の主催する大規模アンケート（第2、3、4回）に協力、2008年からは、女子中高生夏の学校に参加している。2010年3月には、男女共同参画や若手研究者のキャリアパスの問題に特化した専門委員会を新設し、その活動を強化することが総会で決議され、2010年10月にキャリア支援専門委員会が発足した。男女共同参画および若手研究者のキャリア支援に関する活動を一体的に行っている。以下にこれまでの生態学会における主な活動について報告する。

◆**全国大会開催時における託児所の設置。** 日本生態学会では、全国大会を年1回開催しており、毎年約2000人の参加がある。大会開催時における託児所の設置は、第46回大会(1999年)から始まった。当初は有志により設置であったが、続く第47回大会(2000年)では大会本部により設置され、第48回大会(2001年)では学会として継続して託児室を設置するという方針が全国委員会と総会で確認された。以後、毎年開設されており、利用者数も増加傾向にある。現在は託児費用の一部を学会が補助している。

◆**全国大会開催時におけるファミリー休憩室の設置。** 2013年より全国大会時に子連れの大大会参加者が予約なし・無料で利用できる「ファミリー休憩室」を設置してい

る。オムツ替えや授乳の他、親子での昼ごはんや、おもちゃや絵本で遊ぶ等ででき、利用者には毎年大変好評である。

◆**「女子中高生夏の学校～科学者・技術者のたまごたちへ～」の共催。** 2008 年より、野外観察を中心とした実習を提供。河川敷や開催地である国立女性教育会館敷地内などで、身近な自然の生物・生態の観察をテーマとして実施している。

◆**男女共同参画と若手キャリア支援のためのフォーラムの開催。** 2008 年より毎年、全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。2019 年は以下の2つのフォーラムを開催した。

1) **男女共同参画ランチョンフォーラム「生態学会参加者の年齢・ジェンダーバランスの変化：参加者の多様性評価を未来につなぐ」:** 2011 年大津大会および2017 年東京大会の属性調査の結果から、生態学会における若手の動向と男女共同参画の実情について紹介し、学会としての今後の支援の方向性について会場参加者からのヒアリングを行い議論した。

2) **キャリア支援フォーラム「その時どうした？人生の選択の裏側を聞いてみよう」:** 四名の博士号取得者に、進学や就職、転職、結婚・子育てなどの人生の節目において、どのような判断を基にキャリアを選択してきたのかを振り返ってもらい、成功例だけでなく、工夫や失敗、デメリットも含めて講演していただいた。

◆**キャリア支援のための企業ブースの設置。** キャリアパス多様化促進の一環として、2012 年より、全国大会において企業ブースを設置し、企業説明会や企業パンフレットの展示をおこなっている。

日本生物物理学会における男女共同参画および若手支援の取り組み

日本生物物理学会(細川 千絵・大阪市立大学・hosokawa@sci.osaka-cu.ac.jp)

Efforts for Promoting Equal Participation of Men and Women and for Encouraging Young Scientists in the Biophysical Society of Japan

The Biophysical Society of Japan (Chie Hosokawa・Osaka City Univ.・hosokawa@sci.osaka-cu.ac.jp)

Eight members of the Biophysical Society of Japan (BSJ) form a committee to plan and organize the activities of the society related to the promotion of equal participation of men and women and for encouraging young scientists. This year, the committee will 1) organize the symposium to discuss equal participation of men and women and support young researchers, 2) organize the briefing session to support job hunting for young researchers, 3) select winners of the early career award in biophysics, and 4) participated in the summer school for girls at high school presenting a poster.

日本生物物理学会では、男女共同参画と若手研究者の次世代人材育成を重要課題とし、9名の委員で構成される男女共同参画・若手支援委員会により、学会としての活動を実施している。男女共同参画において指摘される問題の多くは、男女を問わない若手研究者全体の研究環境に関する問題であるという認識を持ち、委員会名に「若手支援」を入れることで、若手全体を支援することに力を入れている。平成31年度は、以下の4点の活動を計画している。

- 1) 男女共同参画・若手支援シンポジウム開催
 - 2) キャリア支援説明会の開催
 - 3) 学会年会における若手奨励賞の実施
 - 4) 女子中高生夏の学校における展示
- 1) 男女共同参画・若手支援シンポジウムの開催
当学会では、毎年年会でシンポジウムを開催している。シンポジウムは、学会の費用負担によるランチョンセミナー形式をとり、毎回多数の参加者を集めている。昨年度の年会(2018年9月17日)では、世代間ギャップから見えてくる今必要な若手研究者支援として、世代間でどのようなギャップがあるかを明らかにし、今必要な若手研究者への支援について考えた。統計データからみた世代間ギャップについての講演、具体的経験談等をベースに、世代毎に分かれたグループで問題点を話し合った。

2) キャリア支援説明会の開催

昨年度の年会では、若手研究者や学生の今後のキャリア構築の一助となるように、キャリアコンサルタントとして(株)アカリクの方を迎

えて、博士課程の大学院生、ポスドクの就活ガイダンス、及び就職相談を行った。多くの参加者から概ね好評を得ており、今年度も同様の説明会を開催する予定である。

3) 年会における若手奨励賞の実施

当学会では、平成17年度より優れた研究発表を行った35歳以下の研究者に対して若手奨励賞を授与する取り組みを行っている。平成28年度からは、若手招待講演で選考された特に優秀な研究者に授与する若手奨励賞5名に加え、それ以外の優秀な若手招待講演者に授与する「若手招待講演賞」を新設し、5名に授与している。また、応募資格を改訂し、出産等のライフイベントを経験した方の応募条件を緩和している。第15回となった今年度の年会でも総計27人の応募者があった。さらに、平成28年度から年会における「学生発表賞」の表彰を行っている。昨年度は82名の応募があり、21名の学生に賞を授与した。

4) 女子中高生夏の学校における展示

2019年8月に開催された女子中高生夏の学校にポスターを出展し、女子高校生、高校の先生方などに対して、学会の活動を説明した。ポスター作成には、「生物物理若手の会」メンバーの全面的な協力をいただき、当日は大学院学生会員による説明も行った。本ポスター説明により、生物物理の研究分野の紹介やタンパク質や細胞の働き等について理解を深めてもらうことができた。また、職業としての研究者や、理系の進路に関する相談も受け、特に高校生に関しては、進路を具体的に考えてもらうきっかけになったかと思う。

活動報告：日本生理学会男女共同参画推進委員会および「生理学女性研究者の会」

日本生理学会男女共同参画推進委員会(齋藤 康彦・奈良県立医科大学・0744-29-8827)

The activity reports of “Promotion of Gender Equality” and “Women in Physiology of Japan (WPJ)” in the Physiological Society of Japan

The Physiological Society of Japan (Yasuhiko Saito・Nara Med. Univ.・0744-29-8827)

Abstract: In 9th FAOPS Congress held in March 2019, 1) Our gender equality committee organized a seminar containing “Summary of the 4th Large-Scale Survey of Gender-Equality status in scientific professions”, and “Gender equality initiatives at the Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University (OIST)”. Special issues and initiatives in OIST and difference between Japan and New Zealand were discussed. 2) We provided childcare service and a waiting room for elder children at the venue. It was difficult to find a childcare provider because of high demand of childcare in March and shortage of English-speaking-staff. It is important to search the demand for childcare at registration. At the waiting room, children at age <11 and ≥11 could stay with and without a guardian, respectively, and there were administrators; however, there were a few users. Sufficient PR and using a space like a corner of the poster hall will increase the number of users. 3) A scientific symposium “Cutting-edge Research in Neural Network Dynamics” was organized by Women in Physiology of Japan: WPJ. Four talented women scientists from Japan or South Korea introduced their recent studies. We believe that this symposium contributes to encouraging an audience of young women researchers.

9th FAOPS (Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies、3/28-31、神戸) 男女共同参画推進委員会企画ミニランチョンセミナー 本セミナーを齋藤康彦委員長、西谷(中村)友重委員のオーガナイザーで開催した。内容は①第4回大規模アンケートの結果報告(西谷(中村)友重委員)および②沖縄科学技術大学院大学(OIST)の革新的な男女共同参画推進活動について(Gail Tripp先生、OIST)であった。①では基礎データや雇用形態(任期の有無)と男女差、仕事と家庭の問題などが紹介された。両立可能な職場環境、社会的制度の拡充(各種サービス、経済的支援)が強く望まれていた。②では、OISTの注目すべき制度や施設、また日本とニュージーランドの男女共同参画の違いなど紹介され、盛会裏に終えた。

FAOPS での保育室と子供待機室 保育室設置では、年度末の保育需要の高さ・英語対応・学会プログラムに合わせた長時間保育がハードルで、業者探しに苦労した。学会参加登録時点で保育希望を聞くなど、早期の需要把握が必要と感じた。会期中は会場担当者と保護者間の連絡方法の共有不足で保護者との連絡が滞る反省点もあった。外

国の子供たちとの混合保育は問題無く行えた。また、初めて子供待機室を設置し、11歳以上は保護者の同伴なしで利用可とし、常時管理者を置いたが、利用者は少なかった。事前周知を十分に言い、ポスター会場の休憩場など人目につきやすい一角を利用するなどの改善の必要がある。

WPJ(生理学女性研究者の会)によるシンポジウムの企画 WPJは女性研究者の交流と研究環境の改善を願って、1993年という比較的早期に日本生理学会のメンバーにより設立された組織である。9th FAOPSでは、若手女性研究者による最新の研究成果を広く発信すると共に、女性研究者のvisibilityをあげることで次世代育成に貢献することをおかけ、Scientificなシンポジウム“Cutting-edge Research in Neural Network Dynamics”を企画した。韓国の研究所のPIである新進気鋭の女性研究者2名と国内で最近優れた成果をあげている女性研究者2名に講演を依頼し、一般の公募シンポジウムにて採択された。今回のようなシンポジウムは、女性研究者に成果の発表機会を提供するのみならず、聴衆である女性若手研究者を勇気づけることにつながると思われた。

男女共同参画ワーキンググループの活動報告(平成30年度))

日本蛋白質科学会 (担当役員: 茶谷 絵理(神戸大学)、栗栖 源嗣(大阪大学)、白木賢太郎(筑波大学))

An annual report on activities of the gender-equality working group 2018-2019

Protein Science Society of Japan

Eri Chatani (Kobe University), Genji Kurisu (Osaka University), and Kentaro Shiraki (University of Tsukuba)

ABSTRACT: Protein Science Society of Japan has formed a Gender-Equality working group. Since the last Gender-Equality symposium held by Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE), the working group has performed the following activities: We organized a workshop on gender-equality and career plan in our annual meeting. We presented a poster for protein science in the summer school of female junior high school and high school students as a part of our activities of EPMEWSE.

第19回日本蛋白質科学会年会/第71回日本細胞生物学会大会 合同年次大会での男女共同参画活動

A) ランチョンワークショップ

「あるがままで道を拓こう」

日程: 平成31年6月26日(水) 12:55-13:45

会場: B会場(神戸国際会議場 3階国際会議室)

演者: 白壁恭子(立命館大学)

南後恵里子(理化学研究所)

司会: 茶谷絵理(神戸大学)

末次志郎(奈良先端科学技術大学院大学)

企画担当: 茶谷絵理(神戸大学)、栗栖源嗣(大阪大学)、稲葉謙次(東北大学)、田中良和(東北大学)以上、日本蛋白質科学会、末次志郎(奈良先端科学技術大学院大学)、藤ノ木政勝(獨協医科大学)、亀高諭(名古屋大学)、中村暢宏(京都産業大学)、津久井久美子(国立感染症研究所)、大澤志津江(京都大学)、佐藤あやの(岡山大学)以上、日本細胞生物学会

概要: 今から20年ほど前、博士課程の学生はほとんど男性でした。今では女性がほとんどという研究室もあると聞きます。それでは「女性研究者」のあり方は20年間でどう変わったのでしょうか。人の数だけ人生がある様に研究者としてのキャリアパスも人それぞれです。キラ星のような研究者と自分を比べて落ち込むなんてナンセンス。自分にし

か歩めない道を、あきらめず・くさらず・したたかに切り開いていくにはどうしたら良いか、一緒に考えてみませんか？本ワークショップでは、細胞生物学会から白壁恭子先生、蛋白質科学会から南後恵里子先生をお招きし、それぞれのキャリアパスを紹介いただきながら「回り道を楽しみ多様性を受け入れる」をテーマに、女性研究者も男性研究者も能力を発揮できる社会の実現を模索したいと思います。

男女共同参画学協会連絡会への参加

A) 運営委員会への参加:

主に東京近辺のメンバーが出席致しました。

B) 女子中高生夏の学校 2018～科学・技術・人との出会い～(夏学)の参加

日程: 令和1年8月10日(金)

場所: 国立女性教育会館(埼玉県比企郡)

東京大学の清水敏之、北海道大学大学院生の杉山 葵が「生命を支える蛋白質のかたちと働き」というタイトルでポスター発表しました。蛋白質について分かりやすく説明しました。

男女共同参画WG: 赤澤 陽子(産総研)、加藤 晃一(自然科学研究機構)、北尾 彰朗(東大)、栗栖 源嗣(大阪大)(H31/R1担当役員)、清水 敏之(東大)、白木賢太郎(筑波大学)(R1/2担当役員)、鈴木 智香子(第一三共)、田口 英樹(東工大)、茶谷 絵理(神戸大)(H30担当役員)、禾 晃和(横浜市大)、本野 千恵(産総研)、姚 閔(北大)、養王田 正文(東京農工大)

公益社団法人日本動物学会 男女共同参画活動報告

日本動物学会男女共同参画委員会 担当理事&委員長:・小柴和子(東洋大)

委員(第9期): 佐藤陽子(東海大), 矢澤隆志(旭川医大), 中内祐二(山形大), 美濃川拓哉(東北大), 伊藤篤子(東京高専), 向後晶子(群馬大), 近藤真理子(東京大), 佐藤恵(日本大), 柴小菊(筑波大), 中野泉(東京大), 広瀬慎美子(東海大), 吉田薫(桐蔭横浜大), 関口俊男(金沢大), 小柳光正(大阪市大), 佐倉緑(神戸大), 豊田ふみよ(奈良県立医大), 杉浦真由美(奈良女子大), 吉川朋子(近畿大), 長田洋輔(岡山理科大), 彦坂暁(広島大), 光永中坪敬子(広島大), 山口陽子(島根大), 金子たかね(九州大), 荻野由紀子(九州大), 事務局: zsj-society@zoology.or.jp

Annual report on the activity of the Zoological Society of Japan for equal participation of men and women in science

The Zoological Society of Japan

The Zoological Society of Japan (ZSJ) is an academic society whose purpose is to contribute to the development and dissemination of a wide range of zoological studies. It has been 15 years since ZSJ held the 1st annual meeting to discuss diverse issues facing women scientists. The annual meeting is now called “ZSJ Meeting on Equal Participation of Men and Women in Science”, providing a forum to discuss wider issues concerning work life balance and research activity of scientists irrespective of gender.

<公益社団法人日本動物学会(ZSJ)について>

本学会は2012年に公益社団法人となり, 2014年に135周年を迎えた。動物科学研究の発展と普及を目的とし, すべての動物を対象に, すべてのアプローチを包含しつつ「生物の共通原理と多様性を理解する」ことを目指す学術団体である。

<男女共同参画の活動>

女性研究者奨励OM賞の公募

2002年に女性会員の動物科学研究を奨励する賞を設立して表彰をしてきたが, 2013年から対象を「動物科学を研究するすべての女性研究者」に拡大した。

<2019年度の受賞者>

谷口順子 筑波大学生命環境系 学振特別研究員 PD「棘皮動物研究から探る, 脳と腸管神経系の関わりとその進化」

蛭田千鶴江 北海道大学大学院 理学研究院研究員 「ミジンコの単為生殖機構の解明から減数分裂の成立過程を探る」

学会組織

2001年に将来計画委員会で男女共同参画事業を開始し, 第1回女性研究者懇談会を開催した。2003年から男女共同参画委員会が独立し, 2008年に男女共同参画担当理事を配置し, 2013年より大会時の企画は男女共同参画懇談会となった。

男女共同参画学協会連絡会活動への参加

①第16回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

ム: ポスター発表を行った。

②WG活動への協力

③女子中高生夏の学校: グッズ提供に協力

動物学会男女共同参画委員会の活動

①日本動物学会140周年記念シンポジウムにおける報告

昨年(第89回)年次大会(札幌)でグループディスカッションを企画したが, 北海道地震のため中止となった。2018年12月9日に札幌大会の代替大会として開催した日本動物学会140周年記念シンポジウムで第4回大規模アンケートの動物学会会員に関する中間報告を行った。

前回大規模アンケートと全所属団体と, 動物学会員のアンケートを比較することで, 動物学会員の状況が示された。動物学会員は企業や研究所といった大学以外でポストを得ている人材が少なく, 学会員も大学でのPIポストを目指していることから双方は一致している。しかし, 前回と比較して任期付きポストについている割合は特に女性で増加し, 年齢が上がるにつれてその男女間格差も広がっている。学会として声を上げ, 支援する必要も考えられた。

②年次大会における男女共同参画委員会の開催およびポスター展示

: これまで, 年次大会では男女共同参画懇談会を開催し, 第90回大阪大会で19回となった。キャリアパス, 共働き・単身赴任, 育児, 介護をテーマにそれぞれグループディスカッションを行い, 活発な意見交換がなされている。

日本物理学会・男女共同参画推進委員会活動報告

日本物理学会（野中千穂・名古屋大学・nonaka@hken.phys.nagoya-u.ac.jp,

遠山貴巳・東京理科大学・tohyama@rs.tus.ac.jp,

野尻美保子・高エネルギー加速器研究機構・nojiri@post.kek.jp)

Recent Activities of Gender Equality Promotion Committee in the Physical Society of Japan

*The Physical Society of Japan (Chiho NONAKA, Nagoya Univ.,
nonaka@hken.phys.nagoya-u.ac.jp*

Takami TOHYAMA, Tokyo Univ. of Sci., tohyama@rs.tus.ac.jp,

Mihoko NOJIRI, KEK, nojiri@post.kek.jp)

The recent activities of the Gender Equality Promotion Committee in the Physical Society of Japan (JPS) are reported. Yonezawa Fumiko memorial award for women in science award has been established. As the educational activity, the committee members have joined the summer camp for junior-high and high-school girls. In the annual meeting of JPS, the luncheon meeting has been held. Also, childcare room has set up in the meetings.

日本物理学会は1877年に創立された会員数が約17000人の学会である。物理学会の女性比率は、創立当初からは増加したものの、2000年ごろから現在に至るまで約10%程度で頭打ちとなっている。2002年に発足した男女共同参画推進委員会では、今後さらに、多くの女性研究者が男性研究者と共に活躍し、多様な人材により物理学がますます発展するよう様々な活動を行っている。以下に、この1年間の主な活動内容を報告する。

【1】米沢富美子記念賞の設立

昨年度行ったアンケート調査によって若手奨励賞受賞者の男女比率と会員数の男女比率に差があることが判明した。そのことが発端となり女性科学者賞として米沢富美子記念賞が検討され、設立に至った。第1回(2020)の募集が開始している。

【2】次世代教育支援

2005年度より継続的に「女子中高生夏の学校」の実行委員会およびプログラムに本学会員を派遣している。2019年度は「実験・実習」、「ポスター展示・実演」、「進路・キャリア相談」のプログラムに担当委員5名および学生TA2名が参加し、保護者向けプログラムの実施にも協力した。また、2006年度より継続的に「女子中高生のための関西科学塾」の支援をしている。2010年度からは協賛金の形で支援をしている。

【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加している。また、物理学会は、第17期学協会連絡会の幹事学会として活動を行った。

【4】秋季・年次大会での託児室の開設

物理学会では、毎年2回春と秋に全国規模の学術講演会を開催している。どちらの大会においても合計約5,000名の研究者が参加し、3,600件におよぶ講演と活発な討論が行なわれる。大会には、託児室が設置され、事前に申し込んで希望すれば、誰でも利用できる。託児室の運営は昨年度より本委員会が主体となっている。託児室の終了後は、利用者に運営向上のためのアンケートを実施し、その内容を委員内で共有することで、より一層の利便性の向上を目指している。

【5】年次大会でのシンポジウム開催

2019年3月の日本物理学会、第75回年次大会にて、男女共同参画推進委員会主催の昼食提供型のミーティング形式でインフォーマルミーティングを行なった。参加者人数が前回の31名から41名に増え認知度も高まり、様々な方が来場された。

【6】広報活動

物理学会誌とHP(<http://danjo.jps.or.jp/>)に委員会報告やイベントごとに活動報告を掲載している。

日本森林学会大会におけるダイバーシティ推進Workshop2019開催報告

日本森林学会(竹内啓恵¹ 玉井幸治² 岩永青史² 片桐奈々³ 木村 恵² 武 正憲⁴ 山川博美² 塚原雅美⁵ 高山範理²・¹東京大学 ²森林総合研究所 ³岐阜県森林研究所 ⁴筑波大学 ⁵新潟県森林研究所

¹takeuchi@uf.u-tokyo.ac.jp ²hanri@ffpri.affrc.go.jp)

2019 workshop report of diversity promotion at the Japanese Forest Society in annual congress

The Japanese Forest Society (Hiroe TAKEUCHI¹ Koji TAMAI² Seiji IWANAGA² Nana KATAGIRI³ Megumi KIMURA² Masanori TAKE⁴ Hiromi YAMAGAWA² Satomi TSUKAHARA⁵ Masanori TAKAYAMA²・¹The University of Tokyo ²Forestry and Forest Products Research Institute ³Gifu Prefectural Research Institute for Forests ⁴University of Tsukuba ⁵Niigata Prefectural Forest Research Institute・¹takeuchi@uf.u-tokyo.ac.jp ²hanri@ffpri.affrc.go.jp)

Abstract: The Japanese Forest Society (JFS) is a scientific and professional organization that was founded in 1914 and currently has nearly 2,300 members, 19% of whom are women. Our action holds for gender equality began with the setting up of nursery rooms during our annual congress in 2002. Our division name “gender equality” was changed to “diversity promotion” in May 2018. At our annual conference in March 2019, we conducted a workshop for JFS members to freely voice and share their problems, anxieties, demands, and related issues with each other. It was found that 66% of the participants were troubled by job difficulties, including their workloads, personal shifts, business trips, and recruitment. Therefore, we are planning to hold a symposium to respond to their concerns at the next JFS annual congress.

1. ダイバーシティ推進の取り組み

日本森林学会は、1914(大正3)年に創立された、森林・林業を総合的に扱う日本で唯一の学会です。正会員および学生会員は約2,300名で、そのうち女性の割合は19%です。

本学会におけるダイバーシティ推進に関わる活動は、2002年に大会時に保育室を設置する試みから始まり、2003年に男女共同参画理事が設置されました。その後、2014年の100周年記念事業(第125回大会)に、「森林分野におけるダイバーシティ宣言」を採択し、2018年5月に「男女共同参画」部門を「ダイバーシティ推進」へと名称変更されました。また同年12月には、女性、外国人、障がい者、LGBT等の属性を有する様々な会員が、円滑に学会活動を参画できる環境を整えていくことを目指し、ダイバーシティ推進委員会を設置しました。

2. 学会会員の声

今年3月の学会大会(新潟市)において、会員が日頃抱えている不安や悩み、要望などを気軽に発言、共有する場として、「ダイバーシティ推進ランチョンWorkshop2019」を開催しました。正会員、学生会員を含めて42名(女性20名、男性22名)の参加者となり、各自がいま関心を持っているテーマ(ワークライフバランス、若手・ポストク問題、外国人、その他)を選び、それぞれの思いを無記名で自由に書き記しました。

テーマ別の参加者は、ワークライフバランスに14名、若手・ポストク問題、外国人、その他に7~8名があり、

それぞれ48件、31件、21件、22件と合計122件の声が挙がりました。その内容を、KJ法を援用し、12カテゴリーに分類したところ(下図)、テーマ別に関係なく、参加者の66%は、「仕事(量・異動・出張・就職)」に関する悩みを抱えていることが示されました。そして「交流(学際・職場・友人)」「子育て」「人生・キャリア」「ワークライフバランス」「収入・安定」「家族・パートナー」「その他」「言葉の壁(外国人)」「心身の健康」「介護」「教育・進学」の順で示されました。

今回のワークショップでは、これらの声を議論し、解決するまでには至りませんでした。会員がいま、どのような問題を抱えて日常を過ごしているかを把握することができました。今後、会員が活動しやすい環境へと整えていくために、次年度の学会大会では、これらの声に応えるシンポジウムを開催する予定です。

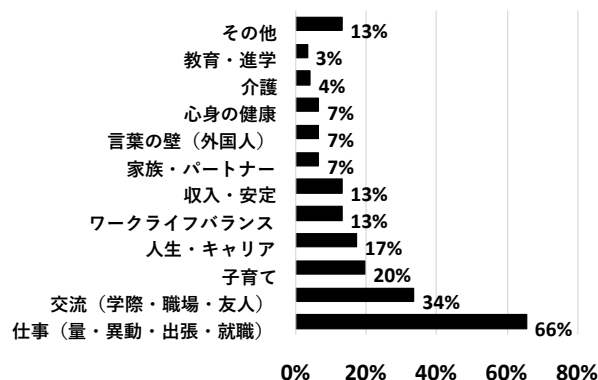


図. ワークショップにおける会員の声

地球電磁気・地球惑星圏学会活動報告

地球電磁気・地球惑星圏学会 男女共同参画担当運営委員

Annual report for promoting equal participation of men and women in SGEPS

Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS)

Abstract:

Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS) covers Atmospheric Sciences, Space electricity, Earth and Planetary surface physics, and Solid earth geodynamics fields. About 730 members are involved with 12% female members in SGEPS (August 2019). Since July in 2003, SGEPS had been belonging to EPMEWSE as an observer committee, to establish working group for promoting equal participation of men and women in SGEPS. In April 2005, SGEPS was formally affiliated with EPMEWSE. This is an annual report of SGEPS activities related to promotion of equal participation during the year from October 2018 to September 2019.

<2018年10月～2019年9月の活動について>

地球電磁気・地球惑星圏学会(以下、SGEPSSと略す)は、超高層物理学、プラズマ物理学、大気力学・化学、固体地球科学、惑星科学、宇宙科学など多様な専門領域の会員(2019年8月時点での会員数:約730名、女性比率:約12%)で構成されている。2003年7月に男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟した直後、これに対応する形で男女共同参画検討・提言WGを設置し、2005年4月に正式加盟した。本学会の2018年10月から2019年09月までの活動について、下記に報告する。

<女子中高生夏の学校 ～科学・技術者・人との出会い～>

今年の「女子中高生夏の学校」(R1年8月9～11日)において、当学会・若手アウトリーチ部会STEPLEと共同で、実験「作って・見て・測って知る、地球と宇宙の「波」のふしぎ」を提供した。実験ではストローを使って手軽に作成できる装置を、参加学生たちがグループで制作した。その装置を使用して、さまざまな波動を発生させ、波動の性質を体感してもらった。大学院生や若手研究者からの解説や研究談を交え、交流を図った。

ポスター展示発表では、「あらせ衛星によるオーロラ研究の最新成果」というテーマで、当学会の最新のトピックであるオーロラ研究の紹介を行った。また、我々SGEPSSの研究分野に進むための国内教育・研究機関の紹介や、女子中高生からの進路・キャリア相談に応じた。

<保育室の斡旋および利用料の補助>

2005年の秋学会で初めて保育室を設置して以来、毎年地方で開催される秋学会において、保育室の設置・斡旋、利用料金補助を実施している(利用料金補助:学会正会員の場合全額補助、非会員の場合500円/1時間となるように補助、ただし共に食事、保険料などは除く)。2018年度の秋学会(2018年11月23日～27日開催、場所:名古屋大学東山キャンパス)では、名古屋大学「こすもす保育園」を利用したサービスを会員に提供し、事前アンケートでは3組の回答があったが、利用者はなかった。引き続き、乳幼児同伴の会員のための託児ルームの斡旋、補助を継続する予定で、2019年度の秋学会でも、準備を進めている。

日本神経科学学会 2019 年度の活動報告

日本神経科学学会（西真弓・奈良県立医科大学・nmayumi@naramed-u.ac.jp）

Activity Report in 2019, The Japan Neuroscience Society

The Japan Neuroscience Society

(Mayumi Nishi, Nara Medical University, nmayumi@naramed-u.ac.jp)

日本神経科学学会は、脳神経系に関する研究の推進を目的に1991年に設立された団体で、現在約6000名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会開催中の同委員会の活動について報告致します。

1. 子育て中の研究者の学会参加支援

本学会における過去6年間の年次大会参加者の男女比を調べたところ、女性の割合が23.93→24.82→26.58%→25.38%→26.67%→26.63%とわずかながら増加し、その後ほぼ横ばいの状態です。特に20代の女性参加者がこの6年間で1.45倍に増えています。参加が増えている20代～30代女性が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性が今後も研究活動を継続するために重要であると考えられます。本学会では2004年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、今年はのべ48名の利用がありました。子供と一緒に使える休憩室も設置しています。今後、ポスター会場の一角における親子スペースの設置等を含め、このような取り組みを次年度以降も継続する予定です。

2. 大会中のダイバーシティ対応委員会企画

日本神経科学学会・日本神経化学会ダイバーシティ対応委員会主催ランチョン企画「外国・日本に留学している研究者の日本におけるキャリアパス」

座長：杉山 清佳（新潟大学大学院医歯学総合研究所）

東田 千尋（富山大学和漢医薬学総合研究所）

新潟朱鷺メッセにおいて開催された年次大会3日目の7月27日（土）にランチョン討論会を企画しました。今年は神経科学学会と神経化学会の合同大会であったため、この企画も両学会の合同企画としました。比較的大きな会場にて、150名分のお弁当を学会予算より提供いただき、和やかな雰囲気の中、まずオーガナイザーより企画の趣旨説明が行われました。その後、「海外に留学あるいは有職者として仕事をしている日本人研究者の帰国後のキャリアパス、また日本に留学している外国人留学生・研究者のキャリアパス」について、国籍、性別、ポジションが異なる4名のスピーカーにより、それぞれの視点からキャリア形成過程における具体的な成功談や問題点について話題提供していただきました。4人4様の大変興味深いキャリアを語っていただき、聴衆は話しに聴き入りました。この企画は英語で行われたため、外国人を含む、幅広い年齢層の男女、約150名の参加がありました。昨年同様男性研究者からも多くの質問、発言がありました。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も3年目に入り、委員のメンバーについても多様性を高めていきたいと考えております。来年の神戸の大会においても同様なランチョン企画を行っていく予定です。

日本バイオイメーシング学会 活動報告(2018年10月～2019年9月)

日本バイオイメーシング学会男女共同参画委員会

(洲崎悦子・就実大学、朽津和幸・東京理科大学、田中直子・大妻女子大学、橋本香保子・千葉工業大学、樋口ゆり子・京都大学、加藤有介・徳島大学)

Activity Report of the Bioimaging Society (October, 2018 - September, 2019)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society (Etsuko Suzuki, Shujitsu Univ.; Kazuyuki Kuchitsu, Tokyo Univ. of Sci.; Naoko Tanaka, Otsuma Women's Univ.; Kahoko Hashimoto, Chiba Inst. of Tech.; Yuriko Higuchi, Kyoto Univ.; Yusuke Kato, Tokushima Univ.)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society runs the activities to become conscious of “Gender Equality” to the members of the society. As an annual event, the members participated in the poster session of “Summer School for Female Students”. In the 6th International Symposium on Bioimaging, the members organize the opening session “Women in Science”. The Committee keeps promoting “Gender Equality” to the society.

<学会の紹介>

日本バイオイメーシング学会(1991年10月設立)は、学会名の表す通り「生命現象に関わるイメージング」をテーマとして掲げ、イメージング法の開発からイメージングによる新しい発見の紹介等、極めて幅広い研究領域に関わる研究者の学際的交流の場である。学会誌として、国際英文誌「bioimages」と、邦文誌「バイオイメーシング」を刊行している。冊子体を継続している邦文誌の表紙には、学術集会でのベストイメージ賞受賞者からの提供による画像を用いており、バイオイメーシングを象徴する雑誌体裁となっている。

会員数は総数253名で、昨年と比べてかなりの減少である。その内訳は一般会員数203名(うち女性32名 比率16%)、学生会員数50名(うち女性16名 比率32%)である。女性の会員比率は、昨年と比べて一般会員、学生会員ともに増加した。全体の会員数はかなり減少した一方で女性会員数は増加したことにより、総数に対する女性会員比率は13%から19%へと増加した。また、理事の女性比率は、女性理事数が1名増えて2名13%(15名中2名)となった。評議員については女性評議員数が7名18%(39名中7名)である。全体での女性比率が13%であることを考えると、評議員に占める女性比率は高いと言える。また、7名中の4名は男女共同参画委員であり、男女共同参画活動を通じて女性会員が学会に認知され、評議員や理

事に加わっており、他の委員会でも活躍をしている。さらに今年度からは女性理事が1名増えたが、同様に男女共同参画委員からの選出である。

<男女共同参画への取り組み>

2005年2月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2006年度からは学会内の一委員会として位置づけられ、現在は6名(男性2名、女性4名)の委員で活動をしている。最も重要な活動として「女子中高生夏の学校」へのポスター参加を継続しており、初回から今年で13回目の参加となった。毎年、学術集会でのベストイメージ賞受賞者からの画像提供によるポスターを作製し、中高生にイメージングの面白さを伝えてきた。今後は、西日本での中高生に向けた発信活動も検討していく予定である。

来る9月21～23日に開催される第6回国際シンポジウムにおいては「Women in Science」を2時間のオープニングセッションとして行う予定である。海外からもDr. LOK Shee Mei (Singapore)、Dr. Isabelle Aubert (Canada)という各領域でのトップ研究者を招いて、最新の研究成果と共に女性研究者としての思いも語ってもらうことになっている。委員全員盛会となるよう、緊張感と共に準備を進めているところである。

今後も積極的に無理のない活動を進め、会員にも気軽に参加してもらえる活動を念頭に、男女共同参画推進やダイバーシティ実現への喚起を継続していく予定である。

日本育種学会 男女共同参画推進委員会活動報告

日本育種学会（高梨秀樹・東京大学、江花薫子・農研機構遺伝資源センター）

Activity report of gender equality in the Japanese Society of Breeding

Japanese Society of Breeding

(Hideki Takanashi・The University of Tokyo,

Kaworu Ebana・National Agriculture and Food Research Organization)

Abstract: Japanese Society of Breeding has been established in 1951 for aiming at the progress of the research and the technology, interchanges and cooperation of the researchers, and the spread of knowledge on breeding science. We publish two journals quarterly, "Breeding Science" in English and "Breeding Research" in Japanese and hold a meeting twice in a year. Percentages of women are 14% of the general member, and 30% of the student member in 2018. The activities for gender equality in the society are reported here.

日本育種学会は、品種改良の科学である育種に関する研究および技術の進歩、研究者の交流と協力、および知識の普及をはかることを目的として1951年に設立された。年2回の講演会の開催、シンポジウム等の開催および講演協賛、英文学会誌「Breeding Science」および和文学会誌「育種学研究」の刊行、講演会要旨集「育種学研究別冊」の刊行、学会賞、奨励賞および論文賞の授与、国際交流の強力な推進を行っている。2015年9月からは一般社団法人日本育種学会となった。会員数は2019年現在1495名であり、一般会員1,144名（男性966名、女性161名）、学生会員295名（男性162名、女性85名）、その他の会員63名となっている。女性会員の占める割合は、一般会員で14%、学生会員で30%であり、最近数年は微減状態にあったが、今年度は1%程度増加に転じている。

<男女共同参画のあゆみ>

日本育種学会は、2006年4月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟した。学会員の意識向上と学会活動における男女共同参画の実現を目指し、2007年4月に「男女共同参画推進委員会」を発足した。本年度から学会運営委員会の幹事長が委員長を担当することになった。現在、委員会は男性4名、女性2名で構成されている。

<活動状況>

1. 男女共同参画セミナー等の開催

講演会会期中に育種学会における男女共同参画を目指したテーマのランチョンセミナーを企画し、2007年から2010年に4回開催した。2012年からは、アンケートの結果を踏まえ、対象を女性会員以外にも広げてのワークショップやランチョンセミナーを開催している。2018年の秋季大会講演

会のセミナーでは、岡山大学ウーマンテニュアトラック（WTT）に関し、大学担当者から制度の説明を受け、WTT制度による3名の研究者から、出産と研究との両立や、研究テーマの変遷に関する講演を実施した。20-30代の若手会員の参加が多く、働き方改革やキャリアパスの多様化等に対する若手会員の関心の高さが実感されたセミナーとなった。2019年の秋季大会講演会においてもランチョンセミナーの開催を予定している。

2. 講演会会期中の保育室の設置

2008年の春季大会講演会において6年ぶりに会場内に保育室を開設して以来、状況により設置形態は異なるが、講演会会期中の保育室の設置は継続している。2011年の秋季大会講演会からは、大会運営マニュアルに組み込むよう保育室の利用規定や申請書等を整備した。

3. 女性の登用

会員全体の女性比率を踏まえ、学会役員等の女性比率10%以上を目標に女性登用に努力するよう要望している。2010-2011年には学会役員（幹事）における女性比率は目標の10%を達したが、その後は減少し、2017-2018年は3%（60名中2名）となった。2018-2019年は5%（73名中4名）と若干増えているが、女性役員登用はなかなか進んでいない。

4. ホームページの開設

学会ホームページ内に男女共同参画推進委員会のページを開設し、活動報告やアンケート調査結果、ランチョンセミナーの資料等、内閣府男女共同参画局等へのリンクを掲載している（<http://www.nacos.com/jsb/03/03danjyoiin.html>）。

2018-2019年度 日本地球惑星科学連合 男女共同参画活動報告

日本地球惑星科学連合ダイバーシティ推進委員会 e-mail: office@jpgu.org

2018-2019 Activity Report of Committee for Diversity Management and Talent Pool, JpGU

Committee for Diversity Management and Talent Pool, Japan Geoscience Union (JpGU)

Activities on gender equality have been promoted by information exchange among affiliated associations to JpGU and by cooperation with other scientific fields of EPMWSE. JpGU is surveying the career paths of geoscientists of Japan for the future.

Times New Roman 10P

<活動報告(～2019年9月)>

2017年10月18日(水) キャリアパスミニシンポジウムを函館にて開催、若手研究者2名に講演いただく。地方開催ながらも40名弱の参加あり。

2018年1～5月 ハラスメントアンケートの実施、解析結果を基に取り組むべき対策を抽出。

2018年5月20日～24日(日～木) 千葉幕張メッセにて開催された2018年連合大会にて、保育ルールの紹介と利用料金の補助を実施。会場近隣の毎年利用している託児所に委託。利用者数延べ17名。キャリアパス支援ブースの運営。**5月21日(月)** にダイバーシティ推進委員会を開催。**5月22日(火)** にはパブリックセッション(一般参加者も含めたセッション)にて、「研究者のためのメンタルケアとコミュニケーション術」に関する話題を取り上げた。招待講演者は臨床心理の専門家。同日、ユニオンセッション(分野横断的なセッション)にて、英語での国際共同セッションを開催した。タイトルは、「国際的・分野横断的な視点からみた地球科学分野の女性研究者の雇用とワークライフバランス」。多数の国を渡り歩いてきた日本人女性研究者のキャリアパスの紹介、スウェーデンの大学に務める男性研究者からのアンコンシャスバイアスに関する話題提供、日本の大学に務める男性研究者からみた日本の研究現場の現状への感想、などの話題が提供された。

2018年8月9～11日(木～土) 「女子中高生夏の学校2018～科学・技術・人との出会い」の運営、実験実習(テーマ:海底を覗いてみよう～堆積物の観察～)、ポスター展示に参加。

2018年10月13日(土) 連絡会シンポジウムに参加。

2019年5月26日～30日(日～木) 千葉幕張メッセにて開催された2019年連合大会にて、保育ルールの紹介と利用料金の補助を実施。今年は会場施設内に託児所を開設し、出張託児業者に委託。また、キャリアパス支援ブースを運営。**5月26日(日)** にダイバーシティ推進委員会を開催。同日、パブリックセッションを主催し、「日本人がやりがちなおかしい英語」に関する話題を取り上げた。高校生や一般の方を含む多数の参加者があり盛況を博した。また、同日ユニオンセッションにて、「地球惑星科学分野のダイバーシティ推進状況:国際的な視点から」と題する英語セッションを開催した。同セッションは、米国および欧州の地球科学連合学会(AGU、EGU)と国際共同の形で行い、各コミュニティにおけるダイバーシティ推進の現状や取り組みについて情報の共有や、国際的な視点での比較など様々な議論がなされた。

2019年8月9～11日(金～日) 「女子中高生夏の学校2019～科学・技術・人との出会い」の実験実習(テーマ:私たちが暮らす平地はこうして出来る!(地形形成の模型実験))とポスター展示に参加。

2019年10月12日(土) 連絡会シンポジウムに参加。

一般社団法人日本繁殖生物学会 男女共同参画推進活動報告

日本繁殖生物学会・男女共同参画推進委員会（岡田幸之助・日本獣医生命科学大学動物科学科）

Report on Promotion Activity for Gender Equality in Society for Reproduction and Development (SRD)

*Society for Reproduction and Development (Konosuke OKADA, PhD.,
School of Animal Science, Nippon Veterinary and Life Science University)*

Abstract: In order to increase female board members, chairpersons, and invited speakers in the annual meeting, we are addressing to the SRD members through a luncheon seminar at the annual meeting. Also, the list of male regular members was prepared according to their special study.

＜日本繁殖生物学会(SRD)について＞

日本繁殖生物学会は、飼育動物や野生動物などを主とした脊椎動物の繁殖に関する学術研究を振興し、その成果の普及を図ることを目的に、1948年に設立された70年以上の歴史をもつ学術団体です(会員数2019年6月、794名)。現在は、性と生殖に関わる様々な現象とメカニズムに関する研究、基礎的知見を応用した人工繁殖に関する技術開発、農学・理学・医学分野等との融合による複合領域研究などを包括する学会に発展しています。年に1回開催される学術集会では、一般講演とともに学会内外からの講演者を招いたシンポジウムを行い、活発な議論が交わされています。また、年に6冊発刊される学会誌Journal of Reproduction and Developmentは、Institute for Scientific Information (ISI)に2003年に登録され、国際誌に発展し、2019年には第65巻が刊行され、最先端のバイオサイエンス研究の一部を担う学術雑誌として先導的役割を果たしています。

＜SRD男女共同参画推進委員会について＞

2007年の男女共同参画学協会連絡会への加盟を起点として、本会に男女共同参画推進委員会が設置され、「会員の多様性を尊重し、老若男女問わず活躍できる学会」を目指して活動を行っています。学術集会では託児室が設けられ、男女共同参画推進の意義や女性研究者ロールモデルを紹介するランチョンセミナーの開催(2010～2019年大会、2017年は休止)、理事会へ「学会役員会(理事会、評議員会、各委員会)における女性会員比率の一定以上確保に関する提案」(2011年)などを行ってきました。現在までに本学会では、学会員全体に占める女性比率(2007年度15.3%→2017年度25.1%)、正会

員に占める女性比率(2007年度11.5%→2017年度19.1%)は、いずれも増加傾向にあります。これに比例して女性の役員比率も伸び、男女共同参画は着実に推進しています。一方で、学生会員に対して正会員における女性比率は低く、役員の重複率も男性会員より女性会員の方が高いという課題もあります。多様な人材を育成すべく、今後もさらなる活動が必要と考えます。

＜2019年度の活動について＞



第112回北海道大会では、「俺たちの研究スタイルとライフスタイル」というテーマでセミナーを開催しました。過去のセミナーには、主に女性視点での講演を企画してきました。一方、社会や家庭内で男女共同参画が推進されていく中、男性側はどのような考えを抱いているのかを探るべく、今回のテーマを掲げ、40代男性会員2名のお話を伺いました。両名とも積極的に育児・家事に関わる一方で、日々の研究・教育活動や本務地業務を限られた時間内に効率的に進めるために、様々な努力されていることが強く感じられました。以前に比べるとより若い年代で、育児や家事に自ら取り組む男性会員が増えてきているようにも思います。最後に、セミナーにはおよそ100名の会員が参加し、克服すべき課題など様々な情報を共有できました。自然/自発的な男女共同参画が進んでいくよう、今後も活動を重ねていく次第です。

生態工学会の活動と報告(2019)

生態工学会(横谷香織*・筑波大学, オン碧・筑波大学・加藤浩・三重大学
*yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp)

The Society of Eco-Engineering, 2019

The Society of Eco-Engineering (<http://www.see.gr.jp/>)

Abstract: Our society is “The Society of Eco-Engineering”. We are interesting in environmental research and engineering. In our society, we try to promote the gender equality in the committee of the activation of scientific social communication for the next generation. We established “Young researcher’s committee for Eco-Engineering, YRC-Eco” four years ago. In this year, we are continuing to have a chance to exchange the several opinions in individual way of life and discussed in a wide generation at the annual conference. We also tried having a day nursery during our conference. We regard the human harmony with the natural environment. We will promote the percentage of women member in our society.

<生態工学会の紹介>

生態工学会は、工学的手法を駆使して、物質循環の仕組みを解明し、人類が共存できる生態系を維持していくためにはどのような行動指針を持たなければならないかの追求を目指す学協会である。将来の有人宇宙活動や月面・火星基地などにおける生命維持に使われるであろう小規模な閉鎖生態系も研究の対象としている。

<生態工学会の理念>

地球はその重力によって物質的に閉鎖された空間を形作っている。その環境は、数十億年という長い年月を経て、発生、進化、消滅を繰り返してきた生物たちによって作られ、数多くの生物種からなる生態系の働きで維持されてきている。昨今、人間のあまりにも急激な経済活動の発展に起因する資源の乱用と大量の廃棄物の放出によって、調和の取れた生態系の存続が危うくなってきたことから、生態工学会は、このかけがえのない地球で人類が継続して生存するために、人類の活動が自然生態系に調和することが不可欠であると考え、自然生態系に調和した持続可能な循環型社会はどうあるべきか日々追究している。

<生態工学会が目指す循環社会>

生態工学会が目指す循環型社会は、食糧や資源などの安全で有効な生産と活用そして再利用による自然環境に負荷を与えない物質循環がなされている社会で、温室効果ガスや環境ホルモンなどの有害ガスを排出・蓄積しない再生可能なエネルギーの生産と活用がなされている社会である。そしてこれを可能とする社会システムの機能による自然と調和した安全・安心な人間社会である。

<男女共同参画社会推進の取り組み, 2019>

”次世代科学社会活性化委員会”の中の“若手の会”は、2015年に発足して4年目を迎えた。当委員会は、昨年から開催されている、次世代科学社会応援シンポジウムに協賛し、今年度も3月に、当学会定例シンポジウムと合同で、当委員会と若手の会が中心になり開催できた。本委員会は、「研究者の生活 - 世代を超え伝えたいこと・知りたいこと」を主テーマとして、活動してきている。若手の会も、若手が中心となり、年會に親睦会を開催するなど組織として安定した活動が始まった。生態工学会の男女共同参画社会に対する貢献と意識は、年々更に高まってきたと受け止めている。

<生態工学会のロゴマーク>

生態工学会のロゴマークは、人間を中心に、エネルギー源である太陽と技術を象徴する歯車が描かれ、その周囲に生態系を構成する動物と植物が配置されている。人間社会の豊かさを常に考え追究している。調和を重んじて、次世代の男女共同参画社会確立にも強く促進したいと考え、実行しようと試みる学術団体である。



生態工学会のロゴマーク

日本遺伝学会 男女共同参画活動報告

日本遺伝学会(男女共同参画推進担当幹事 大阪大学・篠原美紀、熊本大学・荒木喜美)

Annual report on the activities for gender equality in the Genetics Society of Japan

The Genetics Society of Japan

(Miki Shinohara (Osaka Univ) and Kimi Araki (Kumamoto Univ), Councilors of the GSJ)

<http://gsj3.jp/index.html>

The Genetics Society of Japan was established in 1920, and has members from various fields of genetics. Although about 20% of the members are women, female students comprise about 39% of the total student members. The main aim of our society in gender equality activity is to support students and young researchers for the continuation of their research under the slogan of “Supporting the developing buds of talented scientists”. The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted its actual practice in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Committee for Promotion for Gender Equality of the society during last year.

(1) 公開ランチョンワークショップの開催

福井大学文京キャンパスにおいて開催された日本遺伝学会第91回大会では、日程初日2019年9月11日(水)12:00~13:10に、『女性にとってワークとライフの境目は？～女性就業率ナンバーワン福井県の秘訣！～』と題したランチョンワークショップをおこなった。参加人数は100人を超えて盛況であった。冒頭の会長挨拶では、人間は、子育てに労力を使う動物で、今の時代に女性が社会進出をしようとすると子育てがネックとなることは明らかで様々な支援を行なっていく必要がある。鳥は巣作りしてから卵を産むもので卵を産んでから鈴栗をする鳥はいない、とインフラ整備の充実の必要性を説明された。大会参加時アンケートの解析結果について、男女共同参画担当幹事が報告を行った。2019年の全会員に占める女性割合は23.8%(一般会員16.1%、学生会員38.0%)で過去最高値であった事は喜ばしいが、一方で、職位が上がるほど女性比率が下がる傾向は続いている。また、男女問わず博士課程の学生の参加者が非常に少なく将来的な心配要因であること。発表形態別の男女比などについて報告された。続いて、福井大学男女共同参画推進センター長の末信一郎先生に福井大学における男女共同参画推進の取り組みについてご講演をいただき、福井大学男女共同参画推進センターの活動をご説明頂いた。また福井県は就業率全国1位であるが、管理職登用率は9%と低いことが指摘されている。裏作ができなかったため女性が機織りなどで現金収入を稼いできたことが背景としてあり、共働きが多いことから惣菜コーナーがとても充実しており、福井モデルという祖父母に預けて働くスタイルが一般的であるという紹介があった。

続いて福井県立大学の丸山千登勢先生に「働き盛り世代のワークライフバランス—やって失敗はただの失敗。やらずにいるのは大失敗」と題した講演をして頂いた。丸山先生の学会でのラウンドテーブルディスカッションから働き盛りの世代の悩みはそれぞれ多様でその支援も多様でなければ対応できないとのこと意見を頂いた。また先生のキャリアパスがユニークで会場の若手会員の励みになった。

(2) 学会大会参加者の属性調査

大会参加者の女性比率は24.5%で全会員の女性比率とほぼ同じであった。一般発表での女性比率は口頭27%、ポスター24%で参加者比率よりもやや高いか同じであるのに対して、選抜のあるWS、シンポジウムの演者ではいずれも12%あるいは4%で低くなっている。一方で、学会選出の一般発表の座長は24%と参加者比率に合わせて選出を行った。WS/シンポジウムオーガナイザーでは9%と低い水準となった。これは自薦であることから女性参加者の積極的な参加が必要であることから、特に若手の女性に積極的なWSの企画をランチョン及び、総会において担当幹事の方から呼びかけた。

(3) 学会大会参加への支援

男女共同参画推進の観点および支援の多様化に対応するために、学会大会に参加の際に、育児や介護等で支援が必要な場合に対して、1件5万円を上限とした総額15万円程度の支援を実施している。91回大会では1件の支援を行った。事後であっても、必要が生じたときには申請を受け付けることとした。まだ、必要としている会員への周知が徹底していないことから総会などで呼びかけを行った。

日本建築学会における男女共同参画活動報告

一般社団法人日本建築学会 男女共同参画推進委員会(委員長 山口広嗣・(株)竹中工務店)

Annual report on the activities for gender equality in the Architectural Institute of Japan:AIJ

Architectural Institute of Japan (Hirotugu YAMAGUCHI, Takenaka Corporation.)

Abstract:

The number of women members in the Architectural Institute of Japan: AIJ accounts for 14.8% of 33,957 all members. We set up a Committee of Promotion for Gender Equality in AIJ in 2007. Then announced the Principle and the Action Plan for Gender Equality in AIJ and the field of architecture in 2008.

In 2018, over 10 years after set up committee, we have formulated a new action plan for next 10 years. In addition, after we have held the "Women's Members Meeting" at each branch of AIJ, we declared to set up a "Nationwide Architectural Gender Equality Network Meeting" as a platform to consolidate and share the activity.

日本建築学会は、正会員33,957人(2019年3月時点)、産学官一体の大規模学会です。うち女性会員比率は14.8%で、10年前の2008年の11.7%に比べて3.1ポイント上昇しています。若い年代ほど女性比率が高い傾向があり、加えて、準会員(学部学生)では、1,182人のうち女性準会員比率は32.1%と1/3に近づく勢いです。建築分野では今後ますます女性が増え、活躍する場がひろがっていくと予想されます。

そうしたなか、男女共同参画推進委員会を設置し、本学会理事あるいは委員会理事に女性が専任される体制づくりに努めるとともに、業界における男女共同参画にかかわる実態調査、情報発信、交流活動を行っています。

<沿革>

2005年:「男女共同参画社会における建築学に関する得別研究委員会」を発足。

2007年:男女共同参画推進委員会を常置委員会として設置し、平行して男女共同参画学協会連絡会に正式加入

2008年:「男女共同参画推進行動計画」策定

2018年:「男女共同参画推進新行動計画」策定

2019年:「全国建築男女共同参画ネットワーク宣言2019」

<基本理念>

日本建築学会は、本会における男女共同参画の推進により、建築の多様で広範な分野における両性の自由で平等な参画と、ワーク・ライフ・バランスを実現し、持続可能な多様で豊かな生活空間の創造と改善を目指す。

これまで、3回にわたるアンケート調査を実施し、建築分野における民間企業、大学、それぞれの男女共同参画の現状や課題をさぐってきました。

さらに、三年前より、全国の支部での「建築学

会女性会員の会」の開催をすすめ、一昨年度からはすべての支部で、女性会員が交流し、学生へのメッセージを伝える等の活動が展開されるに至りました。毎年、全国大会に合わせて男女共同参画シンポジウム等を開催していますが、本年は、「全国各支部がつながり、建築界の男女共同参画を推進していくために」と題して9月3日に開催しました。パネルディスカッションでは、「ジェンダーと建築」と題した基調講演の後、『「建築学会女性会員の会」の活動の振り返りと問題提起』をテーマに、4支部の代表をパネリストに迎え、男性にとっても女性にとっても魅力ある建築界であるために、報告や事例紹介に留まらない展開・発信の形を考えていく機会としました。

行動計画策定より10年を経過し、整備されてきた制度の実効性向上であるととらえ、昨年、新たな10年の新行動計画を策定しました。新行動計画では、1)全国に広がる男女共同参画にかかわる活動の中核として持続的に活動する、2)男女共同参画推進のための具体的目標を設定し、活動を見える化する、3)実効性を高めるためにその阻害要因を調査し解決する、4)海外の男女共同参画及びジェンダー平等活動と連携し、世界に通用する男女共同参画社会を築く、を柱としました。

今年度は、この活動を集約し、共有化するプラットフォームとして「全国建築男女共同参画ネットワーク宣言2019」を全国大会で宣言しました。来年3月に東京での会議を開催する予定です。

建築・空間を使う人が多様なように、空間創造の仕事にも多様な視点が必要であり、つくる人自身の家庭や地域での豊かな生活体験が仕事に活かされるのが、この分野の特徴です。多機能な建物に関わる分野に学んだ男女の学生が、共通の将来の「ゆめ」を築き、やりがいを持って創造活動に取り組める環境づくりに、今後とも取り組んでいきたいと考えています。

種生物学会 男女共同参画活動報告

種生物学会男女共同参画担当 堂園いくみ(dohzono@u-gakugei.ac.jp)

Recent activities for gender equality in the Society for the Study of Species Biology (SSSB)

Society for the Study of Plant Species Biology (SSSB) (DOHZONO, Ikumi · Tokyo Gakugei University · dohzono@u-gakugei.ac.jp)

Abstract: The Society for the Study of Species Biology (SSSB), founded in 1980 to promote studies related to species biology of plants. Number of society member in 2019 is 323 of which 28.5% are females. The society contributed the Large-Scale Survey of Actual Conditions of Gender Equality in Scientific and Technological Professions conducted by the Japan Inter-Society Liaison Association Committee in 2007 and joined the Liaison Association in January 2008. At the annual symposium of the society in 2018, a nursery was provided in the symposium venue for three days. The total eleven children joined the nursery during the three-day symposium.

<種生物学会について>

種生物学会は、植物実験分類学シンポジウム準備会として発足した。1968年に「生物科学第1回春の学校」を開催し、1980年に種生物学会に移行した。進化生物学、植物分類学、生態学、育種学、雑草学、林学、農学、保全生物学などさまざまな分野の研究者が、分野の枠を超えて交流・議論する場となっている。1986年に学術雑誌 Plant Species Biologyを発刊し、1999年からは Blackwell 社(2008年からWiley-Blackwell社)から出版されている。今日的なトピックスを選び毎年開催してきた「種生物学シンポジウム」は、2018年12月で50回を迎えた。29回からシンポジウムの内容は和文学会誌として出版されてきたが、「花生態学の最前線」(2000年)以後は単行本(種生物学研究シリーズ)として文一総合出版から発行され、大学院生を中心に若手研究者の手引き書としても活用されている。

2019年8月における個人会員総数は323人(うち女性92人、比率28.5%)である。内訳は一般会員249人(うち女性62人、比率24.9%)、学生会員74人(うち女性30人、比率40.5%)である。

2008年1月から同連絡会に正式加盟した。

<入会方法>

以下の学会ホームページの「入会案内」のページから入会手続きができる。

<http://www.speciesbiology.org/>

<男女共同参画の状況>

特にポジティブアクションは実施していないが、2007年から2018年までの学会賞(若手奨励賞)の受賞者22名のうち9名が、論文賞受賞者19名のうち11名が女性である。また、2018年の学会主催のシンポジウム企画者4名は男性であり、招待講演者10名のうち女性は2名であった。学会運営にも、複数の女性会員が役員として参画しており、学会員の選挙により選出される幹事14名のうち5名が女性である。

<シンポジウムにおける託児サービスの提供>

毎年12月に開催している種生物学シンポジウムでは、会場近くの託児施設を紹介していたが2009年までは利用実績はなかった。2010年のシンポジウム(京都大学)で初めて託児室を設置し、1家族(3名)の利用があった。2013年以降は、合宿形式のシンポジウムを開催しており、会場近くの保育所か会場内に託児室を設置した。2013年は2日間で延べ6名、2014年と2015年は3日間で延べ9名、2016年は3日間で延べ4名、2017年は3日間で延べ10名、2018年は3日間で延べ11名の利用があった。

日本獣医学会の男女共同参画のための活動と獣医学分野の現状

公益社団法人 日本獣医学会・男女共同参画担当

Activities for gender equality of The Japanese Society of Veterinary Science and the current state of the veterinary field

The Japanese Society of Veterinary Science (Committee of gender equality)

The Japanese Society of Veterinary Science is established in 1885. Now, regular and student members of The Japanese Society of Veterinary Science are 3332, and ratio of female veterinarians is around 20% in regular member and 40% in student member. Since 2008, the Japanese Society of Veterinary Science has started their activities for the gender equality. Recently, veterinarians are involved in broad-ranging professional fields. However, the high turnover rate and low return rate of female veterinarians during/after life events remain a challenge in veterinary field. There is a need to create environments in which female veterinarians can fully demonstrate their abilities throughout their lives.

(一行あける)

【日本獣医学会】

日本獣医学会の前身となる大日本獣医会は1885年(明治18年)に創立された。当時の会員数は166名であり、その後中央獣医会と改称、1921年(大正10年)に日本獣医学会が発足し、1939年(昭和14年)、中央獣医会と日本獣医学会が合併して、大日本獣医学会と改称、1948年(昭和23年)に今日の日本獣医学会(当時の会員数2287名)となった。

2019年9月の時点で、獣医学会は正会員2934名、学生会員398名である。正会員のうち女性会員は約20%、学生会員のうち女性は40%程度である。また、学会役員は22名、うち女性は2名である。

現在、獣医師の活動分野は多彩である。人、動物、環境を地球規模でとらえる「One Health, One World」のコンセプトに基づき、人獣共通感染症、栄養学、繁殖学、大動物・小動物臨床における先端の治療技術の研究、食品衛生・食の安全、環境衛生・毒性学、動物用・人医薬品の開発、バイオテクノロジーなどバイオメディカル分野における基礎研究、野生動物分野ならびに地球生態系保全に関する研究も活発である。

【男女共同参画の活動】

日本獣医学会は、2000年に獣医学会の有志の会員により保育室利用者の会を発足し、自主的な保育室の運営を開始した。2008年にこの保育室を学会の事業として支援することを正式に決定し、2009年より運営を開始し、現在まで継続している。

2008年、日本獣医学会は男女共同参画学協会連絡会に正会員として加盟した。加えて獣医学会内でも担当理事を設けて男女共同参画を積極的に取り入れた活動を奨励している。2013年-2014年には学会主催で男女共同参画に関するシンポジウムや市民公開講座が開催された。

また、男女共同参画学協会連絡会の主催するシンポジウムでは、ここ数年、継続してポスター発表を行っている。

【獣医系職における男女比の変化】

日本獣医師会による全国獣医系大学への調査(2019年度)では、教員における女性の割合は12%にとどまっている。助教や助手の女性比率が26%であるのに対し、講師では22%、准教授では11%、教授では4%に満たない結果となっている。この傾向は獣医学分野に限ったことではなく、大学では上位職における女性の割合の低さが際立っている。獣医学部卒業後に大学院等に進学する学生の女性比率は37%と決して低くはないが、大学上位職の女性比率は2018年度とほぼ同じ数字となっており、ここ数年の短期間では目立った変動はない。

一方で、卒後の20歳代の獣医師の男女比は全国的には男性52%、女性48%であり、ほぼ均衡している。農林水産省による2018年の卒後直後の進路調査では小動物は50%以上、産業動物では40%、公務員では60%と非常に高い女性比率を占めている。特に小動物分野に従事する女性獣医師の数は増えており、30代以下は顕著に多い。しかし、卒後直後ではない平均を見ると、小動物の女性比率は33%、産業動物は13%、最も女性比率の高い公務員でも40%となっており、ライフイベント後の離職率の高さと復帰率の低さが課題となっている。

これらの課題の解決のために、日本獣医師会では委員会を設置、また、国、自治体でもスキルアップの研修や雇用者理解のための講習会など、取り組みが始まっている。今後も増加が見込まれる女性獣医師が、生涯を通じて能力を十分に発揮できる環境づくりは、女性のみならず、獣医師全体の就業状況の改善にもつながると考えられる。

日本畜産学会 男女共同参画活動報告

日本畜産学会 若手奨励・男女共同参画推進委員会
(学会事務局 TEL.: 03-3828-8409 E-mail: info@jsas.org.jp)

Japanese Society of Animal Science - Activity Report of gender equality

Japanese Society of Animal Science (URL: www.jsas-org.jp)

Japanese Society of Animal Science (JSAS) was established in 1924 for all the people who are involved in the animal industry in a variety of ways, directly or indirectly. The objective of JSAS is to contribute to advance and growth of animal science and the animal industry of Japan. In addition, JSAS is releasing updates on animal science to the world, building up closer links with organizations concerned in Japan and abroad. As of Aug 2019, the society has 1,827 members and supporting groups in all. The members are attached to a wide range of fields such as industries, governmental agencies and organizations of higher education. JSAS has been promoting gender equality by holding symposiums/seminars, providing childcare services at the annual meeting, etc.

<日本畜産学会について>

日本畜産学会は、畜産及び社会と動物のかかわりに関する学術研究の発表、情報交換の場としてその進歩普及を図り、わが国における畜産学および畜産業の進歩・発展に資することを目的として1924年に設立された。現在は公益社団法人日本畜産学会として、国内だけでなく海外の関連組織との交流・連携を深めて広く世界へ最新の学術情報を発信するよう努めている。研究発表会(年1～2回)および学術講演会を開催し、機関誌(英文誌 Animal Science Journal; 和文誌日本畜産学会報)を発行している。

2019年8月現在の総会員数は1,827名(うち正会員1,372名、学生会員244名)で、正会員に占める女性会員の割合は15.5%、学生会員に占める女子学生の割合は47.5%である。全体的に会員数は減少しているが、正会員・学生会員共に女性比率は横ばいである。

<畜産学会における男女共同参画の歩み>

日本畜産学会では、2009年に「若手・女性のための委員会」を設立し、2011年からは委員会の名称を「若手奨励・男女共同参画推進委員会」に変更して、学会大会開催時の保育室常設、シンポジウムの開催、男女共同参画学協会連絡会への正式加盟などを行ってきた。学生会員の女性比率が高いことから、2013年度からは、若手会員有志による活動組織(若手企画委員会)をこの委員会の内部組織として位置づけ、男女共同参画に関わる活動を学生・若手研究者のキャリア形成

支援活動と連携して行っている。

<2018-2019年度活動状況>

(1) シンポジウム・セミナー開催

・若手企画委員会主催シンポジウム(第3回サイエンスキャンプ):「アニマルサイエンスのフロンティア」(2018年8月7日(火)～8日(水)を広島大学にて開催した(参加者23名)。

・第125回日本畜産学会大会(2019年3月27-30日)の開催期間中に、以下を開催した。

☆ランチョンセミナー「企業で活躍する女性研究者～牛乳の品質と製造方法に関する最新の知見～」(参加者数約120名)

☆若手企画委員会主催ランチョンセミナー「次世代シーケンシング技術(NGS)の最新動向」(参加者数101名)、サイエンスナイト「いかにして研究成果を生産現場に還元するか」(参加者44名)。

(2) 第125回大会において大会内保育室を設置した(大会事務局担当)。

(3) ホームページ等での情報発信

学会 HP 内男女共同参画および若手企画のページより、大会企画の案内・報告、イベントへの参加報告、読み物等の情報を発信している。また、委員会のクリアファイルを作成し配布した。

(4) その他

学会役員・委員への女性の登用について、現在、理事会および機関誌編集委員会に参画する女性会員は5.2%である。近年、女性会員が功労賞(2013年度)および学会賞(2014, 2017年度)を受賞し、また、学会大会会長(2015年度)となった。

公益社団法人日本水産学会 活動報告
公益社団法人 日本水産学会 男女共同参画推進委員会

Activity Report of the Japanese Society of Fisheries Science

The Japanese Society of Fisheries Science

(4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, TEL/FAX 03-3471-2165, e-mail: fishsci@d1.dion.ne.jp)

Abstract: The Japanese Society of Fisheries Science (JSFS) was established in 1932 and is a non-profit registered charity, dedicated to the promotion of all aspects of fisheries science. 3,173 members belong to the society and 416 of them are women. The committee on gender equality was set up and the activity was started in 2012. This is an annual report of JSFS activities related to promotion of equal participation of men and women until September 2019.

＜日本水産学会の概要＞

日本水産学会は、水産学に関する学理および応用の研究についての発表、連絡、知識の交換、情報の提供などを行う場となることにより、水産学に関する研究の進歩・普及を図り、学術の発展に寄与することを目的として1932年に設立された。2011年3月1日には公益社団法人として認定され、2019年における会員（名誉会員、正会員、団体会員、賛助会員、外国会員および学生会員）の総数は3,387名であり、個人会員3,173名のうち女性は416名、学生会員291名のうち女性は95名である。国内はもとより、諸外国からも水産系の最も充実した学会として認められている。男女共同参画学協会連絡会へは、2011年度に正式加盟が承認され、2012年3月に男女共同参画推進委員会が発足した。

＜男女共同参画に関する取り組み＞

これまでに、①学会大会開催期間中における託児所の設置、②日本水産学会誌における女性研究者からの話題提供（2010年7月号～、隔月、「水産科学の分野で活躍する女性たち」など）を行ってきた。2018年以降における主な活動内容は以下のとおりである。

2018.3.26 日本水産学会春季大会理事会主催シンポジウム「日本水産学会のこれから―課題と展望」において、「将来へ向けた会員制度のあり方―多様な参画の確保へ向けて」を講演

2018.3.29 日本水産学会春季大会において、男女共同参画推進委員会談話会（ランチョンセミナー）「第3回 水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催

2019.3.26-29 日本水産学会春季大会において、大規模アンケートの結果のダイジェスト版をクリアファイルで配布

2019.3.29 日本水産学会春季大会において、男女共同参画推進委員会談話会（ランチョンセミナー）「第4回 水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催

なお、日本水産学会の全委員会委員数（延べ）271名のうち女性は21名で（特別委員会を除く）、役員17名のうち女性は1名である。数値のみにとらわれず、水産分野における男女共同参画推進についての質的な問題点の整理を当面の目標としている。

＜学会の活動＞

【大会の開催】 年2回（春季・秋季）開催される大会では、研究発表、シンポジウム、会員交歓会等が行われる。水産学関連の学会の中でも最も規模が大きく、この分野の中核をなす集会であり、周辺分野を含めた水産関連の最新の情報を得ることができる。

【支部の活動】 各地域の水産業との連携を強めるため、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の7支部を設け、研究発表会、講演会、見学会等の地域に根ざした催しを開催している。

【学会誌の刊行】 奇数月に約10編（年間約60編）の和文学術論文と各種の情報を掲載した「日本水産学会誌」、約20編（年間約120編）の英文学術論文を掲載した「Fisheries Science」を刊行している。

【学術図書の刊行】 最新の進歩を記述した単行本「水産学シリーズ」、水産に関する様々な知識や情報を一般向けにわかりやすく提供する「ベルソーブックス」、水産の技術的解説ノートなどを論文にした「水産技術」の監修を行っている。

【産業界との連携】 産業界と学会を有機的に結びつけることを目的に、水産環境保全、漁業、水産利用、水産増殖、の4分野について懇話会等を開催し、産業界との連携を図っている。

【他の学術団体等との連携】 日本農学会に所属し国内の学協会等との連携を図るとともに、外国の諸学会との間に学術交流協定を締結し、国内外との交流を積極的に進めている（国内：日本農学会・男女共同参画連絡協議会・日本技術者教育認定機構など、海外：世界水産学協議会・アメリカ水産学会・イギリス諸島水産学会・韓国水産科学会・中国水産学会・アジア水産学会等）。

一般社団法人 日本木材学会 男女共同参画活動報告

一般社団法人 日本木材学会 ダイバーシティ推進委員会
学会事務局 〒113-0023 東京都文京区向丘1-1-17 タカサキヤビル 4F
TEL: 03-3816-0396; FAX: 03-3818-6568; E-mail: office@jwrs.org



Report on gender equality activities, The Japan Wood Research Society

*Diversity Committee, The Japan Wood Research Society
1-1-17 Mukogaoka, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0023, JAPAN
TEL +81-3-3816-0396 FAX +81-3-3818-6568*

Abstract:

The Japan Wood Research Society is a major academic research society promoting the study of forest product science and wood technology. Currently, 1,235 full members and 444 student members are actively involved in its activities. The current Diversity Committee started operating in July 2013. Some of its activities involve; participating the 17th symposium of EPMEWSE and Summer School for Female Students, organizing the 6th luncheon meeting during the 69th annual meeting of the society. The committee will continue working to enhance diversity and promote the participation of members at all levels.

1. 学会の概要

本学会は、林産物に関する学術および科学技術の振興と社会の持続可能な発展に寄与することを目的として1955年に設立されました。2019年7月現在の会員数は正会員:1,235名、学生会員444名、賛助・団体会員を合わせて1,819名です。女性比率は正会員約1割、学生会員約3割で推移しています。木材学は産業と直結しており、産業界からの学会参加も多いことが特徴です。

2. 男女共同参画活動について

本学会は2010年度に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟しました。初代男女共同参画担当理事には中山榮子(昭和女子大学)が就任し、8名の委員とともに本学会の初めての男女共同参画活動が開始されました。

男女共同参画委員会は2013年6月に「ダイバーシティ推進委員会」と改称し(委員長恒次祐子、森林総研・当時)、多様な立場にある学会員をサポートしています。現在は第5期のダイバーシティ推進委員会となり、中山以下10名の委員で以下のような活動を行っています。

・男女共同参画学協会連絡会

本学会は2010年より、運営委員会に参加し、シンポジウムでも活動報告を行っております。また、第4回大規模アンケートにも学会全体で取り組みました。現在本学会分の回答を解析中です。

・女子中高生夏の学校

本年で8回目の参加となりました。「キャリア相談ブース・ポスター展示」において、参加者と小枝のストラップを作りながら樹種や木の特性を説明し、木材学に関する様々な質問に答えました。

・第69回日本木材学会大会中の活動

第6回ランチョンミーティングを開催しました。本学会正会員の中から、“会社でご活躍”の女性と、“研究所や大学でご活躍”の女性をお招きし、これまでの経緯や最近の研究や今後の課題などをお話しいただきました。今回から学科いい本部より助成いただき 参加者に函館名物焼き鳥弁当を100食準備しました。学会大会初日の昼休みを有効に利用したミーティングには110名を超える参加者を迎えました。

あわせて、学会2日目のポスター発表で、ダイバーシティ推進委員会の活動報告を行いました。

このほか、優秀女子学生賞副賞のプロデュースもしております。芸術系の若手から木材系の若手に向けてエールの気持ちを込めて作品を提供いただいています。



第5回優秀女子学生賞副賞

活動報告

公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会
委員長 石田佳子 y.ishida@kankyogiken.co.jp

Activity Report

The Institution of Professional Engineers, Japan (IPEJ)

Gender Equality Committee

Gender Equality Committee was established under the Institution of Professional Engineers, Japan primarily for three purposes: i) encouraging female engineers working at enterprise to acquire qualifications for their carrier development, ii) hosting informal meetings of senior engineers and young, female engineers and students to discuss work-life balance, career development as engineers and so on., and iii) establishing networks of organizations and groups sharing the same purpose. Today, the interest to D&I (Diversity&Inclusion) is rising, and we have initiated activity about this.

1. 委員会の目的

委員会は以下の目的で2011年5月に設置された。
2019年9月現在、委員20名(男性10、女性10)、委員補佐8名(男性2、女性6)で活動している。

- 1) 企業で働く女性技術者のキャリア形成のための資格取得の奨励。
- 2) 技術者を目指す若い女性と技術者としてのキャリア形成や仕事と家庭の両立などをテーマとした懇話会の開催。
- 3) 同じ目的を持った団体や組織とのネットワーク。

これらを通じて、女性が活躍できる社会を目指しあわせて技術士制度の普及の一助としている。
2017年度から「Diversity & Inclusion」を視野に入れた活動を開始した。

2. 2018年度の主な活動

1) 女子学生・女性技術者支援

JABEE課程並びに技術者を目指す理工系女子学生、若手女性技術者との懇話会である「技術サロン」は、毎年度6月、9月、12月、3月の4回開催し、



技術サロン

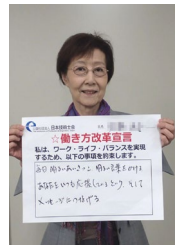
2018年12月で40回を数え、10年の実績を積んだ。また、「女子中高生夏の学校」では、女子中高生に理工系職業の多様性を、TAへは技術士資格を広報している。

2) D&I関連行事

◆「技術者と働き方改革」フォーラム(2018.5.19)

「イクボス」をキーワードに、働き方やワーク・ライ

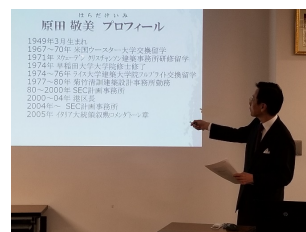
フ・バランスへの取り組み方法について、講演「イクボスによる多様な人材のマネジメント」(東浩司氏(NPO法人ファザーリング・ジャパン理事)およびイクメン・イクボスのロールモデルによる発表、質疑応答を行った。また、参加者による「イクボス宣言」「働き方宣言」を作成した。



宣言写真

◆第2回D&I学習会「多様性を活かすマネジメント～世界から見た日本～」(2018.11.30)

元港区区長原田敬美氏を囲んでの勉強会。自身の3回の留学、その後の国際的活動、港区長としての経験を踏まえた世界の状況や日本の現状を対比しつつ、D&Iのあり方についての講演の後、グループ・ディスカッションを行った。



講演(原田氏)



グループ発表

3. 今後の活動

技術サロンの開催や対外活動の継続等により技術士資格を紹介し、技術士の増加を図る。女性会員とのネットワークを構築する。月刊誌におけるD&I関連の連載や講演会を主催して、技術士会の男女共同参画やD&Iの意識の醸成を図る。

4. 男女共同参画推進委員会WEBサイト

http://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjyo/

日本植物学会における男女共同参画推進の取り組み

(公社) 日本植物学会 (男女共同参画委員会委員長 日原由香子・埼玉大学理工学研究科)

The Approaches to the Gender Equality in the Botanical Society of Japan

The Botanical Society of Japan (Yukako Hihara, Saitama Univ.)

Abstract: The Botanical Society of Japan was established in 1882 to promote researches in wide range of plant biology. The Society publishes a *Journal of Plant Research* for international distribution, as well as organizes an annual meeting with oral and poster presentations, symposia and public lectures. In our society, women represent 24.4% of about 1,800 members. For promoting gender equality, we set up the committee on gender equality on 2011. Through the planning of special lectures in the annual meeting, we will promote the awareness of gender equality in the society. (<http://bsj.or.jp/index-j.php>)

1. 日本植物学会について

日本植物学会は 1882 年に発足、2012 年に公益社団法人となった。学会誌「植物学雑誌(現在は *Journal of Plant Research*)」は明治 20 年発刊以来 120 年以上続く伝統ある学術誌である。2019 年 9 月現在で、総会員数 1800 名程度のうち、女性会員が 24.4% の高割合を占めている。2005 年より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟、2012 年に正式に加盟した。学会内では 2010 年に男女共同参画 WG を設置すると共に第 1 回の男女共同参画ランチョンセミナーを開催、翌 2011 年には男女共同参画委員会が正式に発足した。毎年 9 月の植物学会大会においてセミナーを開催し、継続的な男女共同参画活動を進めている。

2. 活動報告

2018 年 9 月 15 日、広島国際会議場で開催された日本植物学会第 82 回大会の第 2 日目において、男女共同参画ランチョンセミナー「あなたも、明日にも直面するかも、介護の問題」を開催した。これまで、男女共同参画ランチョンセミナーでは、育児の問題を様々な角度から取り上げることが多かったが、アンケート結果では、介護問題をとりあげて欲しいという要望が少なからず存在していた。そこで今回、初めての試みとして、介護と仕事の両立方法に関する外部講師の講演、および介護休業や遠隔地に住んでいる肉親のケアの経験のある会員を交えたパネルディスカッションの 2 本立てで、介護問題について考えるセミナーを企画した。三村学会会長の開会挨拶に引き続き、日原男女共同参画委

員長が、女性に介護の負担がかかっていることを示す各種の統計結果等を紹介した。

続いて、「認知症の人と家族の会」世話人の河合雅美氏による講演『仕事と介護を両立するための上手な支援の使い方』では、介護を行いながら 2 人の子育てと薬剤師としての仕事も両立している河合氏が、認知症を発症されたお母さまが豊かな生活を送るための方向性を模索した経験および介護に関する具体的なアドバイスを語られた。

続いて、吉田聡子奈良先端科学技術大学院大学特任准教授の司会によるパネルディスカッション『私たちの介護』では、河合氏に加えて、ご両親の介護経験をお持ちの学会員である浦和博子岐阜聖徳学園大学准教授と榊原恵子立教大学准教授にパネリストとして登壇していただき、「突然、身内の介護が必要になったときどうしたか」「仕事との両立をどうしたか」「介護を続けていく上でどんな問題があったか」「介護と研究を両立するために必要なことは？」等の問いかけに対してディスカッションを行った。

総合討論では、介護に関する情報を得られる学内の窓口を明確にしてほしい、「授業以外の大学業務や研究についての支援も検討してほしい」「介護育児に関して、大学職員だけでなく、個人の研究費で雇われている若い世代を助けるための制度も必要」といった要望が寄せられた。今回のセミナーでは、老若男女の聴衆が真剣に聴き入っている姿に、介護問題に対する関心の高さが実感され、介護問題を取り上げること、情報提供に加え、問題の顕在化に関しても大きな意味があるとの手ごたえが感じられた。

公益社団法人 日本農芸化学会の男女共同参画活動報告

日本農芸化学会(ダイバーシティ推進委員会・〒113-0032 東京都文京区弥生2丁目4番16号 学会センタービル2F)

Activity Report of Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry (Committee on Promotion of Diversity and Equality: Gakkai Center Building, 2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0032, Japan)

Agricultural chemistry covers a wide range of bioscience, biotechnology, and agrochemistry, being based on the study of living things in general and agricultural organisms in particular. The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry (JSBBA) was founded in 1924 as an academic organization called the Agricultural Chemical Society of Japan, with the objective of contributing to scientific, technological and industrial developments. More than 10,000 members belong to JSBBA and about 20% of them are women. For promoting gender equality, we set up the Committee on Gender Equality in 2015, renamed the Committee on Promotion of Diversity and Equality 2019.

1: (公益社団法人)日本農芸化学会について

農芸化学は、あらゆる生物と生産物を研究対象とし、生命・食・環境といったキーワードで代表されるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを中心とする多彩な領域の総合科学分野です。本学会は農芸化学分野の基礎および応用研究の進歩・普及、及び同分野の教育の推進を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することにより人類の福祉の向上に資することを目的として、1924年に設立された学術団体で、2012年3月に公益社団法人へ移行しました。会員数はシニア会員なども含め2019年2月28日現在で10,133名であり、このうち一般会員は7,491名(女性1,352名: 18%)、学生会員は2,642名(女性1,074名: 41%)です。

2: 男女共同参画活動について

本学会は、2012年に男女共同参画学協会連絡会に加入し、同年に新たに男女共同参画に関する担当者会議を学術活動強化委員会の中に設けました。2015年3月には学術活動強化委員会から独立して、男女共同参画委員会を設置し新たに男女共同参画担当理事1名を任命することで、さらなる発展を図る体制を整えました。2016年度には担当理事を2名体制としましたが2019年度には組織変更に伴いダイバーシティ推進委員会と名称を改めました。現在の委員会のメンバーは15名で、このうち9名が女性です。

男女共同参画への取り組みとして、2003年度大会から託児ルームを設置し、2015年度大会から無料化し、2015、2016、2017、2018、2019年度大会でそれぞれ延べ28名、29名、35名、30名、28名の利用者がいました。2014年度大会から毎年、男女共同参画ランチョンセミナーを開催しています。2019年度大会では「一人の社会人として皆が幸せな社会の実現を」というテーマで10名の講師を招聘し10グループに分かれ各講師が提示したテーマでフリーディスカッションを行うグループフォーラムを行い、約100名の参加

者がありました。また、2019年度大会での発表者等の男女数調査では、女性一般発表者の割合は約18%と微増、女性のシンポジウムオーガナイザーは6名(女性比率10%)、講演者の女性比率は6%で、3~10%の間を推移しています。女性一般会員の比率と比較するとまだ非常に低く、今後の改善が求められます。8月には「女子中高生夏の学校2019」にポスター展示・キャリア相談のブースを出展しました。以上の男女共同参画にかかわる事柄については、学会HP中に設けられた男女共同参画のページにて情報提供を行っています。(www.jsbba.or.jp/gender/)

年次大会における一般発表者数と女性比率

	発 表 数		
	男性	女性	女性比率(%)
2015 年	1438	617	30.0
2016 年	1451	680	31.9
2017 年	1282	626	32.8
2018 年	1236	642	34.2
2019 年	1135	541	32.3

3: 女性研究者の表彰

2016年度、男女共同参画委員会の起案により、優れた女性研究者を表彰しその研究を奨励することで農芸化学分野の研究の発展および地域・国際社会に貢献する女性人材を育成することを目的として、「農芸化学女性研究者賞」、「農芸化学若手女性研究者賞」、「農芸化学女性企業研究者賞」の3賞を設置しました。2018年秋、第三回受賞候補者の募集を行い、農芸化学女性研究者賞等授賞選考委員会が選考作業を行い各賞3名の受賞候補者を選考し、理事会で受賞者を決定しました。受賞者は、研究奨励金を授与されるとともに、2019年度大会の学会賞等授賞式において表彰され、受賞講演をしました。

一般社団法人日本解剖学会 活動報告

一般社団法人日本解剖学会 理事長 八木沼洋行(福島県立医科大学・教授)

事務局 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4F 一般財団法人口腔保健協会内

Tel : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 e-mail: gakkai24@kokuhoken.or.jp

Activity report in The Japanese Association of Anatomists (JAA)

The Japanese Association of Anatomists (JAA)

Abstract:

We made the first great step by setting up the committee on promotion of gender equality in the JAA in March, 2011. In 2012, the JAA officially became a member of Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE). We held the 6th Luncheon Seminar to promote gender equality in the JAA at the 124th annual meeting (TOKI MESSE, Niigata) on March 27, 2019, by Ms. M. Eto (Mie Univ.) and Ms. K. Nakano (Niigata Univ.).

1. 解剖学会における男女共同参画の現状

最新の実態調査では日本解剖学会会員のうち女性性は19.46%を占めており、40才代の5.57%をピークに30才代が5.22%、50才代で3.22%である。ただ、20代は1.7%に留まっており、若い研究者の減少がやや不安材料である。しかし、学生会員104名のうちの男女比がほぼ3(62名):2(42名)、と学会活動への関心は低くないことを示している。

理事会の中では、2015年3月の解剖学会総会で女性の理事が2人誕生し、2019-20年度は女性理事は4名、女性常務理事は2名となった。各委員会においては、15の委員会(若手研修者の集い含む)のうち女性委員が含まれる委員会が14委員会となり、その数は増加傾向にある。また、男女共同参画推進委員会の第5期委員長に松崎利行氏(群馬大学・教授)が男性初の委員長として就任した。2011年3月の男女共同参画推進委員会の発足以来、男性・女性がともにその能力を伸ばしつつ解剖学と学会の発展を支えていくことを目指している。

2. 全国学術集会での第6回男女共同参画推進シンポジウムの開催と男女共同参画についての「つぶやき」実施について

2019年3月の第124回日本解剖学会全国学術集会(朱鷺メッセ、武蔵野市)において、第6回男女共同参画推進ランチョンセミナーを本委員会で開催した。「男女共同参画ー私の考え・私の夢ー」をテーマとして江藤 みちる先生(三重大・院医・発生再生医学)、ならびに中野 享香先生(新潟大・男女共同参画推進室)に講演いただいた。会場には各世代の男女約100名が集まり、活発な討論が行われた。女性会員よりも、男性会員の参加が多く、本テーマに対する関心の高さが窺えた。本年度も昨年度に引き続き、男女共同参画についてのご意

見を、100文字位前後でつぶやいてもらう「つぶやき」企画を実施し、全国学術集会期間中、男女共同参画推進委員会ブースにて寄せられた「つぶやき」の掲示を行った。来年度も実施を検討している。

3. 変革に向けての今後の取り組み

今後も学会内における男女共同参画推進委員会の存在を各会員に広く認知してもらうため、今期の委員会ではシンポジウム、ならびに男女共同参画学協会連絡会で実施した第4回大規模アンケートの解析を行う予定である。そのためにチラシやポスターの配付なども含め、様々な広報活動も積極的に実施していく。また、シンポジウムの開催費用については、学会本部より財政的・人的支援を得て、学会全体の取り組みとして継続していく。

今後とも、男女共同参画への会員の意識を高め、学会運営の改革とともに大学や研究室などの現場での実践に結び付けて行くことが重要である。

日本応用数理学会の男女共同参画への取り組み

日本応用数理学会(森山園子・日本大学・moriyama.sonoko@nihon-u.ac.jp)

Activity Report on Gender Equality in the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics

The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics

(Sonoko Moriyama · Nihon University · moriyama.sonoko@nihon-u.ac.jp)

Abstract: The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics (JSIAM) is the central organization for industrial and applied mathematicians in Japan. The JSIAM's objective is to foster the mathematical sciences and engineering mathematics which contribute to the innovation of science and technology. It is a cross-disciplinary society consisting of people researching mathematical phenomena (in mathematics as well as in other sciences), those who apply mathematics (engineering, technology), and those who develop methods of analysis (computer science, experimental science). This is an annual report on JSIAM activities related to promotion of gender equality.

日本応用数理学会について

一般社団法人 日本応用数理学会は、最近の研究、産業、教育における数理的イノベーションに応えるために、1990年4月に発足し、その後2012年7月に一般社団法人に移行した学会です。2017年度には初めての女性会長が誕生する等、男女共同参画にも積極的に取り組んでいます。本学会会員の専門分野は理論から応用まで極めて多岐にわたっており、学際的に異分野の第一線の研究者や技術者が集まり、応用数理を研究、産業、教育に結び付けるための研究開発と普及、会員相互の連携・親睦、国際的な交流を積極的に行っています。国際機関 ICIAM (International Council for Industrial and Applied Mathematics) が4年に一度開催する国際研究集会が2023年8月20日-25日、早稲田大学で行われることが決まっています。

男女共同参画への取り組み

2014年に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2015年から年会で属性調査などを目的にアンケート調査を行っています。また、2016年秋からは、年会および研究連合発表会において、若手・女性研究者を中心としたランチミーティングを行い、情報交換を行ってきました。メーリングリ

ストの整備に伴い少しずつ参加者も増え、若手や女性研究者間のネットワークができてつつあります。2017年秋には、ICIAMとの連携において、11月に台湾で開かれる GenderGap project にも参加する等、国内外で男女共同参画に積極的に取り組んでいます。

男女共同参画への取り組みの一環として、女子中高生理系選択支援ワーキンググループによる「女子中高生夏の学校」にも参加しました。代表会員が副委員長を務めた他、代表会員および理事がポスター展示に参加しました。「超立方体とゾノトープ」と題して、研究紹介ポスターの展示と紙工作によるゾノトープ作成を行いました。超立方体は立方体の次元に関する一般化で、ゾノトープは高次元超立方体の射影です。生徒は興味津々で、紙で作ったゾノトープを通じて高次元の世界を理解しようとしていました。ポスター発表後の学生企画「Gate Way」では、代表会員と理事が情報系、数学系、生命科学系の3分野のブースを担当し、学生の質問に幅広く対応しました。

今後の取り組み

年会などでのランチミーティングの開催、アンケートの実施など男女共同参画の取り組みを継続していきます。



男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会 活動報告

公益社団法人 地盤工学会

Equality and Diversity Annual Report 2018/2019

— the Japanese Geotechnical Society

The Japanese Geotechnical Society (<http://www.jiban.or.jp/>)

Abstract: The Japanese Geotechnical Society was established in 1949. One of its purposes is to promote technical advances and research activities in the field of geotechnical engineering. We are now challenging to increase young members and female members to fulfill the social demands. Engineers and researchers in geotechnical fields continue to contribute to the society which aims at safer environment against disasters and at reconstructing the existing infrastructures compatible to sustainable society.



【地盤工学会の概要】

地盤工学会は1949年に日本土質基礎工学委員会として発会し、1954年に土質工学会として設立、1995年に社団法人地盤工学会と改名し、平成22年10月付で内閣総理大臣より公益社団法人として認定を受けた。2019年5月末時点での総会員数は7972人、うち女性は正・国際会員276人、学生会員100人、合計376人で女性比率は全体の約5%である。

男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会は、平成22年に会員・支部部内に常設委員会として立ち上がった。主な活動は、①部会、各委員会メンバーへの女性会員の参加促進②男女共同参画学協会連絡会への参加③地盤工学研究発表会における託児所設置ならびにディスカッション・セッションの継続的開催④同様の専門分野を扱う土木学会との情報共有と連携強化等である。

【男女共同参画・ダイバーシティに関する活動状況】

■会員費減免措置

平成23年度より、ダイバーシティを促進するための会費減免を行っている。対象者の条件として、①若手(10歳代及び20歳代)であること、②男女共同参画に資すると認められること(30歳代女性)、③身体障害者手帳を有する障害を有すること、④出産休暇・育児休暇を取得していること、としている。

■ダイバーシティ座談会

2019年1月29日にダイバーシティ座談会を実施した。本会はこれまで2011年にベテラン座談会、2013年以降は若手座談会(ワールドカフェ)として開催してきたが、2018年度は会員の方々からこれまでも要望をいただいていた「子育てと仕事の両立」をテーマに、各社での取り組みなどについて意見交換があった。座談会では、学会のメリットである「組織の横断的な動き」を利用し、当該内容も含め他社が実施している取り組みに関する情報提供をお願いしたいとの声が多くあり、ダイバーシティ推進を行う上での学会の位置付けについて再認識した会であった。

■地盤工学研究発表会における様々な取り組み

7月16～18日の期間、第54回地盤工学研究発表会が大宮市で開催された。例年開催しているダイバーシティ特別セッションでは、今年度が地盤工学会の創立70周年ということもあり、地盤工学会ダイバーシティ委員会の創設に携わられておられた日下部治先生(地盤工学会第31代会長)にご講演いただき、日下部先生がこれまで感じてきた男女共同参画・ダイバーシティ活動の昨今と将来についてお話いただいた。また、特別セッションの新たな試みとしてフロアディスカッションを行い、参加者の方々と一体となったディスカッションを展開した。

様々な世代間・国際交流を行う機会を提供をしている「サロン・土・カフェW(さろん・ど・かふえ・だぶりゅー)」は、今回で9回目の開催となった。今年も30名の会員の方にご参加いただき、各所属機関におけるダイバーシティの取り組みについて話し合われた。カフェでは、「各機関におけるダイバーシティの推進」について話題が上がり、育児から介護まで家庭内における幅広い内容がディスカッションされた。

■おわりに

会員の方々のWLBやダイバーシティへの取り組みを学会HPに掲載している※QRコード。今後もこの企画を継続し、多種多様なダイバーシティやWLBについて、共に考えていきたい。



第54回地盤工学研究発表会 サロン・土・カフェ W
(2019年7月16日実施)

日本鉄鋼協会・日本金属学会男女共同参画委員会活動報告

日本金属学会(御手洗容子、物質・材料研究機構、mitarai.yoko@nims.go.jp)

Activity report of ISIJ-JIM Gender Equality Committee

The Japan Institute of Metals and Materials (Yoko Yamabe-Mitarai, NIMS, mitarai.yoko@nims.go.jp)

Abstract: The Japan institute of Metals and Materials, JIM, was founded as a non-profit public organization, the Japan Institute of Metals, in 1937 with the primary objective of promotion and development of science and technology of metals and materials and has changed to public interest incorporated association since March 1, 2013. The Iron and Steel Institute of Japan, ISIJ, was founded as a non-profit public organization in 1915 with the primary objective of transmitting of academic knowledge on Irons and steels. The two organizations together have launched ISIJ-JIM Gender Equality Committee since March, 2007. The committee has opened own webpage and a mailing list for sharing information of gender equality and exchanging information about child rearing and career progressions. Our activities are for instance opening a nursery room at the JIM/ISIJ annual meetings, organizing a luncheon meeting on career progressions for young researchers and students in the materials science field, a networking event for female scientist, and giving classes to let young students experience some tips of advanced materials science through simple but interesting experiments.
<http://www.isij.or.jp/Link/Godo/index.htm>,
Twitter: @isij_jim_gender, <https://www.facebook.com/groups/mfgenderequality/>

1. 学会の紹介

公益社団法人日本金属学会は、『金属に関する理論ならびに工業の進歩発達をはかること』を目的として、1937年に一般社団法人として発足し、近年は金属のみならず、超電導材料、電子材料、磁気材料、セラミックス等のいわゆる先端材料の領域まで研究スパンが広範囲に広がっている。2013年3月から公益社団法人となった。一般社団法人日本鉄鋼協会は『鉄鋼に関する世界最高峰の学術の発信の場』として2015年に創立100周年を迎えた歴史を有しており、鉄鋼関係の世界の中核的学術団体として認識されている。

2. 男女共同参画委員会の設置と活動

2007年3月から、両学会で男女共同参画委員会を発足させ、委員会のホームページ、育児と仕事の両立情報を相談できるメーリングリストの開設を行った。それ以降、両学会で同時開催する春・秋期(季)大会中に、毎回託児室を共同運営するとともに、委員会を開催している。

この委員会では、2009年春期(季)学会から、ランチョンミーティング「金属分野における多様なキャリアパス」を開催している。これは、学生や若い研究者・技術者を対象としたセミナーで、学会の昼休みを利用して、お昼を食べながら企業や大学・独法などで活躍する先輩の話聞き、意見交換する場である。2019年3月には、第11回ランチョンミーティングが開催され、(株)IHIの高橋円氏から、「宇宙飛行士サポートから研究員、研究員から企画管理へ～三児の母として～」と題した講演があった。三児を育てなが

ら資格を取得し、新しい仕事に挑戦していく力強いマインドに、参加者は大いに刺激を受けた。

2011年秋期(季)大会より、女性会員を対象とした交流会を行い、お昼を食べながら情報交換を行い、ネットワークを作っている。2019年9月に開催される秋期講演大会では、特別企画として、優れた女性科学者に贈られる「猿橋賞」を受賞した梅津理恵准教授(東北大)を囲む会を開催し、女性だけでなく男性にも参加してもらい、研究や子育てについて本音トークを交わす予定である。

このほかに、facebookやtwitterを利用した情報発信、交流にも務めている。

また、女子中高生対象サイエンスイベント「女子中高生夏の学校」「女子中高生のための関西科学塾」にも、毎年積極的に参加している。今年度の夏の学校では、陽極酸化を用いたキーホルダー作成や低融点合金を用いたメダル作成、形状記憶合金の作成を行い、ポスター展示では(写真1)、金属あてクイズ、熱電材料を用いた簡易実験、鋼の強度に関する体験してもらった。今年は、鉄鋼協会、金属学会の隣に軽金属学会も展示参加し、金属関係のブースが3つでき、金属材料の面白さをアピールすることができた。関西科学塾では形状記憶材料などの実験講座を開催予定である。



(写真1: 夏の学校)

土木学会における男女共同参画の取り組み

土木学会 ダイバーシティ推進委員会(米山 賢 建設技術研究所 <http://www.committeesjsce.or.jp/diversity>)

Diversity and Equal Opportunity Achievements at JSCE in the 8th term

*Japan Society of Civil Engineers (Ken YONEYAMA, CTI Engineering,
<http://www.committeesjsce.or.jp/diversity>)*

Abstract: Diversity Committee of Japan Society of Civil Engineers (JSCE) works in a two-year term, proposing various activities while developing a stable foundation within committee. In this article, the achievements in the 8th term are introduced. They include: (1) JSCE Diversity and Inclusion Action Statement, (2) records of past activities and women civil engineers, (3) study on belowground labor.

1. 土木学会の概要

土木学会には38,000名を超える個人会員が所属しており、女性会員の比率は5.4%となっている。1998年を基準とした最近20年間の経過をみると、男性会員数がほぼ横ばいで推移しているのに対し、女性会員数は約4倍と大きく増加している。

土木学会ダイバーシティ推進委員会は、2004年に教育企画・人材育成委員会のジェンダー問題特別小委員会として発足後、2006年に男女共同参画小委員会、2010年にダイバーシティ推進小委員会と名称を変更し、2014年にダイバーシティ推進委員会に格上げされ、現在に至るものである。

当委員会は、2年一期を単位として現在第8期の活動を行っているところである。

2. ダイバーシティ推進に関わる活動状況

(1)ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言

多様な人材の活躍を推進する活動に取り組むという宣言である「ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」(以下、「D&I行動宣言」という)は、将来にわたる継続的かつ発展的な社会資本整備の推進とそれを実現する人材の育成を目的として、2015年に策定された未来志向の宣言である。

D&I行動宣言はその策定・発表にとどまることなく、宣言に基づいた具体的な行動に結びつけることが重要と考え、宣言の周知と意識向上の一助とすることなどを旨として「D&Iウィーク」という集約型イベントを2018年7月に実施した。

本イベントでは参加者がさまざまな視点からD&Iや働き方を考えるきっかけとなることを目指し、期間中に各団体や職場のD&Iポスターを展示したほか、D&Iカフェの開設、D&I関連の図書展示を行った。

また、初日にはD&Iフォーラム「多様性が生産性を高めるー土木界の働き方改革」を開催し、最前線の取り組みについての講演やパネル討論を行った。

(2)これまでの活動と女性技術者の記録

土木学会ダイバーシティ推進委員会は、その前身の小委員会としての活動の中で、ジェンダー問題、男女共同参画などを取り扱ってきた。また、活動を通じて、さまざまな女性技術者の苦労や課題解決に向けた取り組みなどを、後進の参考としてもらうよう、その収集・周知などを行ってきた。

これまでの活動を現在もしくは将来に活かすため、男女共同参画やダイバーシティ推進が現在ほど認知されていなかった時代に苦労した方々の知見や経験を、インタビューなどを通じて収集・記録する活動に着手した。記録の方法、蓄積した記録の取り扱いなどを示した要領を作成するとともに、その検討のため、プロトタイプの位置づけで 2019年1月に実際のインタビューを行った。

(3)坑内労働に係る検討

2006年、それまで禁止されていた女性の坑内労働が、筋肉労働を伴わない現場の管理・監督業務に限り、女性土木技術者が就業できるよう女性労働基準規則に明記されてから10年が経過した2016年より、技術の進歩や安全性向上、女性技能者の増加、人員不足、女性活躍の促進などの状況変化を踏まえ、女性技能者がトンネル工事中に立ち入ることができるようにし、現場生産性向上に貢献することを目的とする活動を実施している。

活動は、2017年度に委員会内「坑内労働検討WG」を設置し、WGを中心にトンネル工事現場における実態調査やトンネルを取り巻く技術情報等の把握・整理を皮切りに実施してきている。

さらに2019年4月には、坑内労働に関して女性技術者、女性技能者、経営者・雇用者等を対象にアンケート調査を実施し、これらを踏まえて、同年5月に「女性技能者の坑内労働規制緩和に関する公開討論会」を開催した。

男女共同参画委員会活動報告

公益社団法人 応用物理学会

(連絡先: 為近恵美(横浜国立大学)、近藤高志(東京大学)、筑本知子(中部大学))

Committee's activities for gender equality

Japan Society of Applied Physics (JSAP) Contact: Emi Tamechika (Yokohama National University),
Takashi Kondo (The University of Tokyo), Noriko Chikumoto (Chubu University),

The committee aims to promote diversity in the fields of science and technology by providing everyone, regardless of gender and age, with the opportunities for making the most of their talents.

設立の経緯

2001年2月 男女共同参画ネットワーク準備委員会を
発足

2001年7月「男女共同参画委員会」設立

2006年3月「人材育成・男女共同参画委員会」へ発
展的改称

2011年4月「人材育成・教育事業委員会」へ改編

2012年2月「人材育成委員会」へ改称

2015年3月「男女共同参画委員会」へ改編

目標

真に暮らしやすく個々が能力を発揮できる豊かな社会の実現を目指しています。十数名の委員(男女比約半々)が中心となり、男女共同参画の推進に取り組んでいます。応用物理学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

主な活動

【シンポジウムの開催】

応用物理学会における女性研究者の見える化、ロールモデルの提示を目的に年一度シンポジウムを開催しています。2013年春より4回にわたり、太陽電池、フォトリソ、バイオエレクトロニクス、プラズマと応用技術の各分野で活躍する女性研究者が最新の研究成果と将来展望を発表しました。

2017年春からは、男女に限らず誰もが能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指し、若手研究者のキャリアパスや海外と日本の研究環境の違い等、様々なテーマを取り上げています。

【国際交流】

2008年IUPAP-WGに講演したのを皮切りに、GS (Gender Summit)、IUPAP (International Union of Pure and Applied Physics)、APPC (Asia Pacific Physics Conference)にて定期的に講演・ポスター発表を行っています。

【研究者ネットワークの強化】

2013年より、女性会員を中心とした研究者のネットワークの活性化を目指して、女子だけではなく「女子会」を開催してきました。2016年より、男性・女性・国籍を問わず多くの方にご参加頂こうという趣旨で「NEWMAP (Network for Women and Men in Applied Physics)」へ改称し、活発な議論の機会を提供しています。

【女子中高生の理系進路選択支援】

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、毎年「女子中高生夏の学校」へ参加しています。

【表彰事業】

2009年に、小舘香椎子先生の寄付をもとに「女性研究者研究業績・人材育成賞」が設立されました。応用物理学の研究活動において著しい成果をあげた女性研究者及び男女共同参画活動の推進・人材育成に大いに寄与した研究者(男女対象)を表彰しています。

詳細は下記ウェブページをご覧ください。

(公社)応用物理学会 男女共同参画委員会

<https://www.jsap.or.jp/gender-equality>

プラズマ・核融合学会 男女共同参画委員会活動報告

プラズマ・核融合学会 (豊田浩孝・名古屋大学、下妻 隆・核融合科学研究所、村上 泉・核融合科学研究所、江尻 晶・東京大学、柏木美恵子・量子科学技術研究開発機構、樋田美栄子・核融合科学研究所、○近藤正聡・東京工業大学、gender_jspf@googlegroups.com)

Recent Activity of Gender Equality Promotion Committee in the Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

The Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research

Abstract: The recent activities of Gender Equality Promotion Committee in the Japan Society of Plasma Science and Nuclear Fusion Research (JSPF) have been reported. The Committee launched in June 2014. It has been carrying out (1) Investigation of the gender distribution of the JSPF members, (2) Planning of the activity of the Committee, (3) Convene an Informal Meeting in the annual JSPF meeting, and (4) Participation in the Summer School for Women's Junior and Senior High School Students.

プラズマ・核融合学会では、2013年9月に「男女共同参画委員会規定」を理事会承認し、2014年6月に委員会を組織し、活動を開始した。これまで8回委員会を開催するとともに、いくつかの活動を実施してきている。以下に2018～2019年度に実施した主な活動内容を紹介する。

1. 本学会の女性会委員数の調査

本学会の2019年8月26日現在での女性会員は、1496名の会員中57名(3.81%)であり、昨年度とほぼ同じである。57名中正会員は41名、学生会員16名で、女性正会員は30-50歳台に29名と約半数が分布している。民間企業の女性会員は、5名で少し増加した。

2. 本学会の男女共同参画委員会活動

本委員会の主な活動として、学会年会においてインフォーマルミーティングの企画・開催、男女共同参画学協会シンポジウムへの参加、女子中高生夏の学校」への参加を行っている。本学会のホームページに、委員会の活動報告等の詳細を掲載している。

3. インフォーマルミーティングの開催

本学会の年会(第35回プラズマ・核融合学会)開催中(2018年12月4日)に、男女共同参画委員会と若手グループの共催によりインフォーマルミーティング『核融合科学研究者人生体験型ボードゲーム『Dancing Fusion Basket』を開催した。本企画の目的は、有志が集まり、半年以上の期間をかけて開発したボードゲームに触れながら、核融合炉の基本的な構造や研究者のダイバシティ、キャリアパスについて学ぶ機会を学会員に提供することである。このボードゲームでは、プレイヤーが核融合科学研究者となることで、ダイバシティ関連の様々なライフイベント(例えば、学会帯同支援、Women in Science、育休取得等)について学ぶ事ができる。インフォーマルミーティングでは、近藤正聡氏(東工大)の趣旨説明に続き、村

上泉氏(核融合研)から男女共同参画推進の考え方や委員会の活動状況が紹介された後、田中のぞみ氏(大阪大学)からボードゲームの内容が紹介された。後半は、約40名の学会員が、ボードゲームに触れながら研究者の多様性の大切さを学んだ(図1)。

4. 令和元年度「女子中高生夏の学校2019

～科学・技術・人との出会い～」への参加

2019年8月9日～11日に国立女性教育会館で開催された「女子中高生夏の学校2019」に参加し、核融合研、総研大、量研機構の協力のもと、「次世代のエネルギー源 核融合とプラズマ」というテーマでポスター展示と実験実演を行った。ブースには約44名程度の学生や職員が来られた。図2に示すように、核融合炉の真空技術に関する実験や国際熱核融合実験炉ITERのバーチャルリアリティ体験を通じて、核融合炉の特徴について分かりやすく説明を行った。



写真1 インフォーマルミーティングの様子



写真2 夏学の展示の様子

一般社団法人 日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画活動報告

一般社団法人 日本放射線影響学会(担当理事 細谷 紀子・東京大学大学院医学系研究科)

学会事務局 E-mail: jimukyoku@jrns.org

https://www.jrns.org/about/gender_equality.html

Annual report on the activities for career path and gender equality in the Japanese Radiation Research Society (2018-2019)

The Japanese Radiation Research Society

(Noriko Hosoya, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo)

Abstract: The Japanese Radiation Research Society (JRNS) was established in 1959. The number of members is 827, and about 21% of them are women as of May 31, 2019. The JRNS Career Path and Gender Equality Committee was established in 2015, and will organize the 6th Career Path and Gender Equality Committee Seminar and the nursery room in the 62th Annual Meeting of the JRNS (Kyoto) in November 2019.

1. 日本放射線影響学会について

日本放射線影響学会は、1959年、放射線の人体と環境に対する影響とその機構の解明、ならびに利用への貢献を目指して学際的な放射線科学研究を推進する場として設立されました。設立当初から、物理、化学、生物、環境、医学、工学、放射線防護、被ばく医療などの幅広い分野の研究者が集い、分野横断的な研究交流の場としての機能を果たしてきました。学術集会として、1959年10月の第一回大会を皮切りに毎年学術大会が開催されており、2019年11月には京都において第62回大会が行われます。また、学会誌として、1960年よりJournal of Radiation Research (JRR)を発行しており、2009年からは日本放射線影響学会(JRNS)と日本放射線腫瘍学会(JASTRO)の両学会の機関誌として、広く放射線科学に関連した研究活動の成果を世界に向けて発信しています。

本学会は、2015年4月に一般社団法人に移行しました。会員数(2019年5月31日時点)は827名(正会員662名、学生会員58名)であり、女性会員の割合は全体で21%、学生会員に占める女性の割合は31%です。本学会では、2011年度より、放射線科学研究の活性化と日本放射線影響学会の発展に寄与した女性研究者を顕彰するために岩崎民子賞を設けています。

男女共同参画学協会連絡会には、2016年度よりオブザーバー学協会として加盟しています。

2. キャリアパス・男女共同参画への取り組み

日本放射線影響学会キャリアパス・男女共同参画委員会は、2014年度に若手研究者支援活動の一環として設置された男女共同参画ワーキンググループを前身としており、2015年4月の一般社団法人化に伴い、専門委員会として設置されました。キャリアアップ・キャリアパスを支援する活動の企画や本学会

における男女共同参画の実情を把握し、支援することを目的としています。2019年度現在の当委員会の委員数は10名(男性5名、女性5名)です。

2018年度は、第61回大会(長崎ブリックホール・長崎県長崎市)大会1日目(11月7日)に、第5回委員会企画セミナー「放射線影響科学の明日のために ～研究者のワークライフバランスとキャリアパスについて考える～」を開催しました。多様な背景を持つ本学会の若手～中堅の会員5名(男性3名、女性2名)をパネリストとして、パネル討論を行いました。聴衆からは、様々な立場、キャリアのパネリストの体験談や生き方を聞いて自身の人生を考える上で参考になったとの感想を多くいただきました。また、第61回大会では、初めて会場内に託児所を設置しました。

男女共同参画学協会連絡会で実施されている各種調査にも参加し、2017年度からは、学術大会における演題発表者等の属性調査も行い、女性会員の活動度の経年変化をモニターし始めています。

3. 今後の予定

第62回大会(京都大学吉田キャンパス・京都府京都市)大会1日目(11月14日)に、第6回委員会企画セミナーを開催します。第一部で、京都大学理事・副学長の稲葉カヨ先生より「京都大学における男女共同参画の取り組み」についてご講演いただいた後、第二部で、「放射線影響科学から広がる多様な道 ～年代・性別の枠を超えて～」と題したパネル討論を行います。今回はシニアの研究者を含む様々な年代の学会員5名をパネリストに迎え、放射線影響科学から広がるキャリアパスについて、より幅広い体験談や考えをシェアしながら討論を行う予定です。また、第62回大会でも、会場内に託児室を設置します。利用者は少数ではありますが、ニーズがある限り、継続することに意義があると考え、取り組んでおります。

軽金属学会男女共同参画委員会活動報告

軽金属学会（関史江、元東京大学、sekif2010@gmail.com）

Activity report of JILM Gender Equality Committee

The Japan Institute of Light Metals (Fumie Seki, sekif2010@gmail.com)

Abstract: The Japan Institute of Light Metals (JILM) is the only academic society for light metals such as aluminum, magnesium and titanium in Japan. It was launched in 1951 aiming to promote science and technology of light metals and to develop light metals industries. Recently JILM has been proactively contributing to maintenance and improvement of the global environment by their leadership in the recycling and energy saving technologies from each aspect of R&D and human resources development, collaborating with Japan Aluminium Association and other societies. The JILM Gender Equality Committee since March, 2018. Before this, Women's Meeting since November, 2006, has opened for sharing information of gender equality and exchanging information about child rearing and career progressions. The Light Metal Outstanding Female Award since November, 2009, it is a first prize in Japan's Academic society Awarded, to young female scientists or engineers expected one's future success at the age 45 or less, for one's outstanding achievements in the fields of scientific research and technical development of light metals. (<https://www.jilm.or.jp>)

1. 一般社団法人 軽金属学会の紹介

アルミニウム・マグネシウム・チタンなど軽金属に関する学術・技術の進歩発展を図り、工業の発展に尽くすことを目的として1951年に発足した軽金属に関する日本で唯一の学術団体です。主な活動は 1) 研究会、学術講演会などの開催 2) 国内外における研究協力・連携の推進 3) 学会誌、学術図書等の刊行等。最近では日本アルミニウム協会等の関連団体と連携し、軽金属の特徴を活かした各種研究開発などを通じ、リサイクルや省エネ分野で指導的役割を果たし地球環境の維持・改善に貢献しています。

2. 男女共同参画委員会設置と女性会員の会

2018年3月男女が共に活躍できる学会活動を通じ軽金属分野における研究や技術に関する活動を活性化し、産業の進歩・振興を通じ社会貢献を目的とする男女共同参画委員会を設立しました。2019年5月第1回セッション「男女共同参画の今を語る」を開催しました。

上記に先立ち、2006年11月講演大会中、支部主催の第1回「女性会員の会」を開き、第3回から理事会で承認され、学会の正式組織となりました。女性会員相互の親睦と情報交換とで連携を強化し、女性が能力を十分に発揮できる環境づくりを目的とした、ゆるやかな会合を重ね、

26回を数えました。成果1：2009年「軽金属女性未来賞」創設。日本の学協会で初めての若手女性を讃える「軽金属女性未来賞」は、軽金属分野で顕著な功績をあげ、将来の活躍が期待される45歳以下の新進気鋭の女性研究者・技術者に贈るものです。現在までの受賞12名。成果2：2011年5月から学会託児室を継続設置、今年度中に利用料金の無料化を予定しています。

3. 2018年3月男女共同参画学協会連絡会オプザーバー加入

運営委員会での有益な情報を共有し、無意識のバイアスを意識して、男女平等を図ります。2018夏学を見学し若手育成の意義に共感したので、2019夏学ポスター展示に初参加しました。



2019年5月 第26回女性会員の会（於富山）

大学・研究機関等 活動報告

ページ

63	名古屋大学 男女共同参画センター
64	東京女子医科大学 女性医療人キャリア形成センター
65	九州大学 男女共同参画推進室
66	広島大学 男女共同参画推進室
67	埼玉大学 男女共同参画室
68	大阪市立大学 女性研究者支援室
69	国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所
70	富山大学 男女共同参画推進室

名古屋大学におけるジェンダー平等推進のための近年の取組

名古屋大学男女共同参画センター (URL: <http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/>)

Nagoya University's Current Initiatives to Promote Gender Equality

Center for Gender Equality, Nagoya University (URL: <http://www.kyodo-sankaku.provost.nagoya-u.ac.jp/en/>)

Nagoya University has actively promoted gender equality since it established the office for gender equality in 2003. Our current major initiatives include introducing a gender quota to the education and research council members, top leaders awards for female faculty members, women's leadership program, and missions & guidelines for LGBT+ inclusive practices.

【名古屋大学のジェンダー平等推進】

名古屋大学は、全国の大学に先駆けて2003年1月に男女共同参画室を設置以降、男女共同参画社会の実現、女性研究者支援、ワークライフバランスの推進、女性リーダー育成に向けて、積極的に活動を展開してきた。これまでの実績が学内外で認められ、学内では2017年7月に男女共同参画室を男女共同参画センターに改組した。同センターでは、男女共同参画推進の実践に加え、ジェンダー研究教育、社会貢献を3つの柱とし、ジェンダー平等推進の拠点を目指す。

学外では、2015年に名古屋大学は国連機関UN Womenにより、HeForSheを推進する世界の主要10大学に日本から唯一選出された。HeForSheとは、UN Womenが世界規模で行うジェンダー平等を推進する運動である。

【学内評議会、2割女性に】

研究科長等で構成する「教育研究評議会」について、少なくとも6人(2割)が女性になるように学内規定を2019年度に改めた。同評議会は、教育研究の重要事項を話し合う機関であり、女性の少なさがこれまでの課題となっていた。本取組により、本学の女性管理職比率が大幅に増大した。

【女性研究者トップリーダー顕彰】

各研究科から「特に優秀な女性研究者(研究業績・研究能力が優れているだけでなく、近い将来、本学の役員や管理職として活躍することが期待される者)」を毎年1名推薦してもらい、全学レベルの男女共同参画推進専門委員会で選考する。2017年度は5名、2018年度は3名、2019年度は4名が選ばれた。本取組により優秀な女性研究者の存

在を本学執行部に周知できたことにより、総長補佐、センター長、学内評議員への本顕彰者の登用につながっている。

【女性研究者リーダーシップ・プログラム】

本プログラムは、女性研究者が大学の研究・教育・組織運営に主体的に関わり意思決定を行うため、大学の上位職を目指すにあたり、必要な情報やスキルについて学ぶことに主眼を置く。本プログラムは一年間のプログラムで、複数回の研修により構成されている。具体的には、「女性トップリーダーによる研修」、「リーダーシップのための自信を構築する」(英語による終日研修)、「アサーティブ・コミュニケーション」、「アンガー・マネジメント」、「タイムマネジメント」、「コーチング」等の研修である。参加者は一年間のプログラムを通してリーダーシップを多面的に習得できるだけでなく、参加者同士のネットワーク形成も目的としている。プログラム修了者には、本プログラムで学んだことや気づき等についてのレポートを提出してもらい、修了証を発行する。参加者のレポートはまとめて報告書とし、成果の共有を図る。

【LGBT 等ガイドライン】

名古屋大学では、LGBT等の構成員が、性的個性を尊重され、その能力が存分に発揮できる教育・研究・就業環境の整備に取り組むとともに、当事者を取り巻く課題への具体的な対応の内容と方針を2018年度に公表した。同ガイドラインの詳細は、下記URLを参照。

<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/declaration/lgbt/index.html>

東京女子医科大学における女性医療人活動支援

東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター
(新井田素子)

Promotion report of Gender equality in Tokyo Women's Medical University

*Tokyo Women's Medical University Career Development Center for Medical Professionals
(Motoko Niida)*

Abstract: Tokyo Women's Medical University (TWMU) is a medical university with modern and sophisticated educational, clinical and research foundations for over one hundred years. Traditionally all of our undergraduate schools, Schools of Medicine and Nursing are devoted to develop women's professions. The uniqueness of TWMU derives from the founder's strong volition to establish women's professions. Her conviction, "sincerity and compassion", enlightens our commitment to medical services and care for our clients. Five clinical institutes provide a wide range of medicine including community-based medicine and highly specialized medicine.

TWMU Career Development Center for Medical Professionals was established in 2017 to replace Gender Equality Promotion Office. The center aims to foster superior women medical professionals with leadership skills and self-confidence needed to lay the path toward a better society.

To achieve these goals, TWMU Career Development Center for Medical Professionals comprises 5 organizations under one umbrella: ①Yayoi Academia, ②Women's Health Care Professionals and Research Support, ③Professional Reentry Support for Women Physicians, ④Career Development Support for Professional Nurses, ⑤Diversity Promotion Office.

＜女性医療人キャリア形成センター＞

本センターは、傘下に紹介する以下5部署から構成され、女性医師・看護師の勤務継続に対する支援、セーフティネットを提供するだけでなく、医療人としてのキャリア形成とその促進、リーダーシップの育成を通じて、より良い社会を作るためにリーダーとして活動する女性医療人を育成する一段上のステージを目指している。

＜彌生塾＞

“社会のリーダーとしてより良い社会を作るために活動することを目指す女性医療人のための塾”として設立された。研究力向上セミナー・キャリアセミナー・ピアラーニング・有識者による講演会などを通して、リーダーに必要な能力・知識を総合的に養成している。さらに個別面談を行うことにより、個別のキャリア形成についても支援している。

＜女性医師・研究者支援部門＞

子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備している。保育所やファミリーサポート、短時間勤務制度の運用により成果を挙げている。2018年10月からは研究支援員制度も開始した。

＜女性医師再研修部門＞

相談者の出身大学を問わず、全国から復職相談を受け付けており、それぞれの臨床経験や離職期間、家族状況などを考慮し、研修日数や時間、内容を決めるオーダーメイドの研修を実施している。また、ハンズオン実習などを開催し、女性医師同士の交流の場も提供している。研修実施者の75%が復職を果たすなど、復職支援の成果をあげている。

＜看護職キャリア開発支援部門＞

新人の職場適応支援、キャリア開発支援、キャリアカウンセリング、フレキシブル勤務体制・保育支援などを行っている。看護学部・看護専門学校教員と臨床現場の看護職が共同で企画・運営を行い、看護職が生涯にわたり中断することなく成長し続け、仕事を継続できるようになるためのキャリア支援システムの構築と発展を目指している。

＜ダイバーシティ環境整備事業推進室＞

文科省の補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」事業の司令塔。各部署と連携して、「勤務環境の整備」、「上位職への積極登用」、「研究力向上とリーダー養成」をすすめている。

女性研究者の活躍可視化に向けた男女別論文業績分析

九州大学(上瀧恵里子・男女共同参画推進室・office@danjyo.kyushu-u.ac.jp)

Evidence-Based Examination of Research Activity in Kyushu University Kyushu University (Eriko JOTAKI・Office for the Promotion of Gender Equality)

Since 2006, Kyushu University has provided many kinds of support and enhance programs for female researchers using MEXT funds and the University's original funds. In 2017, Kyushu University started "Gender-analysis" of research activities using the "SciVal" of Elsevier. As a result of the analysis, evidence-based examination revealed the important fact contrary to initial expectations.

【九州大学の女性活躍促進策】

九州大学は世界的研究・教育拠点となることを目指し、ダイバーシティ人材の活用・育成に取り組んでいる。その第一歩が女性の活躍促進である。2006年以降文部科学省の補助事業も含め、下記にあげる多様な支援を実施し、女性研究者の働きやすい環境を整備し、一定の成果を上げてきた。

(1)ワーク ライフ バランス

- ・研究補助者雇用支援(2007～)
- ・3つの学内保育施設の開設(2009～)
- ・教員出産時支援教員採用制度(2010～)
- ・教授・准教授育児期支援(2014～)
- ・育児シッター利用経費支援(2015～)

(2)研究助成・研究力向上

- ・学内競争的研究資金「女性枠」設置(2006～)
- ・国際学会派遣・英文校閲経費支援(2007～)
- ・スキルアップセミナー開催(2007～)
- ・出産・育児復帰者研究費支援(2015～)

(3)女性研究者増加策

- ・部局研究費の傾斜配分指標に女性教員の在籍状況を導入(2008～)、増加人数追加(2013～)
- ・「女性枠設定による教員採用・養成システム」実施(2009～2018)
- ・配偶者帯同雇用制度(2017～)

【男女別論文業績分析結果】

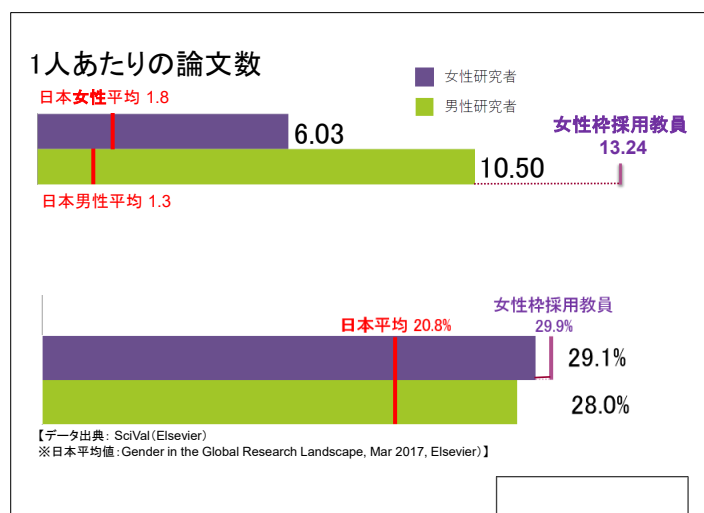
女性研究者は増加傾向にあるが、その活躍状況は学内外に認知されにくい。そこで活躍可視化のためにIR室の協力の下、エルゼビア社製研究分析ツール「SciVal」を用い、2017年に男女別論文業績分析を実施し、女性枠で採用された教員の研究業績が平均し

て高いことがデータとして裏付けられた[1]。さらに2018年に男女別・職位別の論文業績分析を実施し、若手女性枠教員(講師・助教)が、出産・育児などのライフイベントと両立しながら優れた研究業績を輩出していることが明らかになった。テニュア教員となり安心して出産・育児ができる環境にあれば、家庭と研究の両立が十分に可能であることを定量的に示すことができた[2]。

以上の結果から、現在も一部では存在している①女性枠採用教員の業績は一般採用者に比べて劣る、②研究業績は職位に比例する、③家庭と仕事の両立は困難である。などの無意識のバイアス問題を解決する手段として「データ」を使った議論が効果的であることが明らかとなった。

Reference

- [1] ポリモルフィア Vol.3, pp.33～37 (March 2018)
- [2] ポリモルフィア Vol.4, pp.40～47 (March 2019)



九州大学における男女別論文業績分析例

九州大学男女共同参画推進室

URL: <http://danjyo.kyushu-u.ac.jp/>

広島大学における産学官連携による女性研究者活躍促進の取組

国立大学法人 広島大学 男女共同参画推進室長 石田 洋子

TEL:082-424-4428 FAX:082-424-4355 E-mail:syokuin-sen@office.hiroshima-u.ac.jp

URL:https://www.hiroshima-u.ac.jp/gender

Hiroshima University's Industry-Academia-Government Collaborative Challenges to Support Women Researchers

Yoko Ishida, Director, Gender Equality Promotion Office, Hiroshima University

Abstract: Hiroshima University (HU) has committed itself to realizing gender equal environment by valuing suitable balance between work and daily living for all university teachers and staff members and by making various attempts to support women researchers' research activities and leadership, since its announcement of Gender Equality Declaration in 2006. With the JST funding programs, HU has conducted various approaches including establishing a university-based nursery school; providing young female scholar encouragement awards etc. by setting goals with specific targets. HU was certified as a childcare-supporting university with "Kurumin Mark" in 2010 and in 2014. HU established Research Center for Diversity and Inclusion to carry out researches and practices related to diversity in 2016. New activities for further strengthen gender equality have been implemented since 2017 under the Career Advancement Project for Women Researchers (CAPWR), which is a JST funding program of "Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (Collaboration Type)," in collaboration with academic/research institutes, local governments, and private companies in order to further supporting women researchers: especially, focusing on women researchers in STEM field.

<本学のこれまでの取組状況>

広島大学は、2006年に男女共同参画宣言を表明し、2008年には男女共同参画担当副理事を配置、並びに男女共同参画推進室を設置し、積極的に男女共同参画を推進する体制を整備してきた。

以後、男女共同参画推進の行動計画に基づいて、広島大学の教職員が、性別にかかわらず、それぞれの能力を発揮し、また高めあえる職場環境・教育現場にすることを目的として、男女共同参画に取り組んでいる。

具体的には、公募文書へのポジティブ・アクション記載と女性教員採用割合部局別数値目標の決定とその定期的モニタリング、学内保育施設の拡充・増設、育児介護支援、学童保育の実施、病後児保育利用料の補助とキャリア支援担当員の配置、などを通して仕事とライフ・イベントの両立を目指し、働きやすい職場環境の整備に努めている。

女性研究者支援に当たっては、女性研究者奨励賞の授与、既在籍女性教員に対するポストアップや女性限定公募といったポジティブ・アクションの実施を行うとともに、企業との連携（インターンシップなど）などを展開している。

上記の積極的な取組により、女性研究者・女性管理職の割合は徐々に増加し、くるみんマーク

(2010年・2014年認定事業主)を取得している。

さらに、広島大学は、2016年にダイバーシティ研究センターを設立し、多様性から新たな価値を創造する研究と実践に取り組んでいる。

<国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム (Career Advancement Project for Women Researchers (CAPWR))>

広島大学は、2017年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択され、「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム(CAPWR)」を、共同実施機関であるマツダ(株)、デルタ工業(株)、(一財)国際開発センターを中心に、地域の大学や研究機関、地方自治体、民間企業等の38機関と連携して実施している。

同事業では、研究環境整備、女性研究者の研究力向上・リーダー育成、女性研究者の積極採用・上位職登用、ダイバーシティ研究環境実現モデル開発の4つの取組を通して、大学と地域の企業等の女性研究者に新たな知識や機会を提供し、地域に根差しつつ、国際的な視点も有する女性研究者、特に理工農学系女性研究者の量的・質的拡充を目指している。

埼玉大学 ダイバーシティ研究環境実現に向けての取組と成果

埼玉大学 男女共同参画室 ダイバーシティ推進オフィス

Diversity Initiatives and Effects at Saitama University

Diversity Promotion Office, Saitama University

Saitama University established the “Office of Gender Equality” in 2009 and announced the “Saitama University Gender Equality Declaration” in 2010. We have goals in 2022 and are working to diversity programs. The one of the goals is to increase the female researcher hire ratio at the Graduate School of Science and Engineering to 20% or more. Various support programs that enable both research and life events are implemented. Furthermore, positive actions such as women's limited recruitment started.

1. ダイバーシティ研究環境実現に向けた目標

埼玉大学は、教養、経済、教育、理学、工学の5学部と人文社会科学、教育学、理工学の大学院3研究科を擁する総合大学である。2010年度には、「埼玉大学男女共同参画宣言」を発し、男女共同参画の精神に則った教育・研究・就業の場であるのみならず、男女共同参画社会に向けた積極的な役割を担うという姿勢を打ち出している。2017年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)に採択され、ダイバーシティ環境実現に向けた取り組みを行っている。本事業の目標(2017年度～2020年度)は以下の通りである。

- ・理工学研究科の女性教員採用比率:20%以上。
- ・理工学研究科の女性教授比率:3.6%、女性准教授:10.0%。
- ・「彩の国女性研究者ネットワーク」の構築、女子学生の博士課程進学促進、女性研究者の研究力向上、女性研究リーダー育成。
- ・女性教員採用比率:人文社会系40%、教員養成系30%、自然科学系20%以上、女性事務職員50%以上。
- ・研究とライフイベントの両立を可能にする支援システムの全学への定着。

2. 主な取組と効果

(1) ポジティブアクション「戦略的ポストサイクルシステム」

理工学研究科において理系女性教員採用を積極的に増やすために、教授らの定年退職と後任補充人事に先立ち、期間限定で学長裁量ポストを女性教員ポストとして、希望する学科に順繰りに貸し出す「戦略的ポストサイクルシステム」を導入した。これによって「女性限定公募」が実現した。女性限

定公募ではそれ以外の公募と比べて女性の応募者が多く、優秀な女性研究者の採用につながるという効果が見られた。

(2) 彩の国女性研究者ネットワーク

埼玉県と埼玉大学との協働で構築した、埼玉県域の女性研究者と技術者の活躍推進を目的としたネットワークである。2019年9月現在、埼玉県内3大学、埼玉県5研究機関、埼玉県域民間企業12社、および理化学研究所が参画している。このネットワークにより、研究者・技術者の働きやすい環境整備に関する情報交換や、次世代育成のための学生を対象にした取組を行い、埼玉大学では理工学研究科において、博士課程後期進学者の割合が増えている。今後、理系女性研究者のキャリアパス拡大につなげたい。

(2) 学長特別賞「みずき賞」創設と、キャリアアップ支援

学長賞の中に、女性を対象とした特別賞(みずき賞)を創設し、研究リーダーとして活躍する自然科学系の女性教員に授与している。また、理工学研究科内公募により、高いアクティビティと意欲を有する若手女性教員を対象に研究費を配分する「キャリアアップ支援」を行った。これらのとりくみにより、女性教員のモチベーションを高め、研究を後押しし、昇任へとつなげている。

(3) 子育て・介護中教職員支援

男女を問わず全教職員対象に、出産・育児、介護などのライフイベントとの両立のための相談と、女性教員を対象に、研究室運営や研究室・職場の人間関係についての相談を行うことができる「ダイバーシティ相談」を開設した他、育児中、介護中教職員のランチミーティングの開催などのネットワークづくり、出産・育児、介護中の教員の研究支援を行っている。これにより、誰もが研究し働きやすい職場環境作りの実現をめざしている。

大阪市立大学:大学におけるジェンダー平等の実現を目指して

西岡英子(大阪市立大学 女性研究者支援室 プログラムディレクター、特任准教授)

大前佳苗(大阪市立大学 女性研究者支援室 コーディネーター)

澤田彩(大阪市立大学 女性研究者支援室 コーディネーター)

TEL : 06-6605-3661 E-mail : ocu-support-f@ado.osaka-cu.ac.jp

URL : <http://www.wlb.osaka-cu.ac.jp/>

<https://diversity-oows.jp/>

Realization of Gender Equality in Universities

Osaka City University Support Office for Female Researchers

<ジェンダー平等の取組経過>

大阪市立大学は、平成24年に女性研究者支援室を設置し、平成25年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業(一般型)」の実施機関に選定された。また、平成27年度は学長名による「男女共同参画推進宣言」を行い、全学的な取組を行ってきた。平成29年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(平成29年度～平成34年度、共同実施機関:大阪教育大学・和歌山大学・積水ハウス株式会社)に採択され、さらに南近畿の企業や研究機関へと連携を拡大している。

大阪市立大学における女性研究者比率は補助事業を通じて、平成24年度13.2%から平成28年度16.0%に増加した。平成29年度からの補助事業を通じて、20.0%を目指す。

<女性研究者の支援体制>

平成28年3月に「ダイバーシティ推進センター」を設置し、平成29年10月からは、補助事業の運営主体である「女性研究者支援室」に室長(学長補佐)、プログラムディレクターを新たに配置した。副研究科長からなる運営会議と各研究科から選出された教員からなる専門部会を設けている。

<主な取組実績・計画>

本補助事業は、4連携機関の特色を活かし、女性研究者を代表とする連携型共同研究の促進、国際的有力大学との連携によるグローバルキャンパス化、女性研究者の限定公募や採用・昇任のインセンティブ制度などのポジティブアクション、仕事と家庭の両立支援事業の共同実施などを通して、南近畿の研究機関への波及を目指す。具体的な取組は、右記のとおりである。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

- ・研究支援員制度
- ・保育サポート事業(保育利用料補助制度)
- ・「ダイバーシティ保育サポーター」養成セミナー / 保育サポーター登録制度の実施
- ・「介護相談窓口」開設(平成30年11月～)
- ・女性研究者メンタープログラムの実施

(2)女性研究力向上・リーダー育成

- ・産学官連携ウィメンズユニット(WUSO)
平成30年1月より、積水ハウス株式会社に本学女性特任教員1名を派遣し、共同研究プロジェクトを開始した。
- ・連携型共同研究助成

連携機関所属の女性研究者を研究代表者とし、2連携機関以上が実施する共同研究費助成制度。平成29年度、平成30年度、令和元年度は、各15件、23件、24件の課題を採択。

・国際アドバイザーの就任

ウィスコンシン大学マディソン校女性科学・技術リーダーシップ機構(WISELI)ディレクター、エイミー・ウェント氏が平成30年6月、国際アドバイザー就任。平成31年1月、多様な人材確保のための人事選考ワークショップ実施。

・外国語論文校閲・翻訳費用助成事業

・連携機関共同によるメンタープログラム実施

(3)女性研究者の上位職登用促進

- ・プロモーションメンター制度
- ・連携機関による管理職研修の共同実施

<今後の取組課題>

1. 採用・昇任に係る部局間競争的インセンティブ付与等による女性研究者比率の増加
2. 南近畿女性研究者支援ネットワークづくり
3. 連携機関内「介護相談室」ネットワークの構築

(国研)森林研究・整備機構におけるダイバーシティ推進の取り組みについて

国立研究開発法人森林研究・整備機構(高山 範理¹ 宇京 斉一郎¹ 久保田 多余子¹ 松原 恵理¹ 星野 大介¹ 田中 良平¹ 工藤 直樹¹ 菅原 久美子¹・森林総合研究所・¹hanri@ffpri.affrc.go.jp ¹ukyo@ffpri.affrc.go.jp)

Promotion of Diversity and Inclusion in Forest Research and Management Organization

Forest Research and Management Organization (Norimasa TAKAYAMA¹ Seiichiro UKYO¹ Tayoko KUBOTA¹ Eri MATSUBARA¹ Daisuke HOSHINO¹ Ryohei TANAKA¹ Naoki KUDOU¹ Kumiko SUGAWARA¹・¹Forestry and Forest Products Research Institute・¹hanri@ffpri.affrc.go.jp ²ukyo@ffpri.affrc.go.jp)

Abstract: The Forestry Research and Management Organization (FRMO) is promoting various environmental improvements on the working circumstances for diversity promotion. In view of a wide range of activities, in April 2016 the name and system of the “Encourage Promotion Headquarters” was changed to “Diversity Promotion Headquarters”, and the “Gender Equality Office”, which was the secretariat of the Headquarters, also renamed to “Diversity Promotion Office.” In the future, we will continue to disseminate various initiatives such as public relations and seminars both inside and outside of the organization, and promote diversity and inclusion throughout the FRMO in cooperation with local communities and other research institutions and universities.

1. ダイバーシティ推進の取組

森林研究・整備機構(機構)は、職場のダイバーシティ推進に向けて様々な環境の整備を進めています。幅広い活動を視野に、平成28年4月には「エンカレッジ推進本部」の名称と体制を「ダイバーシティ推進本部」に変更し、推進本部の事務局である「男女共同参画室」も「ダイバーシティ推進室」に改称しました。今後も引き続き、PR やセミナーなど様々な取組について機構内外へ発信するとともに、地域社会や他の研究機関等と連携し、機構全体のダイバーシティを推進しています。

2. 機構内のダイバーシティ推進の意識啓発

平成29年4月の森林研究・整備機構への改称にあわせて、第4期中長期目標期間における機構としてのダイバーシティ推進の取組に関するパンフレットを作成し、ダイバーシティ推進の方針について機構内外に発信しています。

また、ダイバーシティ推進室のホームページ(H P)では、職員の育児や介護の経験を紹介する記事の連載、各種のガイドブックや男女共同参画の意識調査結果をとりまとめたリーフレットを作成しPDFで配布しています。活動を通じて、ダイバーシティ意識の向上と働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

一方、意識啓発のためのセミナー等として、研究所にて継続的に「ワーク・ライフバランス」・「健康づくり」・「介護」等をテーマとしたセミナーを開催し、機構内別部門の整備センター・保険センターにおいてもダイバーシティ推進についての研修を開催しています。この

ほかに、内閣府が定めた男女共同参画週間(6月23日~29日)には、毎年、研究所正面玄関においてポスターの企画展示やどんぐりルーム(一時預り保育施設)の見学会を実施しています。これらの活動を通じて、意識の向上と働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

3. 情報発信および他機関との連携

森林機構では、令和元年9月から全国規模でダイバーシティ推進に取り組む研究・教育機関のコンソーシアムであるダイバーシティ・サポート・オフィス(D S O)の事務局機関として活動しています。また、つくば市の男女共同参画学協会連絡会、筑波女性研究者支援協議会等にも参画し、シンポジウムやワークショップ、機構のH P、パンフレット等を活用してダイバーシティ推進の取組についての情報発信を行っているところです。



写真 森林浴の森

森林機構は森林・林業・林産に関する研究、水源林造成事業、森林保険事業などの事業を行なう国立研究開発法人です。

国際型女性研究者育成プログラムにおける次世代育成支援
国立大学法人富山大学（佐藤杏子・大学院理工学研究部（理学）助教・男女共同参画推進室副室長）

Support for the development of the next generation
on the program for the advancement of international female researchers

University of Toyama (Kyoko Sato, Office for promotion of Gender Equality)

Abstract: A program for the advancement of international female researchers was conducted to advance gender equality and the empowerment of female researchers. Female researchers were encouraged to study overseas, in order to enhance their career and to learn gender equality, and reported their experience to younger researchers as a role model afterward. Toward the next new step to increase number of female students and young researchers, we advanced organization of female students' team called "Smart Pollinator" earnest starting last year. We promote the development of the next generations by continuing these activities.

富山大学は、平成 27 年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）事業に採択され、新しい試みである国際型女性研究者育成プログラムを導入し、国際的視野を持ち高い実力を有する女性研究者を増やし、上位職への登用機会が高まることを目指している。さらに、彼女らが若い世代に波及効果を与えることで、次世代女性研究者の層と質が充実することを目的として、特に女性比率の少ない理系女子大学院生を中心とした次世代育成に注力している。

■取組の概要と成果

平成 30 年に次世代育成・裾野拡大を目的として、理系女子大学生チーム「スマート・ポリネーター」を創設し、女子中高生並びに本学的女子学生に科学の魅力・研究の面白さを伝える、新たな次世代育成の取組をスタートさせた。初年度 4 名が学長により任命され、以下の 3 つの取組を成功させた。

①夏のリコチャレ 2018 科学の爽りを届けます～スマート・ポリネーターが誘う科学の世界～：スマート・ポリネーターによる理系の研究・ライフスタイルの紹介、ポスター展示、オリジナル「リケジョロールモデル集」の配布、個別進路相談会を行った。

②中高生・学生向け国際シンポジウム *Petite Science in GiC*：国際的視野に立ったサイエンスの魅力を伝えることを目的に、若手女性研究者による国際シンポジウムを開催した。

③ハッピー・キャリア・ミーティング：本学 OG を含む若手女性研究者 3 名による講演会・座談会を開催した。

以上の初年度実績を足掛かりに、令和元年度には 11 名的女子大学院生を任命するとともに、次世代育成支援を継続することで、国際型女性研究者育成プログラムの推進を図っている。

①*Petite Science in 富山大学*：平成 31 年 4 月 13 日、海外で活躍する日本人女性科学者による特

別講演会「*Petite Science in 富山大学*」を開催した。モナシュ大学マレーシア校の Tomoko Soga 博士をお招きし、「私とサイエンスをつなぐ不思議なスパイス：未来の科学者さんたちへ」と題したご講演をいただいた。マレーシアの大学の研究環境や教育現場の様子、各研究領域の紹介、先生の歩んで来られた道のり、現在の研究内容について、楽しく、わかりやすくお話ししていただいた。学内外から女子高校生を中心に 20 名が参加した。質疑応答・ディスカッションでは高校生から多くの質問が挙がり、それぞれに丁寧に回答していただいた。参加者アンケートでは、「海外での研究や大学にとっても興味を持った。詳しい話を聞けて良かった。」「研究者の方に直接お話を聞けて良かったです。」などの感想があった。

②ハッピー・キャリア・ミーティング：理系女子大学院生チーム「スマート・ポリネーター」がオーガナイズする部局横断ミーティング「富大☆ハッピー・キャリア・ミーティング 教えて先輩！女性研究者のプロの仕事」を 10 月 27 日に開催する。大学院生のライフスタイルや研究活動、大学院修了後のキャリアなど、分野を超えた女性研究者の活動を見て、聞いて、質問して、若い女性たちが自分の将来をイメージできる場を設ける予定である。さらに、保護者や友人と参加して気軽に相談できる特設の進路相談ブースにて、スマート・ポリネーターらが理系進路への疑問や悩みを受け付ける。

■今後の活動へ向けて

女子大学院生チームによる活動は、参加した女子中高生や学生にとって、極めて満足度の高いことから、このような次世代育成・裾野拡大を目的とした活動は、女性研究者比率が伸び悩む理工系分野のダイバーシティ推進の糸口として、極めて重要で有用であると考えられる。これらの取組を今後も継続し、ダイバーシティ推進を目指していきたい。

男女共同参画学協会連絡会規約

制定 平成 15 年 3 月 7 日

改定 平成 16 年 9 月 17 日

改定 平成 17 年 9 月 15 日

改定 平成 21 年 3 月 25 日

改定 平成 25 年 6 月 26 日

改定 平成 26 年 8 月 4 日

1. 位置づけ・名称

本会は非営利の任意団体で、「男女共同参画学協会連絡会」(以下「本連絡会」)と称する。

2. 目的

学協会間での連携協力を行いながら科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い、社会に貢献することを目的とする。

3. 事業

3.1 本連絡会は、上記目的を達成するために次の事項に関する協議・事業を行う。

- (1)男女共同参画事業の企画、運営に関する事項
- (2)広報、調査研究、研究発表、情報収集等の活動に関する事項
- (3)国内外の学会等との連携事業に関する事項
- (4)その他、目的を達成するために必要な事項

3.2 本連絡会の事業年度は、毎年 11 月 1 日に始まり、翌年 10 月 31 日に終わる。

4. 会員・組織・責務

4.1 本連絡会の会員は、上記 2.の目的に賛同する日本国内の科学・技術系学会、協会とする。会員は運営委員会において採決権を有する正式加盟学協会と採決権を有しないオブザーバー学協会とする。会員の資格は、別途定める。

4.2 本連絡会への入会は、文書で申し出て、本連絡会の承認を得る。また、退会は文書で申し出る。

4.3 本連絡会に委員長1名と副委員長、監事を置く。委員長、監事は正式加盟学協会の互選により選任する。副委員長は委員長が指名する。

4.4 委員長、監事と副委員長の任期は 10 月から1年間とする。ただし、再任を妨げない。

4.5 委員長は、本連絡会を代表し、事業のとりまとめを行う。副委員長は、委員長を補佐し、委員長の事故・不在等の場合にその任務を代理する。

4.6 監事は運営委員会で決算書の監査報告を行う。

5. 運営委員会

5.1 本連絡会に、事業全般についての意思決定を行う運営委員会を置く。

5.2 運営委員会は、委員長が招集し、正式加盟学協会の3分の2の出席(委任状を含む)を以って成立する。

5.3 委員長は運営委員会の議長をつとめる。

5.4 運営委員会にはオブザーバー学協会の参加も認める。

6. 採決

承認事項並びに議長の判断により、採決の必要のある場合には、運営委員会において、出席正式加盟学協회를各一票とし、その過半数の投票で可決する。可否同数の場合は、議長が決定する。

7. 分担金

会員は、本連絡会の運営にかかる経費を分担負担する。分担方法は別途定める。

8. 幹事学協会

委員長、副委員長の所属団体を幹事学協会とし、事務局業務を行う。幹事学協会は事業計画に基づく予算書を作成し、運営委員会の承認を得る。

9. 規約の発効、変更

規約の変更は運営委員会にて採決を以って行う。

10. 細則

この規約の施行に必要な細則は、運営委員会が別途定める。

本規約は、平成 26 年 8 月 4 日から適用する。

以上

男女共同参画学協会連絡会規約 細則

改定 平成 30 年 8 月 24 日

【項目 4.1 の定めによる会員の資格】

1. 学術研究の向上発達を図ることを目的とする団体であること
2. 名称、目的、事務所、構成員の資格及び代表者について定めがあること
3. 科学者、技術者により構成されている団体であること
4. 構成員の資格を、特定の地域や、大学、研究機関に限っていないこと
5. 構成員が 100 人を下回らないこと
6. 学術研究の向上発達を図るための活動が引き続き3年を越えて行われていること
7. 構成員による学術研究の発表または、討論のための集会を年1回以上開催していること
8. 学術研究論文発表のための刊行物を年1回以上刊行していること

【項目 7. の分担方法】

1. 分担金の基本的考え方

本連絡会の活動にかかる経費を事業年度ごとに会員で分担負担する。

2. 分担方法

(1) 当該事業年度予算額を会員学協会の規模に応じた比率で分担する。

(2) 分担は以下の比率とする

会員数 1 万人を越える正式加盟学協会:4、

会員数 5 千人を越える正式加盟学協会:2、

会員数 1 千人を越える正式加盟学協会:1.5、

会員数 1 千人以下の正式加盟学協会およびオブザーバー学協会:各 1

(3) 各学協会の分担額は、以下の額を超えないものとする

会員数 1 万人を越える正式加盟学協会:4 万円、

会員数 5 千人を越える正式加盟学協会:2 万円、

会員数 1 千人を越える正式加盟学協会:1 万 5 千円、

会員数 1 千人以下の正式加盟学協会およびオブザーバー学協会:1 万円

3. 分担金の算出および支払い時期

(1) 分担金は、運営委員会で承認された予算書に基づいて算出し、運営委員会に諮った後、会員学協会に請求する。

(2) 幹事学協会は決算書を作成し、監事の監査を受け、監査報告書とともに運営委員会に諮る。

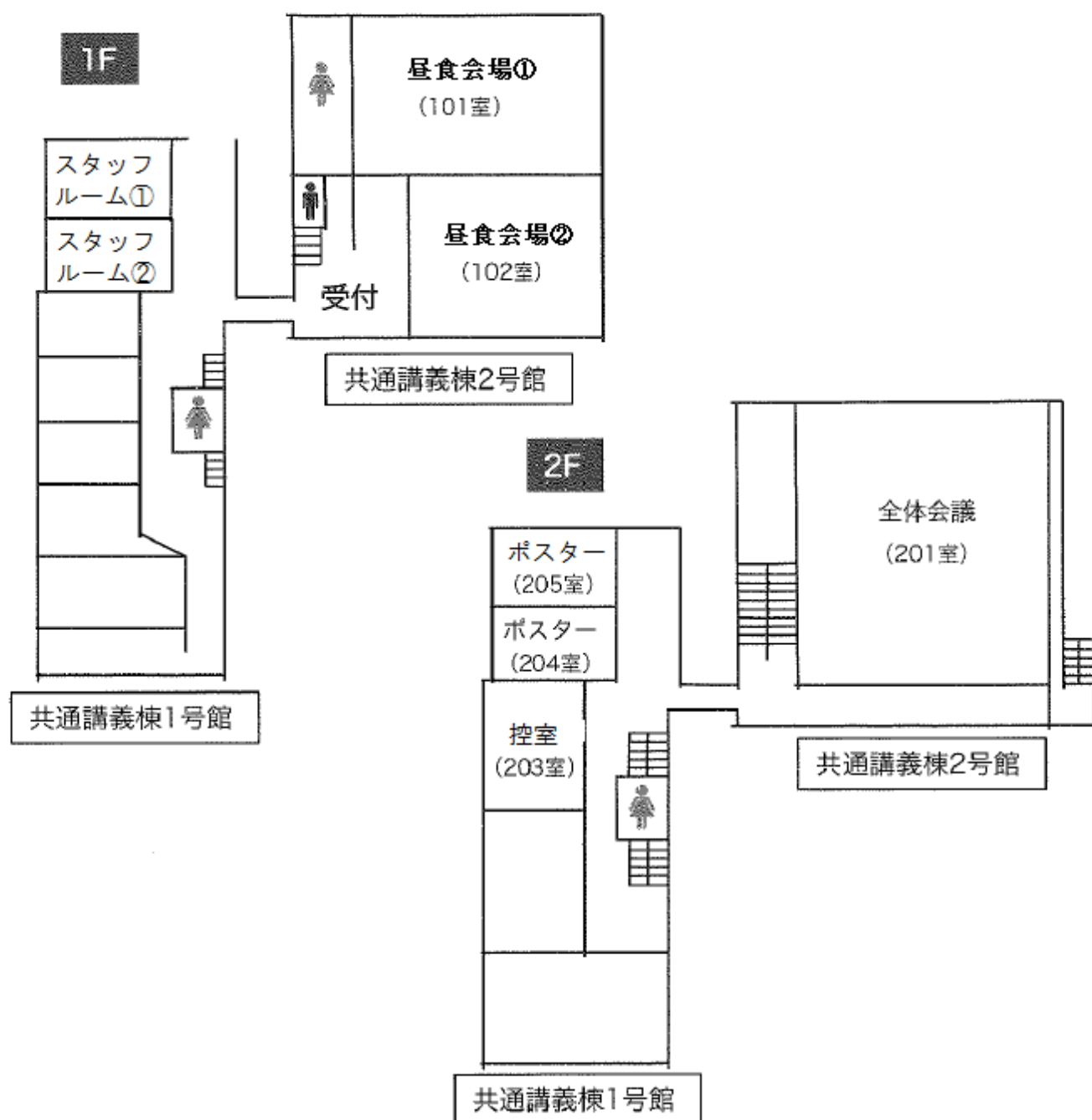
附則

1. 本規約細則は、平成 26 年 8 月 4 日(第 12 期第 4 回運営委員会)から適用する。
2. 本規約細則は、平成 30 年 11 月 1 日から適用する。

以上



会場案内



第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集

2019 年 10 月 12 日 発行

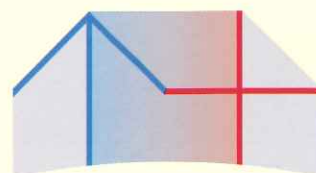
発行 男女共同参画学協会連絡会

e-mail: danjo_office17@djrenrakukai.org

Web page: <http://www.djrenrakukai.org/>

〔禁無断転載〕

本誌に掲載する著作物を転載または引用する場合には、掲載する刊行物に「第 17 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集」から転載または引用した旨を付記下さるようお願いいたします。



男女共同参画
学協会連絡会

第17期 男女共同参画学協会連絡会事務局



一般社団法人 日本物理学会